

令和3（2021）年度
専門職学位課程

授業評価報告書

令和4(2022)年8月

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科



目次

■ 掲載科目一覧

共通科目

■	教育課程の編成・実施に関する領域	(第1領域)	1
■	教科等の実践的な指導方法に関する領域	(第2領域)	4
■	生徒指導,教育相談に関する領域	(第3領域)	6
■	学級経営,学校経営に関する領域	(第4領域)	8
■	学校教育と教員の在り方に関する領域	(第5領域)	10
■	共通科目選択群		13

専門科目

■	教科領域力		34
■	発達支援力		49
■	マネジメント力		59
■	子ども対応力		68
■	学習指導改善力		73
■	教職実践力		77

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は、未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科目名	頁
01	共通科目	第1領域	PAAA010E	カリキュラムマネジメントの理論と実践 (旧)	1
02	"	"	PAAA011E	カリキュラムデザインの理論と実践	2
03	"	"	PAAA020E	教科カリキュラムの構成と理論	3
04	"	第2領域	PAAA030E	授業の理論と実践	4
05	"	"	PAAA040E	教育評価の理論と実践	5
06	"	第3領域	PAAA050E	生徒指導の理論と実践	6
07	"	"	PAAA060E	教育相談の理論と実践	7
08	"	第4領域	PAAA070E	学級経営の理論と実践	8
09	"	"	PAAA080E	学校組織マネジメントの理論と実践	9
10	"	第5領域	PAAA090E	今日的な教育課題とその対応 I (旧)	10
11	"	"	PAAA100E	今日的な教育課題とその対応 II (旧)	11
12	"	"	PAAA101E	今日的な特別支援教育の課題とその対応	12
13	"	共通科目選択群	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (英語)	13
14	"	"	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (社会)	14
15	"	"	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (数学)	15
16	"	"	PABA010E	学校支援のための教科教育実践演習 I (体育)	16
17	"	"	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (英語)	17
18	"	"	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (社会)	18
19	"	"	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (数学)	19
20	"	"	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (技術・工業・情報)	20
21	"	"	PABA020E	学校支援のための教科教育実践演習 II (体育)	21
22	"	"	PABA030E	チーム総合演習 (教育課題解決のためのプランニング)	22
23	"	"	PABA040E	教職協働実践演習 I (特別支援)	23
24	"	"	PABA040E	教職協働実践演習 I (教職系・子ども発達除く)	24
25	"	"	PABA050E	教職協働実践演習 II (特別支援)	25
26	"	"	PABA050E	教職協働実践演習 II (教職系・子ども発達除く)	26
27	"	"	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (社会)	27
28	"	"	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (数学)	28
29	"	"	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (体育)	29
30	"	"	PABA060E	教職基礎力開発演習 I (教員養成特別)	30
31	"	"	PABA070E	教職基礎力開発演習 II (数学)	31
32	"	"	PABA070E	教職基礎力開発演習 II (体育)	32
33	"	"	PABA070E	教職基礎力開発演習 II (特別支援)	33
34	専門科目	教科領域力	PBAA060E	言語文化教育 (国語) の学習指導と授業デザイン	34
35	"	"	PBBA030E	言語コミュニケーション教育 (英語) の教材開発演習	35
36	"	"	PBBA040E	言語文化教育 (英語) の教材開発演習	36
37	"	"	PBBA060E	言語文化教育 (英語) の学習指導と授業デザイン	37
38	"	"	PBCA010E	社会認識教育 (地理歴史) の内容構成演習A	38
39	"	"	PBCA030E	社会認識教育 (地理歴史) の教材開発演習A	39
40	"	"	PBCA050E	社会認識教育 (地理歴史) の学習指導と授業デザインA	40
41	"	"	PBCA110E	社会認識教育 (公民) の学習指導と授業デザインA	41

掲載科目一覧

※回答者3名以下の科目は、未掲載。

No.	科目区分	領域・科目群	科目コード	科目名	頁
42	専門科目	教科領域力	PBZA010E	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム	42
43	"	"	PBZA020E	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	43
44	"	"	PBDA040E	数理認識教育(数学)の教材開発演習B	44
45	"	"	PBDA050E	数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインA	45
46	"	"	PBZA030E	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム	46
47	"	"	PBZA040E	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	47
48	"	"	PBJA030E	健康・スポーツ教育(体育)の教材開発演習A	48
49	"	発達支援力	PPAA050E	遊びの原理に立つ幼児教育	49
50	"	"	PPAA070E	子ども家族支援の実際と課題	50
51	"	"	PPBA010E	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインA	51
52	"	"	PPBA020E	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインB	52
53	"	"	PPBA030E	特別支援教育における心理行動支援A	53
54	"	"	PPBA040E	特別支援教育における心理行動支援B	54
55	"	"	PPBA050E	特別支援教育における医療・教育の連携A	55
56	"	"	PPBA060E	特別支援教育における医療・教育の連携B	56
57	"	"	PPBA070E	特別支援教育における心理学・教育学の連携A	57
58	"	"	PPBA080E	特別支援教育における心理学・教育学の連携B	58
59	"	マネジメント力	PPCA010E	リーダーシップとコミュニケーション	59
60	"	"	PPCA020E	地域の教育課題と教育行政の実務	60
61	"	"	PPCA030E	教育法規実践演習	61
62	"	"	PPCA040E	学校危機管理の実践	62
63	"	"	PPCA050E	学校防災教育の開発	63
64	"	"	PPCA060E	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進	64
65	"	"	PPCA070E	家庭・地域・学校の連携構築	65
66	"	"	PPCA080E	学校ビジョンの構築と教職員の組織化	66
67	"	"	PPCA090E	教職員の人材育成と校内研修	67
68	"	子ども対応力	PPDA010E	子ども理解と支援	68
69	"	"	PPDA020E	いじめ・不登校等事例検討	69
70	"	"	PPDA030E	いじめ・不登校等チーム支援とコーディネート	70
71	"	"	PPDA040E	集団づくりとグループアプローチ	71
72	"	"	PPDA050E	道徳教育の理論と実践	72
73	"	学習指導改善力	PPEA020E	学校教育におけるICT活用と情報デザイン	73
74	"	"	PPEA030E	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	74
75	"	"	PPEA050E	学習者の心理とアクティブラーニング	75
76	"	"	PPEA060E	ワークショップ型研修の技法	76
77	"	教職実践力	PPFA020E	学習指導要領と教育課程B	77
78	"	"	PPFA030E	教育実践の事例研究A	78
79	"	"	PPFA040E	教育実践の事例研究B	79
80	"	"	PPFA050E	生徒指導実践演習A	80
81	"	"	PPFA060E	生徒指導実践演習B	81
82	"	"	PPFA070E	学級経営実践演習A	82
83	"	"	PPFA080E	学級経営実践演習B	83

令和3年度 結果報告書

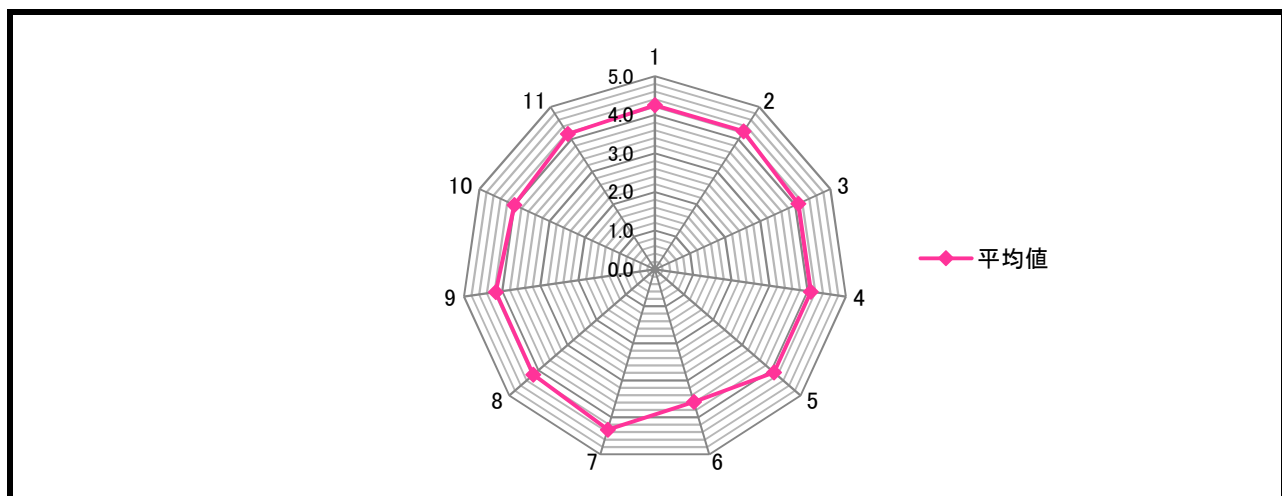
評価実施日	令和3年6月8日
-------	----------

授業科目名	カリキュラムマネジメントの理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 12名
担当教員名	余郷裕次, 鉄口真理子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	5	2				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	5	2				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	3	4				4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	4	2	1			4.1
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	4	2	1			4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	6	2	1	1		3.6
7	授業の進む速さは適切であった。	5	6	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	7		1			4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	2		1		4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	4	1	2			4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	5	1	1			4.2



教員のコメント

「カリキュラムマネジメントの理論と実践」は、「カリキュラムデザインの理論と実践」との合併授業のため、受講生が107名と多く、積極的受講態度を引き出すことが出来なかった。評価も他の少人数の授業科目に比較すると低いものであった。また、学部卒の院生と現職院生とが受講しており、しかも、現職院生は、教科も校種も異なるため、受講生のニーズすらつかめなかったのが正直な感想である。

また、8回のみ授業で、しかも、4回ずつ2名の教員がリレーしたため、学問的なまとまりが保証できなかった。しかし、自由記述には、「毎回違う先生が担当のため、欠席すると受講できないという反面もあるが、それぞれの立場からの授業をされていた。それぞれの先生の良さが感じられ、毎回新鮮な気持ちで受講でき、関心が高まった。」との好意的な感想もあった。励みにしたい。

さらに、自由記述に「学校と地域社会の連携を図りカリキュラムマネジメントを学校全体でまわすことが、どんなよさがあるのかを理解することができた。」とあり、授業がある程度の成果あげたことが推察された。

来年度は、レポート等の解析から受講生のニーズをつかみ、多人数の講義においても、積極的受講態度を引き出し、成果をあげられるように努力したい。

令和3年度 結果報告書

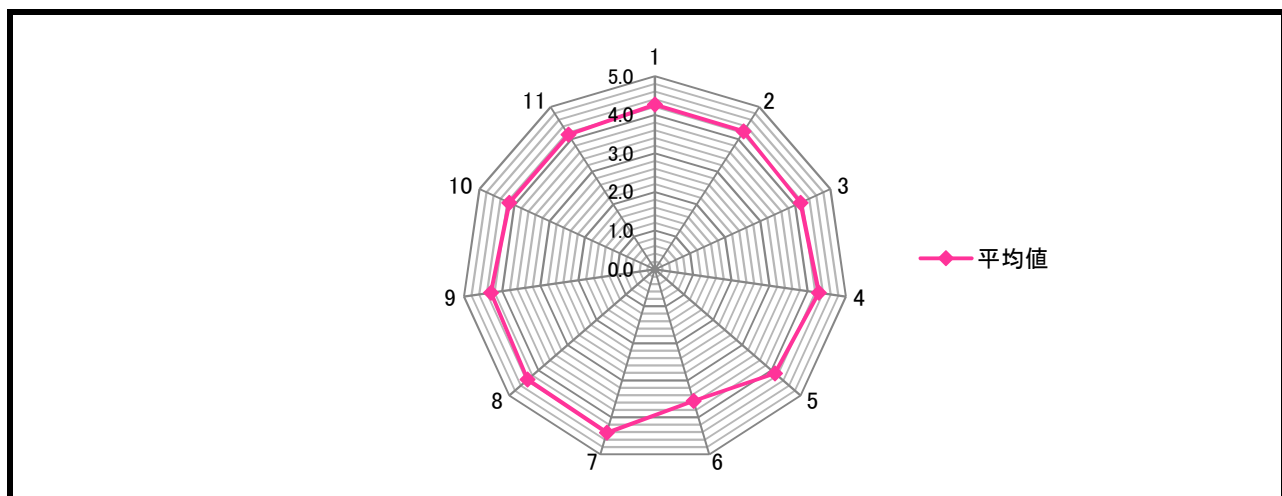
評価実施日	令和3年6月8日
-------	----------

授業科目名	カリキュラムデザインの理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 41名
担当教員名	余郷裕次, 鉄口真理子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	17	18	6				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	13	25	3				4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	12	23	6				4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	18	17	6				4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	16	14	11				4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	17	10	6	1		3.6
7	授業の進む速さは適切であった。	19	20	2				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	19	18	4				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	17	6				4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	16	16	8	1			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17	14	9	1			4.1



教員のコメント

「カリキュラムデザインの理論と実践」は、「カリキュラムマネジメントの理論と実践」との合併授業のため、受講生が107名と多く、積極的受講態度を引き出すことが出来なかった。評価も他の少人数の授業科目に比較すると低いものであった。また、学部卒の院生と現職院生とが受講しており、しかも、現職院生は、教科も校種も異なるため、受講生のニーズすらつかめなかったのが正直な感想である。

また、8回のみ授業で、しかも、4回ずつ2名の教員がリレーしたため、学問的なまとまりが保証できなかった。しかし、自由記述には、「①戦時中の国語教育について、興味深い講義でした。また、黙読や読み聞かせの取組も勉強になりました。②音楽科カリキュラムや、実践の動画は、教科横断的授業やカリキュラムを検討する上で、参考になりました。」との好意的な感想もあった。励みにしたい。

さらに、自由記述に「特に後半でご教授いただいたカリキュラムマネジメントについては、たいへん勉強になりました。具体的には以下3点を主にあげます。①カリマネに対して、現場のみなさんがどのように考えたり捉えたりなさっているのかがよく分かった。②カリマネを現場でいかすための自分の課題を見付けることができた。③実践紹介が動画で拝見でき、自分の知らない校種の現場も見られてとても参考になった。」とあり、授業がある程度の成果あげたことが推察された。

来年度は、レポート等の解析から受講生のニーズをつかみ、多人数の講義においても、積極的受講態度を引き出し、成果をあげられるように努力したい。

令和3年度 結果報告書

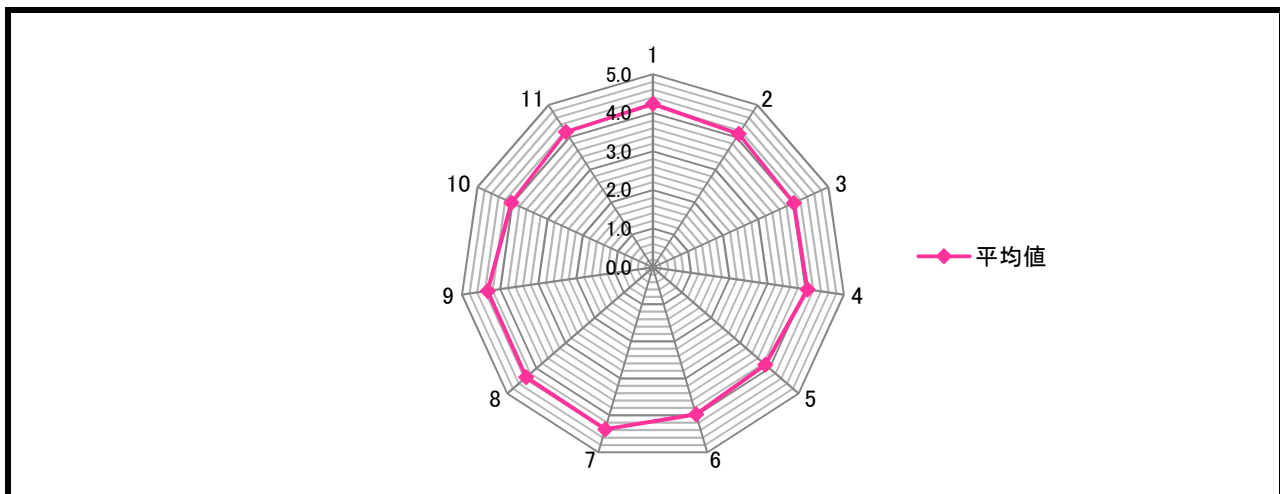
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	教科カリキュラムの構成と理論	
授業区分	共通科目	回答者数 64名
担当教員名	伊藤直之, 福井典代	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	28	25	9	2			4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	26	20	17	1			4.1
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	25	22	12	3	2		4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	26	21	13	2	2		4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	22	19	17	4	2		3.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	20	26	15	2	1		4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	31	26	7				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	31	25	7	1			4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	25	6	2			4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	26	19	14	5			4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	28	24	8	3	1		4.2



教員のコメント

授業評価としては「実践力」の点で課題が残る結果となったが、この授業では、教科のカリキュラムを対象としているために、実践力の定義を授業に置くならば、日本では学習指導要領に拘束される程度が大きいため、教師のカリキュラム編成に対する裁量の余地は少なく、やむを得ないと感じている。カリキュラム編成に対する教師の主体性も教育実践に含意されるということを粘り強く講じていきたい。しかしながら、一部の受講者(おそらく現職教員)からは「前期の授業の中で一番面白かった」との自由記述解答を得た。これを励みとして、今後のさらなる改善を検討していきたい。

令和3年度 結果報告書

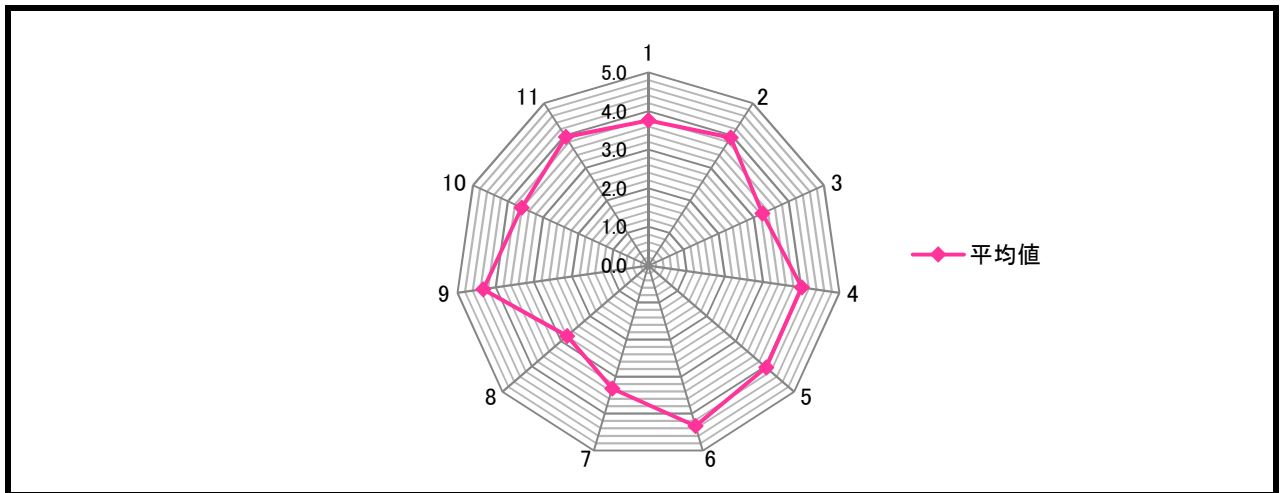
評価実施日	令和3年6月3日
-------	----------

授業科目名	授業の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 80名
担当教員名	早田透, 阪東哲也	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	12	47	14	4	3		3.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	48	12	3	1		3.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	38	14	14	8		3.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	23	43	9	2	3		4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	28	35	12	2	3		4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	37	35	7		1		4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	10	33	18	11	8		3.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	19	19	24	12		2.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	47	2	1			4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	13	40	15	7	5		3.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	24	40	8	5	3		4.0



教員のコメント

全体的な授業評価は概ね4前後であり, 良好であるといえる。特に「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。」という項目の達成度が高いことは, 本講義が成功的であったことを示唆するものである。なぜなら, 本講義が大学院1年生の必修科目であり, 大学院における授業・研究に取り組むために必要な様々な視点や示唆を学生に与えることを狙ったものだからである。また, 二人の講義者は意図的に, 理論側に焦点を当てた講義と, 実践側に焦点を当てた講義をそれぞれ分担して実施した。学生の関心がどちらにあったにせよ, 「学びを深めたい」と思ったことは, 両者の関係を扱う本講義の目的がかなりの程度達成されたといえる。

一方, 「授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。」の評価がやや低くなっており, 改善すべき課題である。自由記述によると, いくつかの点は学生側にも課題があり(例えば課題を勘違いしている, ツールがうまく扱えていない), ここに対しては教員側のより手厚いフォローや説明, あるいは全学的なシステムの構築などが必要である。別の点として多かったのが締め切りに関する課題であり, これは次年度に向けて教員側でのより慎重な調整・検討を要する。ただし, 講義が途中から急遽オンラインで実施されたが故に一定程度の課題を出さざるを得なかったという点が, この課題の背景に認められる。オンラインで実施した場合の対応について, 今後慎重に検討する必要があると認められる。

令和3年度 結果報告書

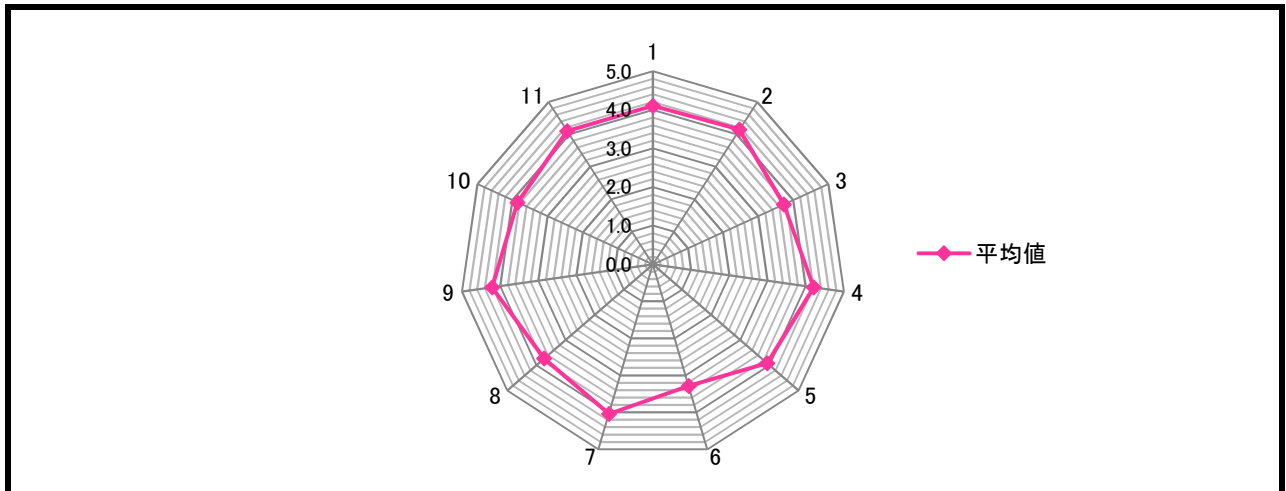
評価実施日	令和3年6月4日
-------	----------

授業科目名	教育評価の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 48名
担当教員名	村井万里子, 寺島幸生	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	16	21	11				4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	23	9				4.1
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	20	17	1	1		3.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	19	20	9				4.2
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	25	9	3			3.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	14	16	8	3		3.3
7	授業の進む速さは適切であった。	12	29	4	3			4.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	11	20	11	5	1		3.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	27	4	1			4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	11	24	8	5			3.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	15	26	5	1	1		4.1



教員のコメント

観点6 アクティブラーニング、観点3授業内容の分かりやすさ、観点8資料・課題等の適切性、3つが評価4に達していない。
(M)
他の項目は、平均して評価4であった。「教職大学院」授業としては、一般的な期待にそう授業ではなかったと考えられる。
(M)
その割には、受講生が積極的・主体的に取り組んでいると自覚していることが窺われる。授業者として考えさせられる結果である。
(M)
自由記述には、オンライン授業に対して、肯定的、否定的な両意見があり、個々の学生にとって最適な学びの機会をどう提供するか、個別最適化が今後の課題である。(T)

令和3年度 結果報告書

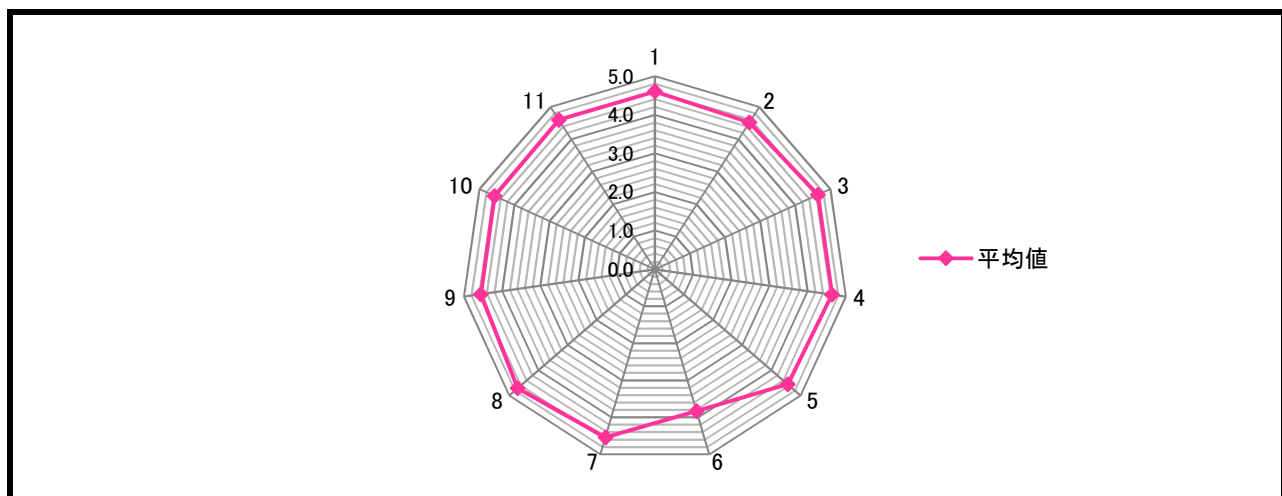
評価実施日	令和3年6月7日
-------	----------

授業科目名	生徒指導の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 61名
担当教員名	阿形恒秀, 池田誠喜	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	37	24					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	34	25	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	40	20	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	39	22					4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	39	17	5				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	15	26	16	3	1		3.8
7	授業の進む速さは適切であった。	36	22	3				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	47	11	2	1			4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	38	20	2	1			4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	38	20	3				4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	41	16	4				4.6



教員のコメント

5件法の評価の11項目の平均値は4.5となっており、昨年までと同じように、院生は概ね本授業を肯定的に評価していると考えられる。

自由記述からは、

- ・様々な子どもの実態について気づくことや理解を深めることができた。
- ・具体例を絡めながら話されていたので、現場に出た際のイメージをしながら授業を受けることができた。
- ・体験や理論を織り交ぜながら、講義が行われていた。
- ・現場で子どもの問題行動に対応するための教師の姿勢を学ぶことができた。
- ・実際に現場で対応するにあたっても使えそうなことや、自分の関わりを振り返る意味でも役だった。

などの回答から、生徒理解を深め、学校現場の実践につながる実践的な授業内容であると院生が評価していることが伺える。

また、

- ・対面授業の際には、ワークシートに書いたものを毎回近くの方と交流する手法も良かった。
- ・授業中のコメントを近くにいる人と共有という点がとても学びがあった。
- ・動画をみたりパワーポイントでわかりやすくまとめた点が多かった。

などの回答から、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業方法を院生が評価していることが伺える。

さらに、

- ・様々な資料が提示され、どの資料も学習内容の理解や、学びを深める資料であったため、非常に勉強になった。
- ・自分の学級経営についても一度、見直す視点がたくさんあり参考になった。

などの意見から、生徒指導の諸課題に対する院生の学習・研究意欲が高いことが伺える。1単位の授業という制約がある中で精選してどのような授業内容を構成すれば院生のニーズにより合致するのかを、引き続き検討していきたい。

令和3年度 結果報告書

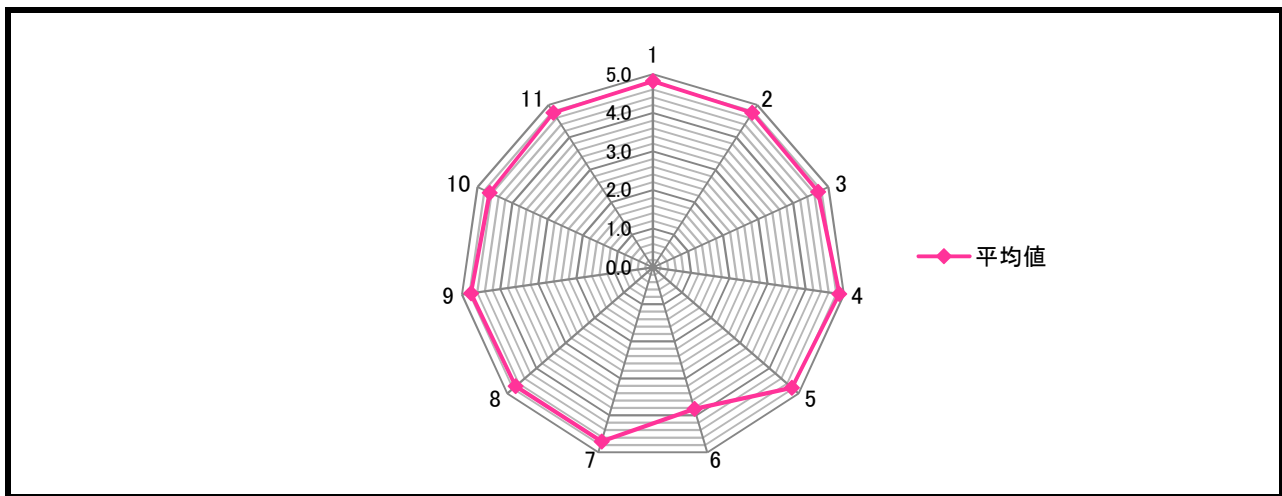
評価実施日	令和3年8月2日
-------	----------

授業科目名	教育相談の理論と実践	
授業区分	共通科目	回答者数 17名
担当教員名	小坂浩嗣, 池田誠喜	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	14	3					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	13	4					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	12	5					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	15	2					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	13	4					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	11	3	1			3.8
7	授業の進む速さは適切であった。	12	5					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	12	5					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	4					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	11	6					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	13	4					4.8



教員のコメント

回答率は、18%であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.6であった。カテゴリー別では、＜シラバスの内容について＞1項目は4.8、＜授業の内容について＞4項目は4.8、＜教員の授業の進め方について＞3項目は4.4、＜授業に対する満足度・意義について＞3項目は4.7であった。すべての分析項目において4.4以上の結果を得たことから、総合的に高い評価を得たと考えられる。

全体ならびに項目別の全10項目に4.6以上の高い評価を得た。これは、従来より取り組んできた①授業計画を授業者間で綿密に摺り合わせ授業に臨んだこと、②理論や原理を基にして実践的内容を事例紹介などを通して考察したこと、③最新の情報に更新して提示したことが評価に繋がったと考える。一方、アクティブラーニングについては、シラバスで明示した内容と実際とにズレがあったことが確認できた。原因の一つは理論解説と話し合いの時間配分が適切でなかったと考える。この点を踏まえ、より良い授業を追求していく姿勢と受講生のニーズを聴く謙虚な姿勢をもって、来年度も授業改善に取り組んでいきたい。

令和3年度 結果報告書

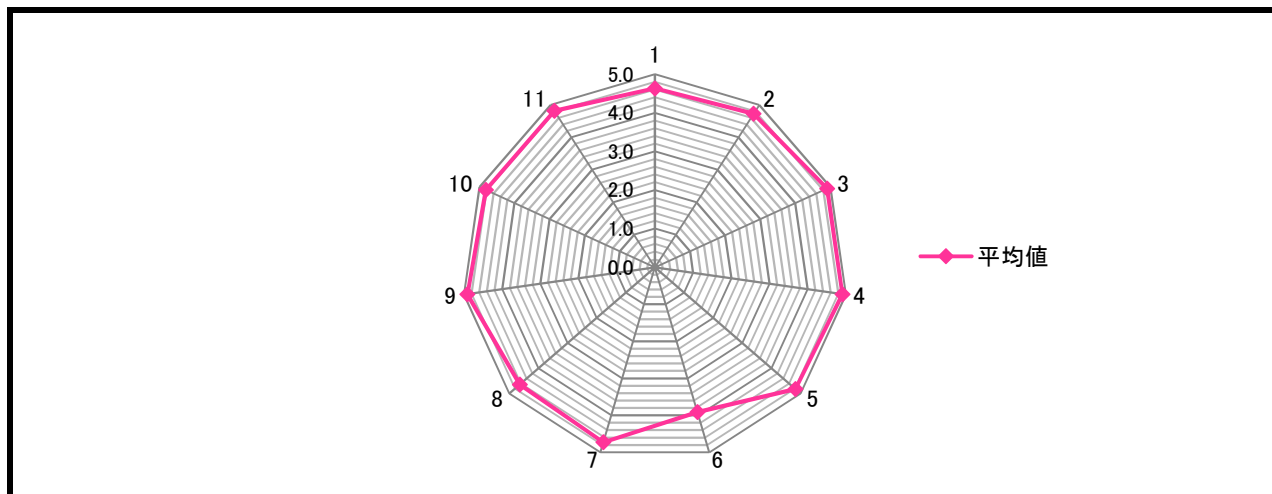
		評価実施日	令和3年6月9日
授業科目名	学級経営の理論と実践		
授業区分	共通科目	回答者数	11名
担当教員名	池田誠喜, 久我直人, 阪根健二		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	4					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	5	2	1			3.9
7	授業の進む速さは適切であった。	8	3					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	4					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2					4.8

4.7



教員のコメント

5件法の評価の11項目の平均値は4.7となっており、昨年までと同じように、院生は概ね本授業を肯定的に評価していると考えられる。

自由記述からは、

- ・子どもを大事にした学級経営をめざしていたものの、私の都合を子どもに押しつけていたように感じた。
- ・現場での実践につなげられるような内容だった。
- ・学校現場での具体的な事例を取り上げてくれており、自分の実践を省察する機会になった。
- ・各教員それぞれにオンラインでもわかりやすく工夫してくださりととてもよく理解でした。
- ・久我先生のオンラインでのご授業が対面でご講義を受けているのと変わらないくらいとてもよく分かりました。
- ・具体的な実践と理論をあわせて紹介くださったので、自分事として受け止めながら学ぶことができました。
- ・授業では実際にワークショップを交えたり、科学的な根拠をもとに、学級経営に関わった理論やデータをご紹介いただき、たいへん参考になりました。ご授業での内容は即現場に生かせることばかりでした。ありがとうございました。
- ・久我先生は毎回親身になり話をしてくださいました。
- ・久我先生の授業では、学級経営のことについて、整理された形でポイントを紹介してくれ、事例も交えて解説してくださいましたので、よくわかった。考えさせられる内容だった。
- ・Q-UやADなど、分析ツールやその解釈など、実践で活用すべき情報を整理できました。

などの回答から、学級経営についてを深め、学校現場の実践につながる実践的な授業内容であると院生が評価していることが伺える。

一方で、授業評価ではシラバスに示したアクティブラーニングの状況に満足していない受講生が一定数いることがうかがわれ、新型コロナ対応が引き続きコロナ対応下での授業を想定すると更なる工夫をしていきたい。

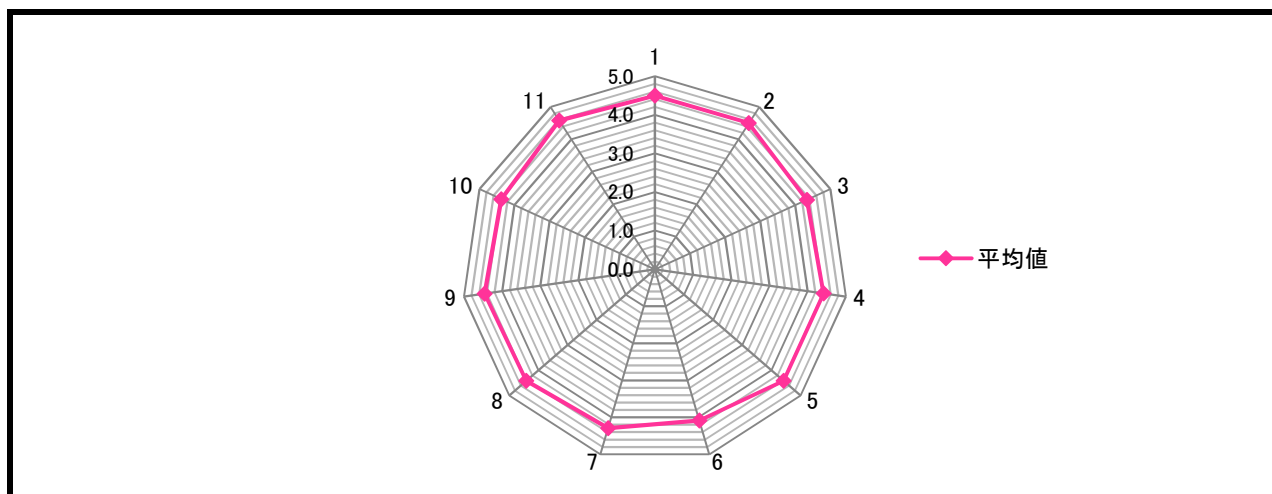
令和3年度 結果報告書

		評価実施日	令和3年8月4日
授業科目名	学校組織マネジメントの理論と実践		
授業区分	共通科目	回答者数	24名
担当教員名	久我直人, 芝山明義, 大林正史		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	14	8	2				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	14	8	2				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	11	11	1	1			4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	12	11		1			4.4
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	13	10			1		4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	10	6				4.1
7	授業の進む速さは適切であった。	12	9	1	2			4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	13	9	1	1			4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	11	1				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	11	11	2				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	15	8	1				4.6



教員のコメント

全ての項目で一定の評価を得ることができた(全ての項目で4.1以上であった)。
 その理由として、授業内容において、今日的な教育課題に対応した理論と実践事例を系統的に配置したことが挙げられる。
 特に、学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に、事例に内包される教育理論を可視化し、組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが、受講者の理解と納得につながったと考える。さらに、学校ビジョンの形成等、具体的なマネジメントの作業課題を通して、学校を俯瞰することが受講者の学びにつながったと考える。
 また、授業方法において、事例に対する受講者の質問に答える等、応答的なやりとりの中で授業を展開したことや、具体的な作業課題について、グループワークを通して、院生同士の交流の場を設定したことも、受講者の能動性を引き出し、評価につながったと分析する。
 3人の授業者が、それぞれの視点で学校組織特性や学校の組織化の在り方、学校文化の醸成の仕方等にかかる知見を提供することにより、共通科目としての幅広い学びの提供を試みた。そのことによって、多面的に学べた、という感想が得られた。
 今後、授業展開にかかる時間配分等について再検討し、次年度の授業設計に生かしたい。

令和3年度 結果報告書

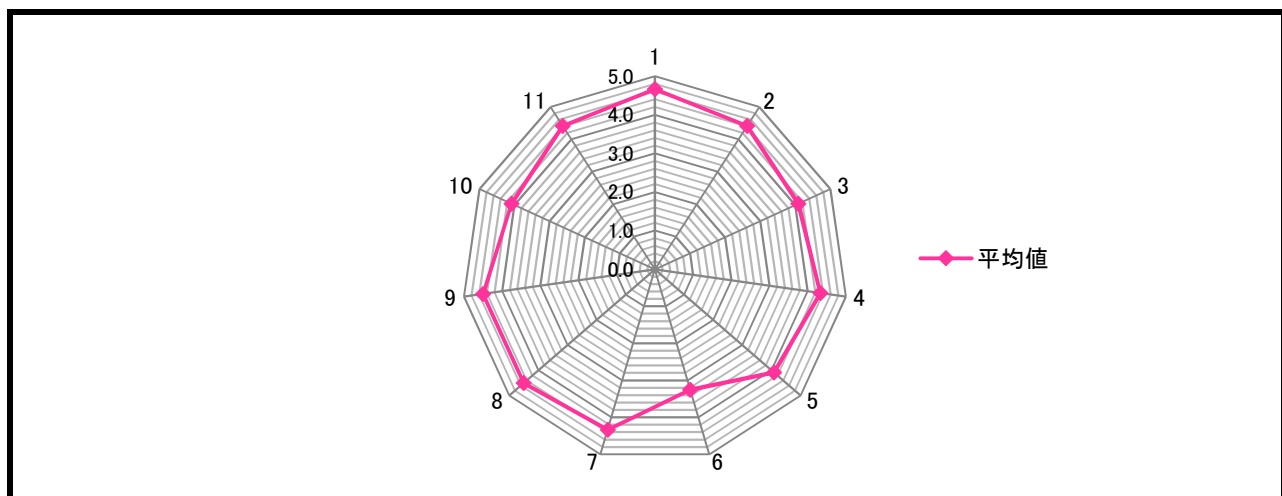
評価実施日	令和3年6月4日
-------	----------

授業科目名	今日的な教育課題とその対応 I	
授業区分	共通科目	回答者数 12名
担当教員名	塩路晶子, 田村隆宏, 浜崎隆司, 湯地宏樹, 木村直子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	4					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3			1		4.4
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	6	1	1			4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	3	1	1			4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	7	2				4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1	5	2	1		3.3
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4	2				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	3		1			4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	2				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	5		2			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	5	1				4.4



教員のコメント

本授業は、幼年期を中心とした子どもの発達を踏まえて、今日的な教育課題について説明し、その対応を取り上げるものである。コロナ対応のためオンラインでの実施となったため、ディスカッション等を実施することができなかった。しかし受講生一人ひとりが学びを深めることができるように、資料等を工夫した。自由記述には「資料が分かりやすかった」との評価も見られた。さらに授業評価を見ると「アクティブ・ラーニング」以外はおおむね「4」以上の評価であるため、目標は達成されたと考えている。

令和3年度 結果報告書

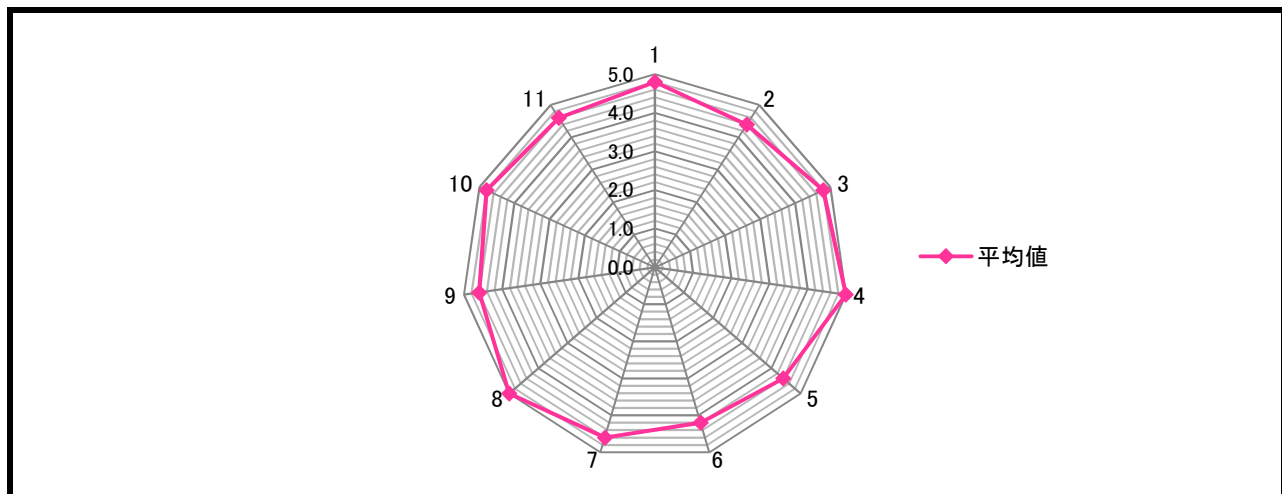
評価実施日	令和3年8月6日
-------	----------

授業科目名	今日的な教育課題とその対応Ⅱ	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	伊藤弘道, 大谷博俊, 井上とも子, 高原光恵, 小倉正義, 粟飯原良造	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	3					4.4
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	3					4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	1				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	4		1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	2					4.6



教員のコメント

本授業では、今日的な特別支援教育の課題、特に発達障害に関して取り扱っている。本授業での院生の到達目標であるが、教育学・心理学・医学各分野の視座を得て「(1)発達障害のある児童生徒への実践経験を省察し、自身の実践の意味や課題を明らかにできること」、「(2)教育実践の充実・改善に必要な専門的知識と技能を活用できること」である。院生からの授業評価結果であるが、回答率は低いものの、各項目に渡り、平均値として全て4点台であり、概ね問題ない授業内容であったと考えられた。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今回の結果を参考に今後の授業改善に日々努めていきたい。

令和3年度 結果報告書

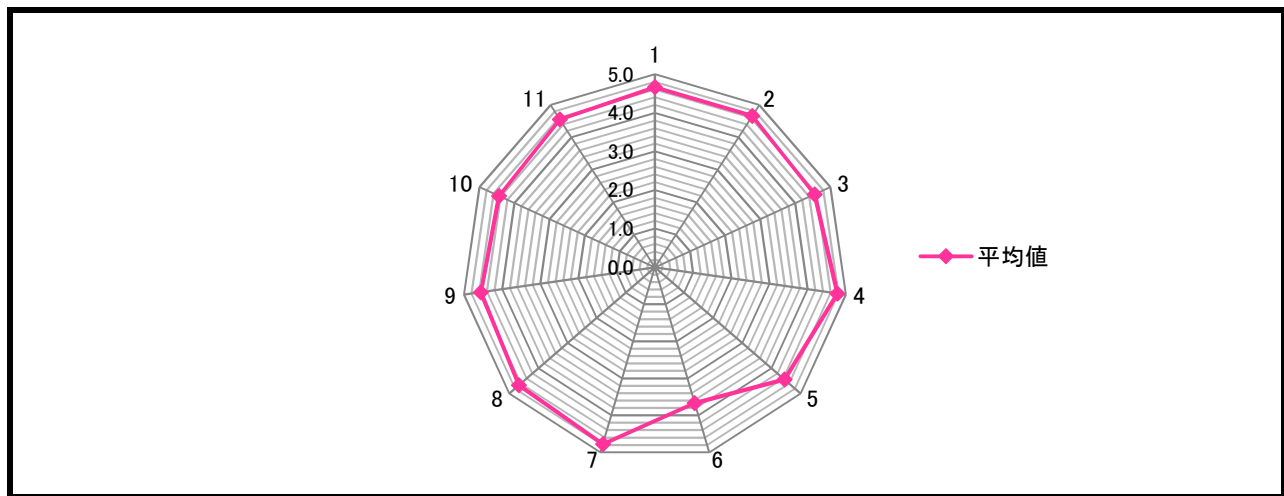
評価実施日	令和3年8月6日
-------	----------

授業科目名	今日的な特別支援教育の課題とその対応	
授業区分	共通科目	回答者数 9名
担当教員名	伊藤弘道, 大谷博俊, 井上とも子, 高原光恵, 小倉正義, 栗飯原良造	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	3					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	3					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	4					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	5					4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	3	3	1			3.7
7	授業の進む速さは適切であった。	7	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	3					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	5					4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	4					4.6



教員のコメント

本授業では、今日的な特別支援教育の課題、特に発達障害に関して取り扱っている。本授業での院生の到達目標であるが、教育学・心理学・医学各分野の視座を得て「(1)発達障害のある児童生徒への実践経験を省察し、自身の実践の意味や課題を明らかにできること」、「(2)教育実践の充実・改善に必要な専門的知識と技能を活用できること」である。院生からの授業評価結果であるが、回答率は低いものの、各項目に渡り、平均値として概ね4点台であり、基本的には問題ない授業内容であったと考えられた。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今回の結果を参考に今後の授業改善に日々努めていきたい。

令和3年度 結果報告書

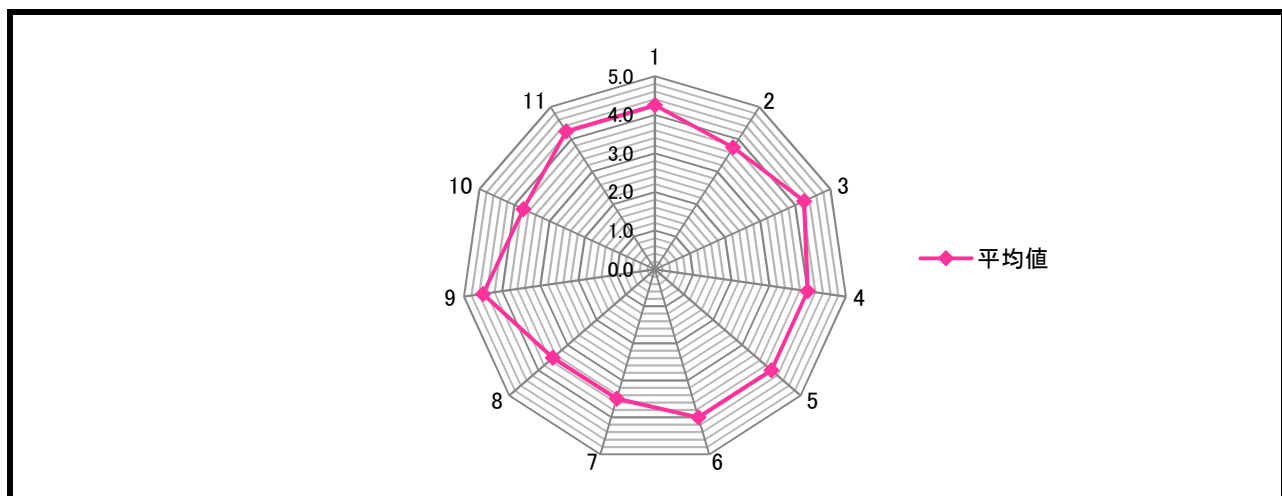
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (英語)	
授業区分	共通科目	回答者数 4名
担当教員名	山森直人, 藪下克彦, 佐藤美智子, ジェラード・マーシェノ, 眞野美穂	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	1	3					4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1			1		3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	3					4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	1	2	1				4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	1	2	1				4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	1	2	1				4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	1		3				3.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	1	1	1			3.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	1	2		1			3.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	1	1				4.3



教員のコメント

(受講者9名のうち回答者が4名であったことをふまえて結果を分析・考察する必要があるが) 全体的に平均値が3点台の項目が4つあり, 改善すべき課題が残る結果となった。それらは, 項目2(授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。), 項目7(授業の進む速さは適切であった。), 項目8(授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。), 項目10(自分にとって, 満足感を得られた授業であった。)である。まずは, 項目2に関してであるが, 学生に授業の主旨について理解を促す努力をしたい。本授業は, 実習(教科教育課題設定フィールドワーク)の事前指導にあたり, 実習に向けて学生の授業力を高めるとともに, 研究課題の検討を行うことを主旨としている。教科教育と教科専門の視点, 教育研究と教育実践の視点, また, 現職学生のニーズと学卒学生のニーズなど, 複数の要素を総合的に結びつけることが意外と難しかった。専門職学位課程における授業の持つ特徴でもあり, 学生に提供すべき内容について今後も検討したい。項目7,8については, 学生の理解状況をしっかり把握しながら授業を展開したい。専門職学位課程では前期に共通科目が多く, 学生の学びの状況を把握することは難しいが, ゼミ指導などを通じて, 学生の学びを確認しつつ, 本授業の展開を考えたい。以上を丁寧に行うことで, 項目10の数値は向上すると考える。

令和3年度 結果報告書

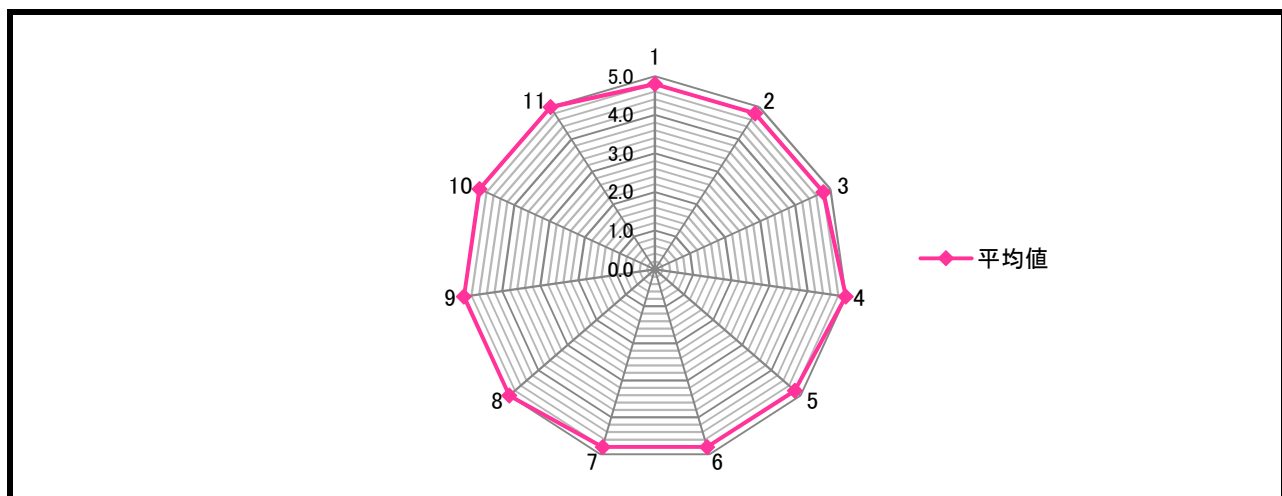
評価実施日	令和3年8月5日
-------	----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (社会)	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	町田哲, 青葉暢子, 梅津正美, 立岡裕士, 原田昌博, 麻生多聞, 伊藤直之, 井上奈穂, 畠山輝雄, 眞野豊	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0



教員のコメント

本授業は、フィールドワークや学校現場において求められる、教科授業実践の構想・展開・省察の基礎を学び、教科授業実践力について理解することを目的としている。アンケート結果からは、その目的達成にむけた各ゼミ単位の個別・集団指導により、概ねその目的に叶う授業内容・授業展開であったことが読み取れる。今後、より学習効果を高めるよう、鋭意努力したい。

令和3年度 結果報告書

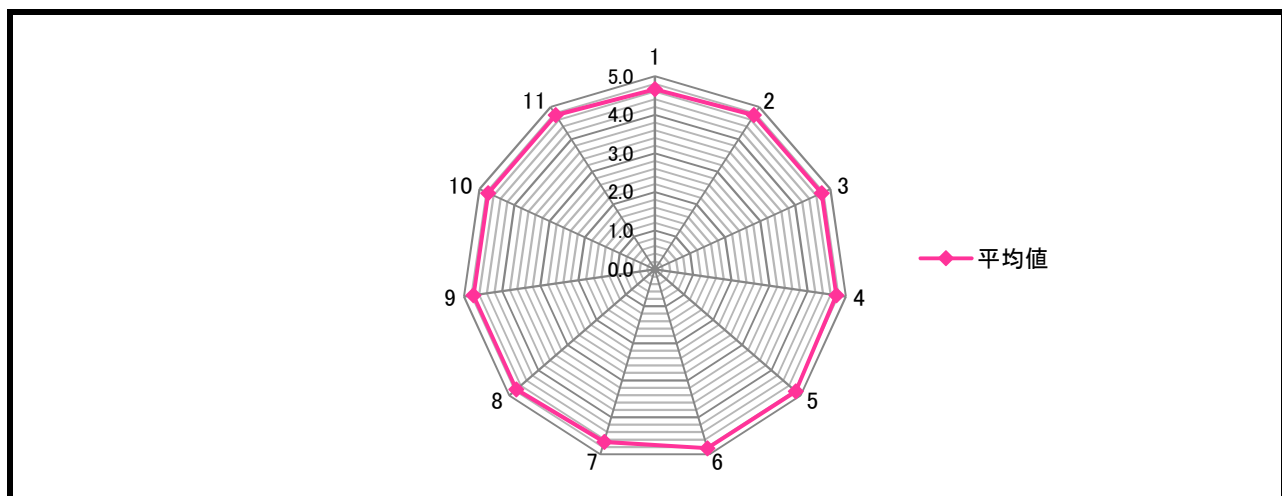
評価実施日	令和3年8月6日
-------	----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (数学)	
授業区分	共通科目	回答者数 12名
担当教員名	秋田美代, 佐伯昭彦, 宮口智成, 関行宏, 早田透, 山中仁	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	4					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	3					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	3					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	3					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	8	4					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	3					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	3					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	3					4.8



教員のコメント

本授業の目的は、フィールドワークにおいて求められる、算数科・数学科の授業の構想、展開、省察の基礎を理解し、算数科・数学科における授業実践の在り方を理解することである。数学の認識特性を踏まえた学習指導理論を基に、教材研究と学習指導案の作成を行い、作成した学習指導案にしたがって模擬授業と模擬授業検討会を実施した。

各質問項目の評価平均値は4.7から4.8であった。受講者からは、授業についてのよかった点に対しては、「学生に考えさせる活動が多くあったところ良かったと考える。それにより、自身の考えを深めることができた」、「1つの単元や授業に関してだけでなく、どの授業に関しても必要であると思うことを考えられたのでこれからに生かせそう」、「議論が主体で思考力が鍛えられる内容であった」こと等が記述されていた。授業についての改善してほしいこと、さらに望む事柄やアイデアに対しては、「抽象的な部分もあり、自分には少し考えるのが難しかった」という意見があった。これらのことから、本年度の受講生については、算数科・数学科の授業の構想、展開、省察の基礎を理解し、算数科・数学科における授業実践の在り方を理解し、授業の目的を概ね達成できたと考えられたが、理論的な考察について抽象的でイメージできにくい受講者もいることが分かったので、具体的な教材に落として考察させるなど、理論と実践を往還させる活動の必要性があったといえる。

授業では、受講者が意見を十分に述べて共通理解を図ることができた。次年度の課題としては、理論と実践を繋ぐ活動を準備する等、授業の構成を工夫することがある。

令和3年度 結果報告書

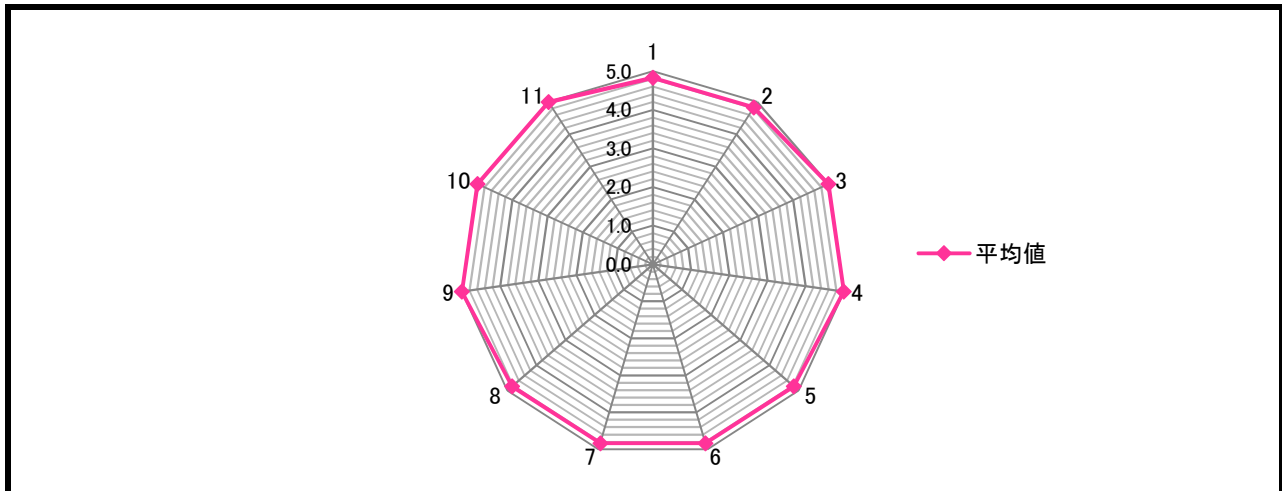
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習 I (体育)	
授業区分	共通科目	回答者数 6名
担当教員名	湯口雅史, 藤田雅文, 松井敦典, 田中弘之, 綿引勝美, 南隆尚, 木原資裕	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0



教員のコメント

オムニバス方式で運営し, 専門性を持った先生方の講義や演習が計画, 実施されたため, 学生にとって知見を深めることができる授業になったと考えます。

令和3年度 結果報告書

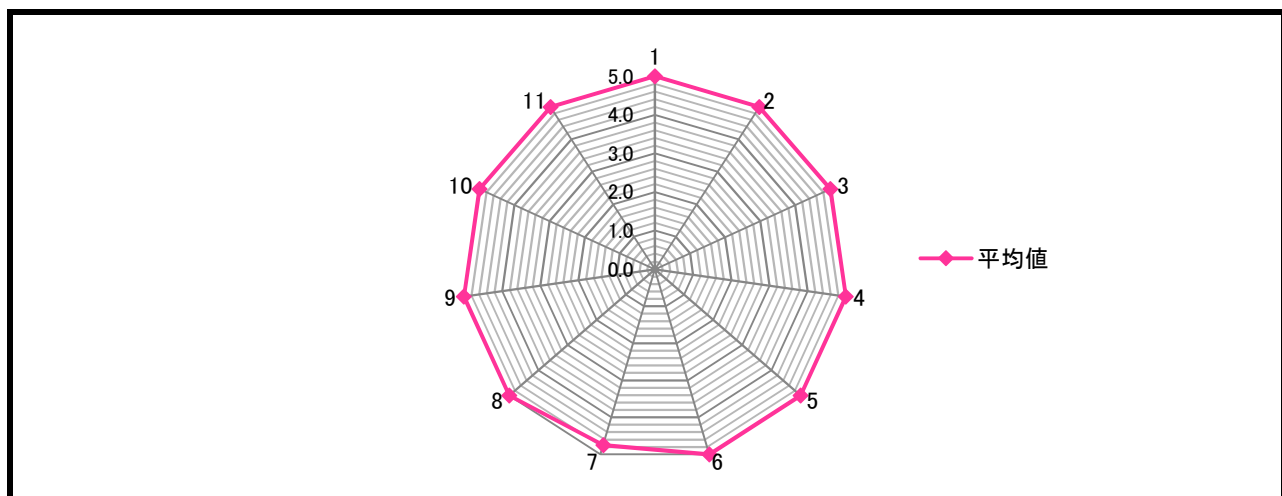
評価実施日	令和4年2月10日
-------	-----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(英語)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	山森直人, 藪下克彦, 佐藤美智子, ジェラードマーシェロ, 眞野美穂		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0



教員のコメント

(受講者9名のうち回答者が4名であったことをふまえて結果を分析・考察する必要があるが)項目7以外は平均値が満点の5点であることから, 本授業は学生にとって高評であったと判断する。本授業の主旨に照らし, 1年目の実習(教科教育課題設定フィールドワーク)での経験をふまえつつ, 2年目の実習(教科教育課題フィールドワーク, 教科教育実践フィールドワーク)に向けて学生自身の研究課題を明確にすることを主眼として授業を行った。授業には全担当教員が参加し, 個々の学生の研究課題について教員各自の専門の視点から助言・指導する時間を設けた。最終的には, 構想発表会をもち, 学生の1年間の学びをまとめ発表する機会をもった。2年次に向けた実習と研究の準備という明確な目標とともに, 毎回, 学生と研究について丁寧に取り組んだことがよかったのではないかと考える。今後も, 継続・発展的に本授業を行いたい。

令和3年度 結果報告書

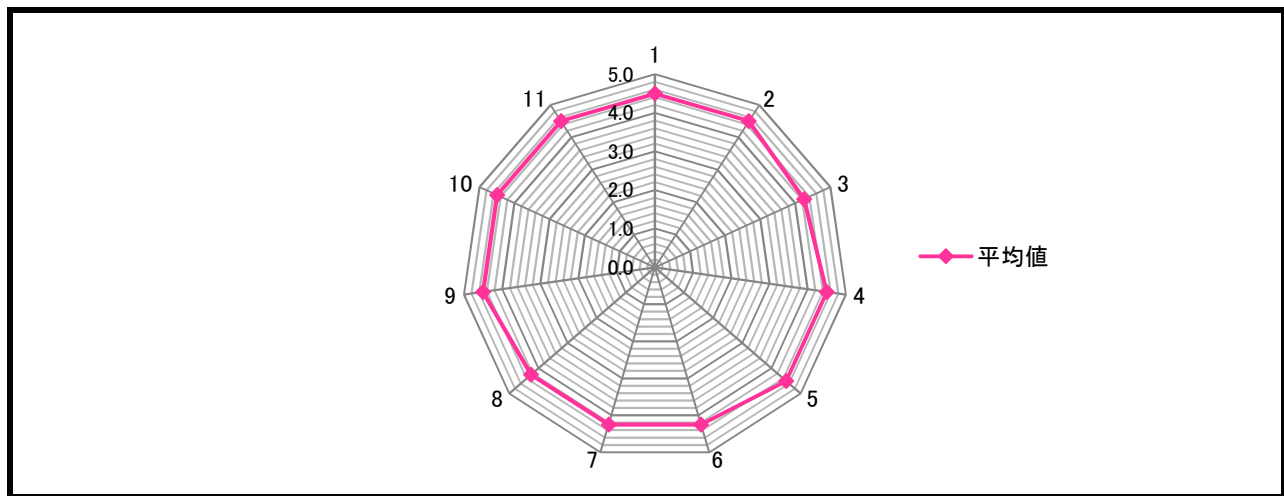
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(社会)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	町田哲, 井上奈穂, 青葉暢子, 梅津正美, 立岡裕士, 原田昌博, 麻生多聞, 伊藤直之, 井上奈穂, 畠山輝雄, 眞野豊		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3		1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3		1				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	1	1				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3		1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3		1				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3		1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3		1				4.5



教員のコメント

本授業は、フィールドワークの省察にもとづき、教科授業実践力のさらなる理解・向上を図り、自身の研究課題を解決するための計画を立てることを目的としている。アンケート結果からは、その目的達成にむけた各ゼミ単位の個別・集団指導により、概ねその目的に叶う授業内容・授業展開であったことが読み取れる。具体的に、「歴史学研究を通して、教科の専門性を高めることができていると感じ」という声が寄せられた。ただし、一部(1名)からは積極的な評価を得ることができなかった。今後、より学習効果を高めるよう、鋭意努力したい。

令和3年度 結果報告書

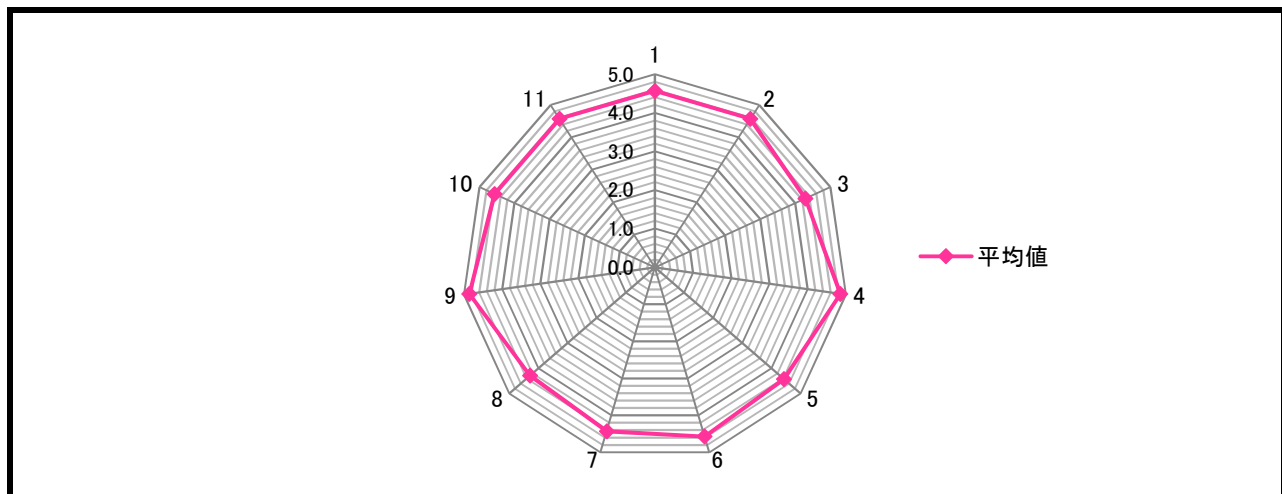
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(数学)	
授業区分	共通科目	回答者数 7名
担当教員名	佐伯昭彦, 秋田美代, 宮口智成, 関行宏, 早田透, 山中仁	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	3					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	3					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	3	1				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	2	1				4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	1	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4					4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	3	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	3					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	3					4.6



教員のコメント

本講義では、数学書の輪読を通じて、より高度な立場から小・中・高の教科書の内容を精査するという、教科専門的な視点から見ても専門性の高い内容が取り扱われた。それにも関わらず、平均して良い評価が得られたのは、将来教職に就くにあたって自身の専門性の不足・強化の必要性に学生自身が気づき得たことが主な要因であると考えている。特に、項目4(教師の専門性)と項目9(授業への主体的・積極的な取組)が4.9と非常に高く、これらの結果は上記の所感を裏付けているものと考えられる。

項目3(授業の内容の分かりやすさ)と項目8(授業で示された資料, 課題, レポートの適切性)が4.3で他の項目よりも比較的值が低いが、これは、内容が純粋数学に近い高度なものであったこと、内容の高度さゆえ仕方がない部分もあると思うが、より簡潔にまとまった読み易い文献を提供するなどして改善したい。

教職大学院の内容は教授法がメインであるべきことは論を俟たないが、学生自身は教科専門的な内容に関する専門性も身につけたいという意向をもっていることがアンケート結果から読み取れる。これは今後の授業の在り方について、大切な示唆になると思われる。

令和3年度 結果報告書

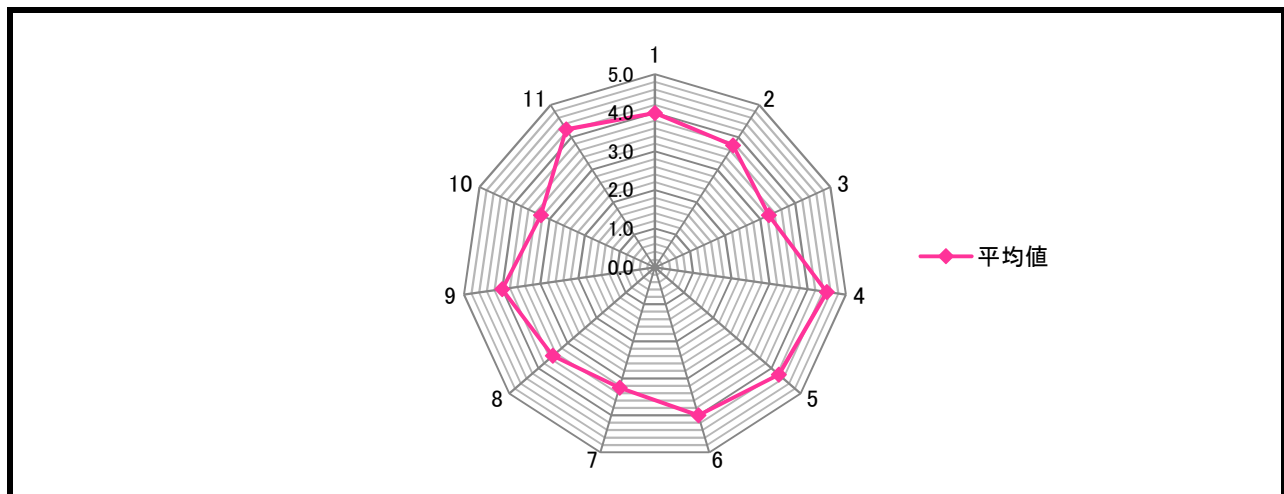
評価実施日	令和4年2月10日
-------	-----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(技術・工業・情報)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	伊藤陽介, 菊地章, 宮下晃一, 米延仁志, 曾根直人, 宮本賢治, 阪東哲也		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	1	2	1				4.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	1	2				3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	1	1		1		3.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	1	1				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1		1			4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	1		1		3.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	2			1		3.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2	1				4.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	1	1	1		1		3.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3			1			4.3



教員のコメント

本授業は, 教科授業実践力のさらなる理解と向上を図るとともに, 自身の研究課題を解決するための計画を立てることを目的とした。教科教育課題設定フィールドワークでの観察・支援に関する省察をふまえたマイクロティーチングを行い, 学習者の教科授業実践力を高められるように計画した。回答者4名のうち, 3名については概ね高評価であったと考えられる。自由記述では, 複数の教員が担当したことによる課題や取り組み状況について言及されていた。本授業は, 同一週内に2コマ設定されており, 同一週内での担当変更があったことによるものと推察される。オリエンテーション時に, 授業の進め方に関して, 丁寧に共通理解を図るようにしたい。

令和3年度 結果報告書

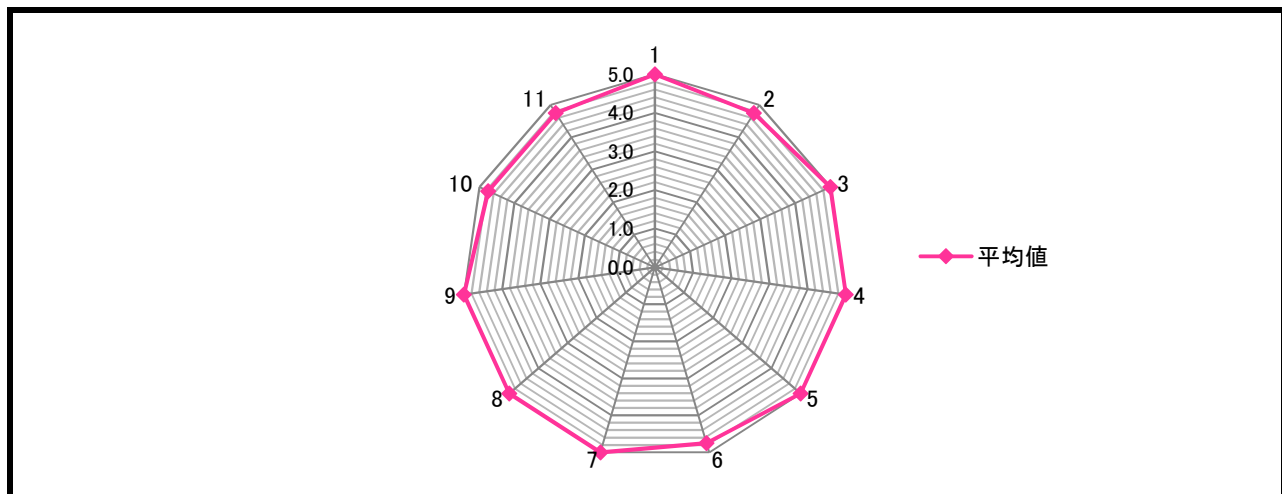
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	学校支援のための教科教育実践演習Ⅱ(体育)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	湯口雅史, 藤田雅文, 松井敦典, 田中弘之, 綿引勝美, 南隆尚		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速度は適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

主に, 教員採用試験を意識した内容となっており, 教育現場における様々な事象についての対応や考え方について確認を行っている。さらに, 模擬授業も取り入れ授業力の向上も図ろうと計画している。そのため, 授業力, 教師力の向上を意識できた学生の評価は高い物があったと考えます。

令和3年度 結果報告書

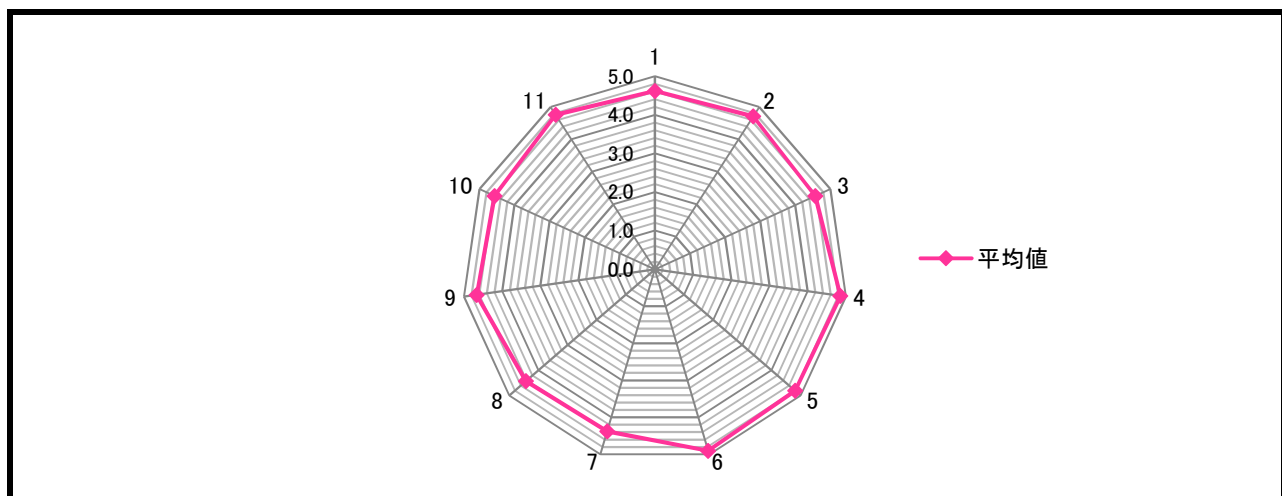
評価実施日	令和3年11月19日
-------	------------

授業科目名	チーム総合演習(教育課題解決のためのプランニング)	
授業区分	共通科目	回答者数 21名
担当教員名	前田洋一, 久我直人, 大林正史, 芝山明義, 池田誠喜, 小坂浩嗣, 金児正史, 皆川直凡, 泰山裕	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	13	8					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	15	6					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	13	7	1				4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	18	3					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	17	4					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	19	2					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	10	9	2				4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	10	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	7					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	12	9					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	5					4.8



教員のコメント

本授業は、教職大学院での共通科目群で獲得した知識を探求活動を等して活用する授業構成となっている。アクティブ・ラーニングの手法であるPBL (Project Based Learning) の授業である。

コロナ禍により演習が中心となる本授業が実施できるかどうかの不安があったが、感染予防に努めながら実施できたことはよかったと思う。

評価結果を見てみると、どの項目も高い評価を得ることができている。その理由を受講生の自由記述から検討してみたい。

○PBLや、チーム作り, 心理的安全性などを意識した授業であり、チームを俯瞰的に見ながら取り組むことで、学ぶことが多かった。学校づくりを通し、新しい知見を主体的に学び、得ることができた。

○教職大学院に来なければできなかった勉強ができた。理論、協働力、授業など多方面につながる総合的な力が身に付く授業だった。自分の専攻コース以外の教員や校種を越えての交流ができるのがよい。

以上に2点は、授業者が設計した授業の目的が十分に達成できたことによるものと考えられる。授業の意図をしっかり受講生が理解しそれを基に先週が実施されたものと考えられる。

また、授業期間中には、コロナ感染対策ということで、対面での演習が困難な場合もあったが、受講生は、ティームスやグーグル・ミーティングを使ってのオンラインでの演習を実施していることもあった。集合しなくとも必要な議論や対話が可能であることを示した授業でもある。遠隔プログラム授業の可能性を広げる授業となったと考える。

令和3年度 結果報告書

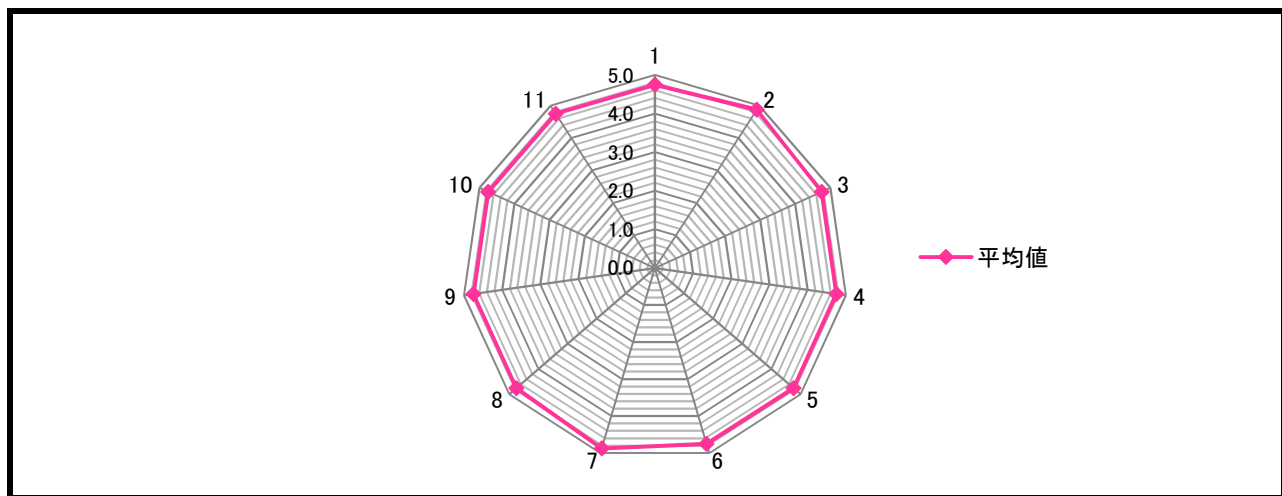
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	教職協働実践演習 I (特別支援)	
授業区分	共通科目	回答者数 8名
担当教員名	井上とも子, 伊藤弘道, 大谷博俊, 高原光恵, 尾関美和, 坂口純子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	2					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	7	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	2					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	2					4.8



教員のコメント

非常の高い評価を得ている。各授業が教育現場の教育実践において個々に持っていた疑問点を解決する内容であったとしたら、幸いである。この授業は特別支援教育・通級指導教育実習とも連動し、実習内で実践しながら、論理的なことや教育課程上の課題解決等々も内容に含まれ、より実践的な内容になっていると考えられる。また、教育実習は、特別支援教育ではよく行われる複数名の児童生徒をチームティーチングの指導形態において関わり指導を展開する経験ができるため、協働力を高める実践となり、それについても、この授業において、チームティーチングのあり方、指導者感の関わり方など、実践論としても学べる内容になっていたと思われる。今後も、院生のニーズに答えられるような授業を今年度の内容をもとに、広げ、更にニーズを把握しながら授業を展開していけるようにそれぞれの専門分野を活かしながら見直していきたい。

令和3年度 結果報告書

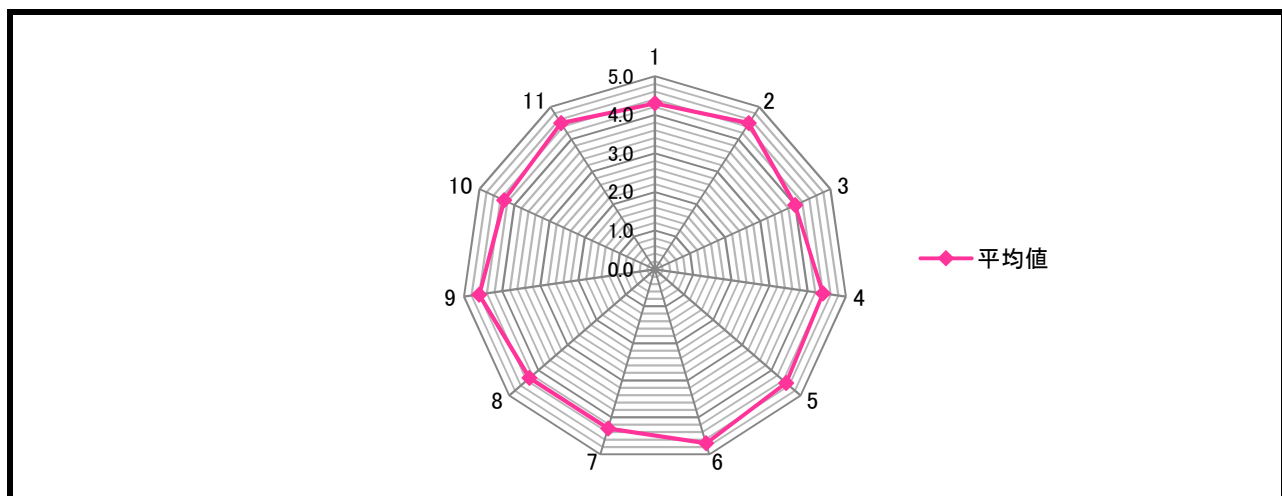
評価実施日	令和3年8月2日
-------	----------

授業科目名	教職協働実践演習Ⅰ(教職系・子ども発達除く)	
授業区分	共通科目	回答者数 10名
担当教員名	金森三枝, 久我直人, 前田洋一, 大林正史, 芝山明義, 池田誠喜, 小坂浩嗣, 金児正史, 皆川直凡, 泰山裕, 川上綾子, 木下光二, 葛上秀文, 江川克弘, 藤原伸彦, 北濱亮	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	5	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	5					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	3	2	1			4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	4	1				4.4
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	5					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	3					4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	4	5	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	3	2				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	3	2				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	5					4.5



教員のコメント

アンケートの集計結果では、「授業の内容の分かりやすさ」の項目が4.0と他に比べると一番低くなっている。逆に、「授業では、シラバスで示されたアクティブラーニングが実施されていた」という項目が4.7と最も高くなっている。このことから、本授業の趣旨でもある教職協働力育成に向けて、主体的に考え、率先して行動しなければならない状況下での、院生の自覚や戸惑いが見て取れる。

学卒院生の立場では、授業設計の段階で、自分の考えをもち、チームの先輩や仲間に自分から投げかけたり、質問したりしなければならなかった。ほとんどの学卒院生は、アドバイスも生かしながら熱心に教材研究に励むことができた。授業づくりの段階において、若手の柔軟なアイデアを取り入れ、活発な話し合いを進めることができたグループも多かった。その一方で、学卒院生のなかには主体的に取り組むことができず、課題や締め切りに追われ、現職院生からの言葉に過度に反応する院生もいた。また、現職院生の立場では、熱心に責任を果たそうとするあまり指示が多くなったり、学卒院生の状況に気付かないまま助言を重ねて学卒院生を追い込んでしまったりするケースもあった。そのあたりに、人を育てることの難しさが伺える。経験や立場の違いを加味しつつ、お互いに、相手の状況を考えながら、協働していく力を身に付ける必要があるといえる。

教職協働力育成において、若手教員のやる気を向上させつつ、確かな指導力を養っていくことができるように支援していくことは難しいものである。人数が増えるほど、課題に対する解決策として意見は多くなり、メンバー全体の合意形成が難しくなる。しかし、多様な意見に触れることで、視野を広げることができ、選択肢は増える。対話や検証を通して、よりよい解決策を模索することに本授業のねらいはあるといえる。また、現職院生が一方的に伝授するのではなく、学卒院生も力を発揮できるようにしていくことが大切である。担当教員も含め、学卒院生、現職院生の双方が、自ら考え、行動し、ともに協働することのよさを感じ取れるような授業にしていかなければならない。

後期に向けた改善として、「計画ありき」ではなく、実態に応じて「弾力的に」授業を進めるよう担当教員で話し合い、院生にも伝えた。経験年数、校種、専門教科の異なるメンバーのよさをいかした、主体的で対話的な深い学びを実現していく。

令和3年度 結果報告書

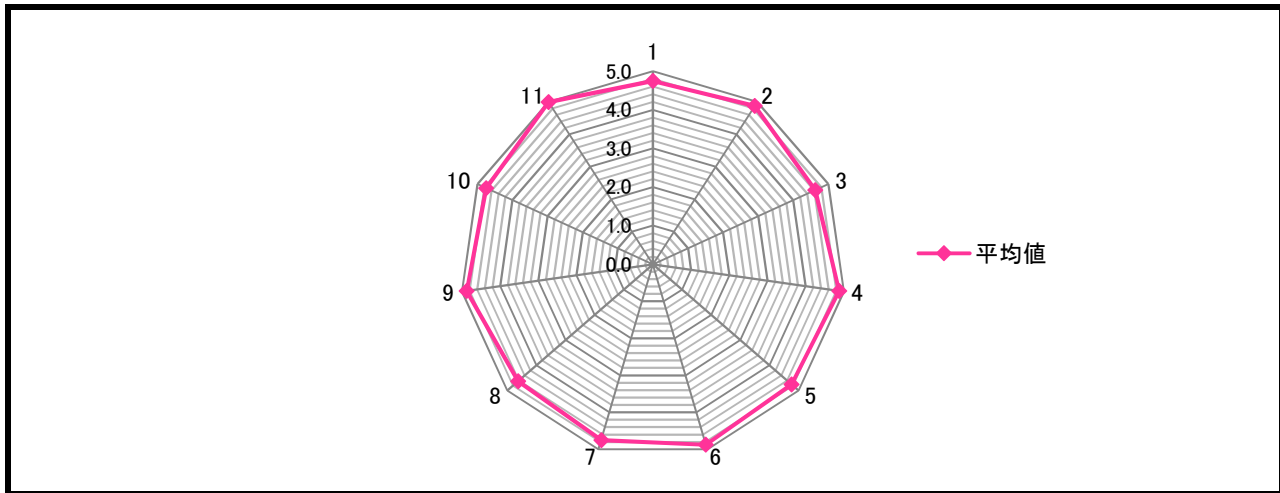
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	教職協働実践演習Ⅱ(特別支援)	
授業区分	共通科目	回答者数 8名
担当教員名	大谷博俊, 伊藤弘道, 井上とも子, 高原光恵, 尾関美和, 坂口純子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	3					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	6	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	3					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8						5.0



教員のコメント

質問項目の評価平均値は4.6以上であり、受講生は本授業を非常に肯定的に捉えていると判断できる。特に学びを広げ、深めるための契機を問う設問では、全受講生が「そう思う」と回答しており、この点は特筆に値するのではないだろうか。今、「学び続ける教師」が求められているが、本授業もその資質能力の涵養に貢献できたと考えられるからである。

令和3年度 結果報告書

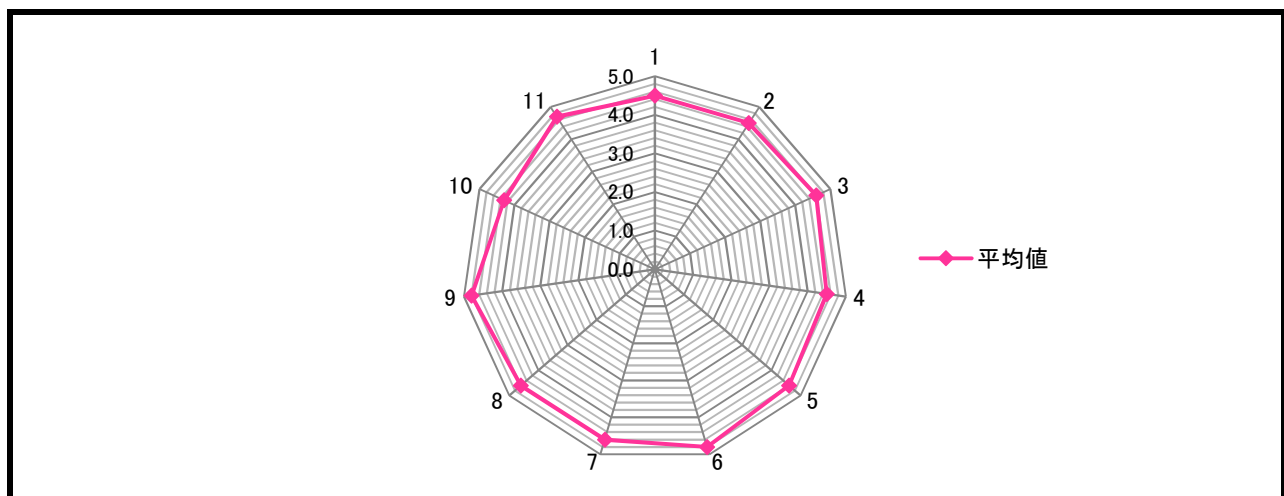
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	教職協働実践演習Ⅱ(教職系・子ども発達除く)	
授業区分	共通科目	回答者数 10名
担当教員名	金森三枝, 久我直人, 前田洋一, 大林正史, 芝山明義, 池田誠喜, 小坂浩嗣, 金児正史, 皆川直凡, 泰山裕, 川上綾子, 木下光二, 葛上秀文, 江川克弘, 藤原伸彦, 北濱亮	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	5					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	3	1				4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	4					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	3	1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	7	2	1				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9		1				4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4					4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	4					4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	3	2				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	7	3					4.7



教員のコメント

教職協働実践演習Ⅱでは、Ⅰに比べ、評価の平均値に向上がみられた。前期の成果と課題を踏まえ、授業検討会のあり方などの改善を行ったことにより、現職院生と学卒院生にとって満足感を得られる学びとなったのではないかと考える。現職院生が中心となり、授業検討会では、学卒院生の授業や生徒指導に関する悩みを聞いた上で、参加者全員にとって有意義なよりよい話し合いとなるよう計画されていた。授業について一方的にできていないところを指摘したり、改善策を提案したりするのではなく、互いに話しやすい雰囲気をつくることを重視していた。協働力を養う上で、相手の立って考えながら物事を進めていくという姿勢は大切かつ必要不可欠なことであり、そのことを習得することができていた。

反省点としては、自由記述のなかでも述べられていたが、コロナ感染対策のために対面の授業ができなくなったことにより、まとめがしっかりと行えなかったことがあげられる。最後の一コマだけ、オンラインでの話し合いや個別のやり取りに変更せざるを得ない状況となり、中途半端な終わり方となってしまったことが残念であった。本来であれば、模擬授業は対面で実施するに越したことはないが、やむを得ない状況であった。今後も急にオンラインでの実施となった場合、いかに対面授業と同様の学びを保証できるか、しっかりと考えておく必要があるといえる。対面に代わる授業の案として、事前に模擬授業を撮影したものをグループで視聴後、話し合いをするという方法も考えられる。手間や時間はかかるが、実際に事前録画が採用されている研究会も多くなっている。ビデオ視聴は、何度も再生したり、立ち止まったりできるという利点もある。そうした方法がすぐに対応策として選択できるように、意識改革を含め、日頃から準備しておく必要がある。

最後に、現職院生と学卒院生、及び各担当教員との連携が必要であったため、日程や意見の調整にも時間や配慮が必要であった。評価の自由記述には、他のグループとの違いに触れ、進め方や内容に公平性を求める意見もみられた。しかし、本授業では、決められた方法や内容を探り入れ、受け身の姿勢で授業にのぞむのではなく、一人一人が所属するチームの一員として積極的に意見や考えを出し合い、よりよいものにしていこうとする意識を醸成することもねらいとしている。来年度からは、学卒と教員のための協働力となるが、年度初めに、授業の目標を全体でしっかりと確認することができるようにしていきたい。

令和3年度 結果報告書

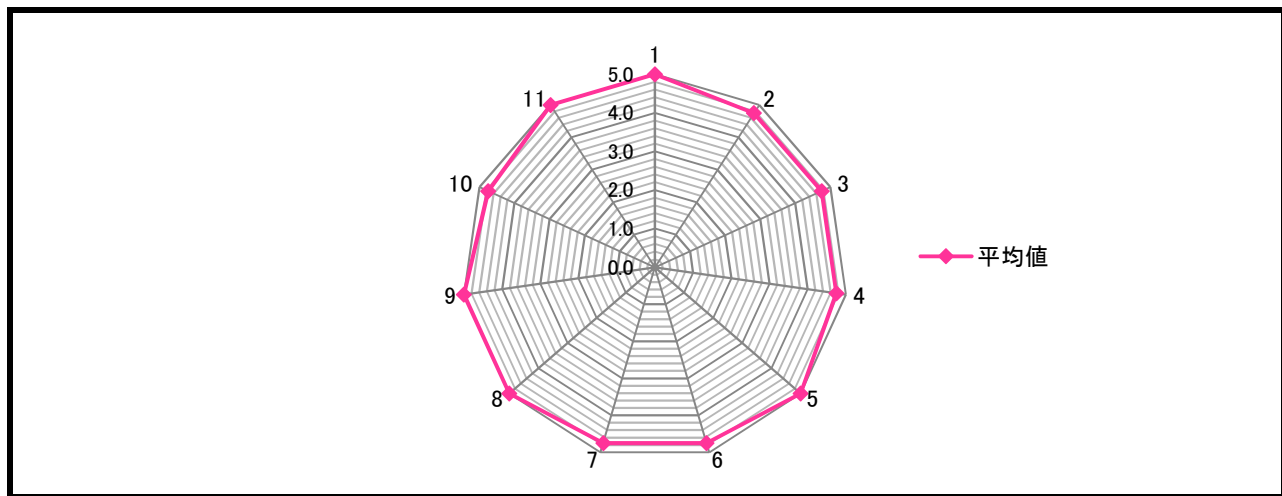
評価実施日	令和3年8月6日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (社会)		
授業区分	共通科目	回答者数	4名
担当教員名	町田哲, 青葉暢子, 梅津正美, 立岡裕士, 原田昌博, 麻生多聞, 伊藤直之, 井上奈穂, 畠山輝雄, 眞野豊		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4						5.0



教員のコメント

本授業は、今日的な教育課題や教育政策の動向をふまえ、実践演習を行うことによって、これからの教員としての不可欠な資質・能力を育成することを目的としている。アンケート結果からは、その目的達成にむけた共通授業と各ゼミ単位の個別・集団指導により、概ねその目的に叶う授業内容・授業展開であったことが読み取れる。今後、より学習効果を高めるよう、鋭意努力したい。

令和3年度 結果報告書

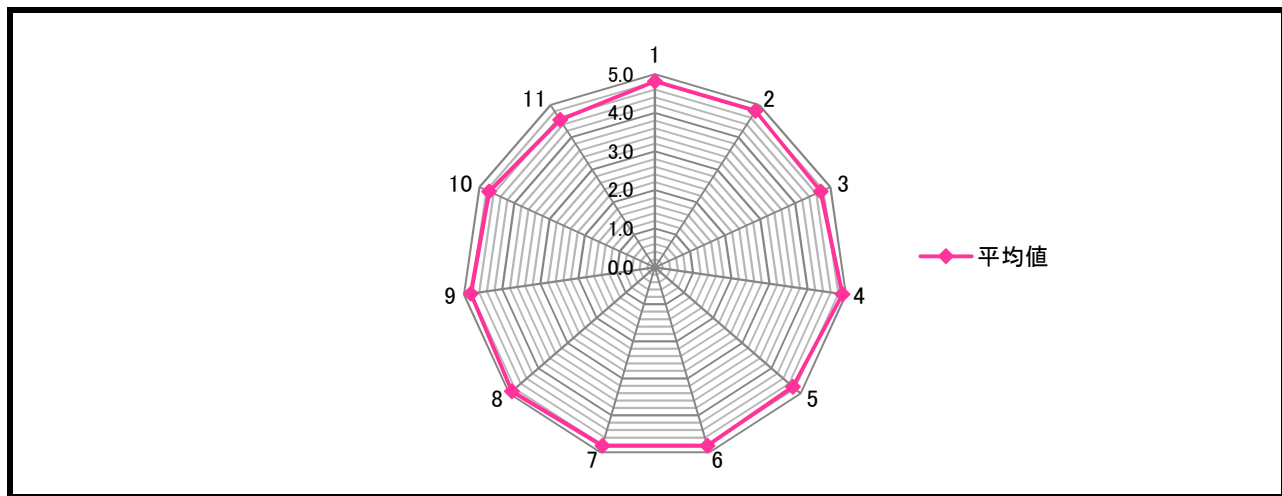
評価実施日	令和3年8月2日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (数学)	
授業区分	共通科目	回答者数 11名
担当教員名	山中仁, 秋田美代, 佐伯昭彦, 宮口智成, 関行宏, 早田透	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	3					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	1	1				4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	3					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	1	2				4.5



教員のコメント

本講義は、教授の過去問の演習を通して、より深い数学の話題や高校までの数学教育において足りていない点(例えば、厳密な定義)を認識してもらうことで、教科教育を学んでいく上で必要とされる教師の資質を高めることにその目的があった。
 また、教科専門と教科教育のTTにより、教科専門による数学の解説に教科教育の観点(例えば、カリキュラムにおける位置付け)からの解説を加えることで、数学教育に関する指導も同時に行った。
 オンラインでのリアルタイム講義で、TeamsとGoodnotes5を用いて板書や質疑応答を進めていく形式をとったが、自由記述には「分かりやすかった」という評価が大半を占めており、アンケートの結果もそれを支持していると考えられる。難解とされる数学の授業で、さらにオンラインという制約の下でこのような評価が得られたことは一定の意味を有すると考える。ただし、項目11についてはまだ改善をする見込みがあるため、具体的な文献の提示などを通して、講義を踏まえてさらに先に進むための環境を整えていきたい。

令和3年度 結果報告書

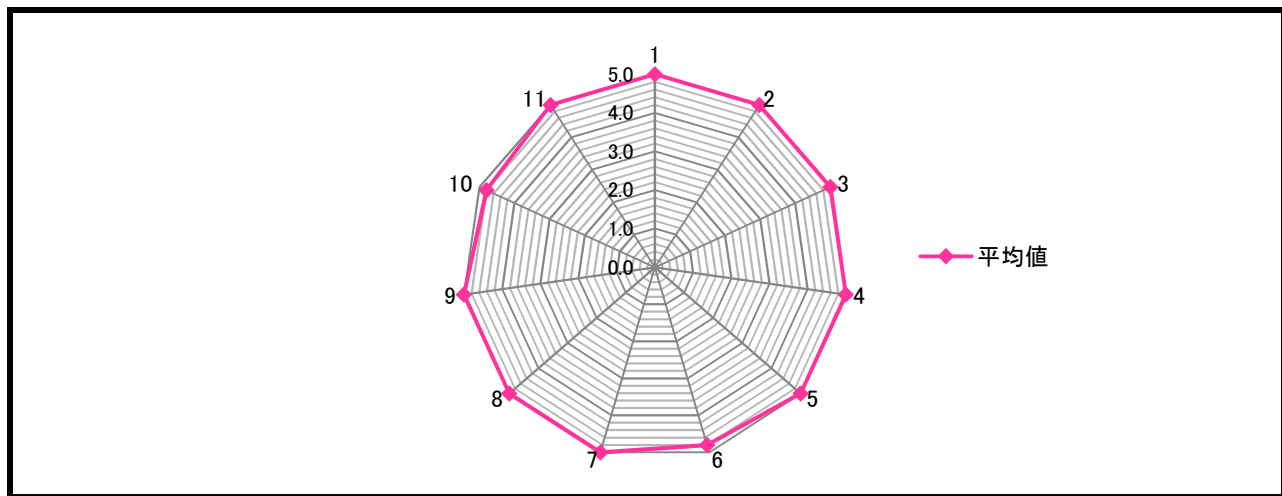
評価実施日	令和3年8月6日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (体育)	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	湯口雅史, 藤田雅文, 松井敦典, 田中弘之, 綿引勝美, 南隆尚, 木原資裕	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0



教員のコメント

体育・保健体育の授業において, 各運動種目に対する多様な個性のある児童生徒への関わりについて専門の先生方を交えての議論を通して, 全ての児童生徒が運動好きになる授業のあり方について考えた。このことが, これまでイメージしていた体育授業を考え直すきっかけになったに違いない。

令和3年度 結果報告書

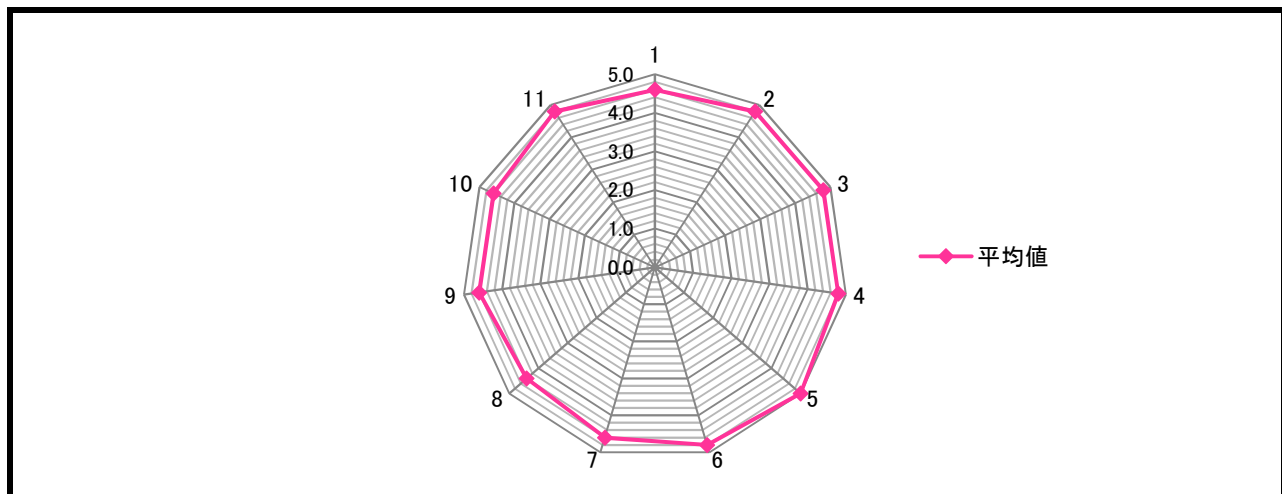
評価実施日	令和3年8月5日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習 I (教員養成特別)	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	北濱亮, 久我直人, 前田洋一, 大林正史, 芝山明義, 池田誠喜, 小坂浩嗣, 金児正史, 皆川直凡, 泰山裕, 川上綾子, 木下光二, 葛上秀文, 藤原伸彦, 江川克弘, 金森三枝	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	2					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4		1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	1	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4		1				4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8



教員のコメント

おおむね肯定的な回答であった。模擬授業や個人面接等を実施することによって、教員採用試験対策も兼ねることができる時間になったためだと考える。

一方、「他の授業もあって模擬授業の準備に時間がとれず大変であった。グループによって模擬授業の時間もバラバラで統一してほしい。」という回答もあった。グループ別の実施する形式のため、統一することは難しいが、院生にとってより良い授業になるように改善していきたい。

令和3年度 結果報告書

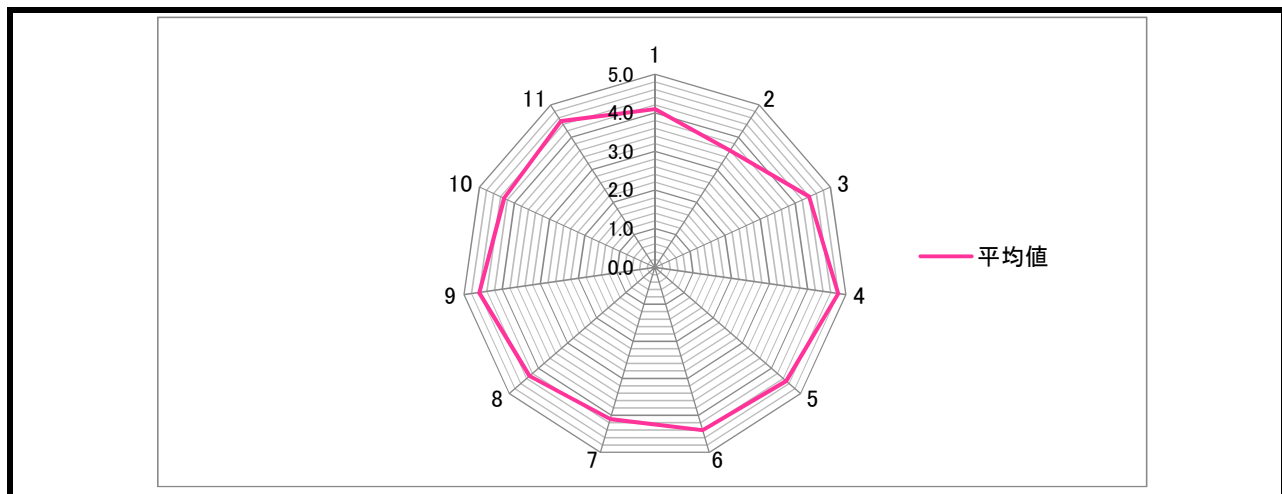
評価実施日	令和3年8月5日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習Ⅱ(数学)	
授業区分	共通科目	回答者数 10名
担当教員名	宮口智成, 秋田美代, 佐伯昭彦, 関行宏, 早田透, 山中仁	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	1	1	2			4.1
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1	1	1	2		3.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	4	1				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9		1				4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	3	1				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	2	2				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	4	3	3				4.1
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	5	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	3	2				4.3
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	3	1				4.5



教員のコメント

「授業に主体的・積極的に取り組んだ」4.6点, 「自分にとって, 満足感を得られた授業であった」4.3点, 「この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい」4.5点などの項目で高い評価を得ている。一方, 「授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった」が3.6点と低い評価となっている。授業自体の満足度が高いので, シラバスの内容を若干修正することで対応したい。また, 数学の専門的な理解を深めつつ, 分かりやすい解説を行う技術を身につけられるように授業改善を進めていく。

令和3年度 結果報告書

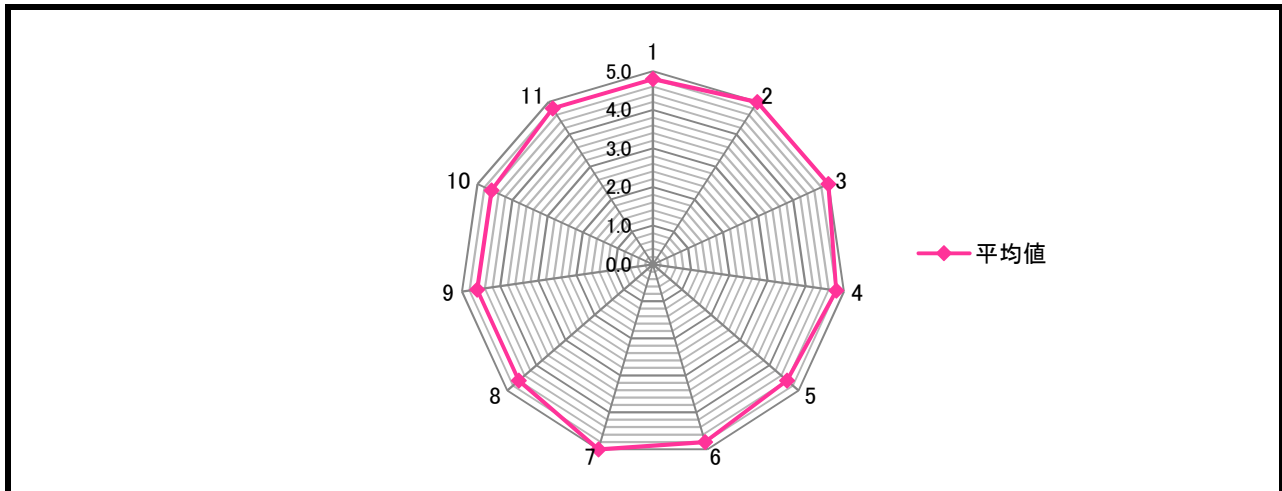
評価実施日	令和3年8月2日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習Ⅱ(体育)	
授業区分	共通科目	回答者数 5名
担当教員名	湯口雅史, 藤田雅文, 松井敦典, 田中弘之, 南隆尚	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4		1				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4		1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4		1				4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8



教員のコメント

ゼミ活動を主に行い, 最終成果報告書作成にあたってそれぞれの学生が, 他のゼミ情報との交換を通じて, FWを振り返り自己の教師力を見つめ直していた。このようなかかわりが, 最終成果報告書に生かされていた。

令和3年度 結果報告書

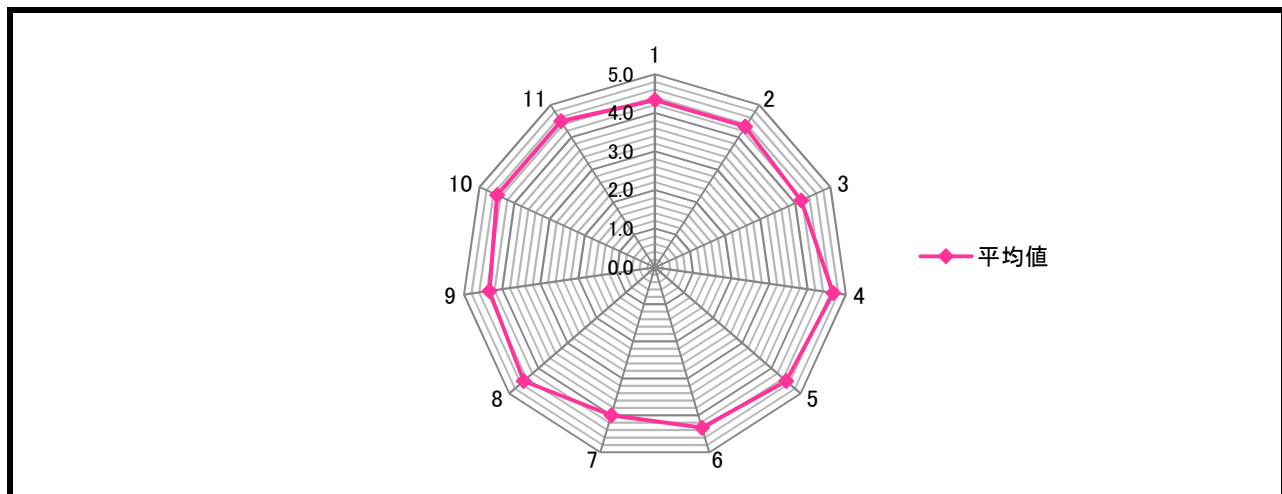
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	教職基礎力開発演習Ⅱ(特別支援)	
授業区分	共通科目	回答者数 6名
担当教員名	大谷博俊, 伊藤弘道, 井上とも子, 高原光恵, 尾関美和, 坂口純子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	4					4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	4					4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	3	1				4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	3					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	2	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	1	4	1				4.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	3					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	4					4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	3					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	3					4.5



教員のコメント

質問項目の評価平均値は4.0以上であり、受講生は本授業を肯定的に捉えていると判断できる。特に教師としての専門性向上を問う設問では、最も評価平均値が高くなっており、学校教員を目指す受講生にとって、有意義な授業であったと推察できる。一方、自由記述への回答と質問項目の評価値を照合すると、オンライン形式の授業において、どのようにアクティブラーニングを組み入れるのかについては、さらに検討する必要があるといえるのではないだろうか。

令和3年度 結果報告書

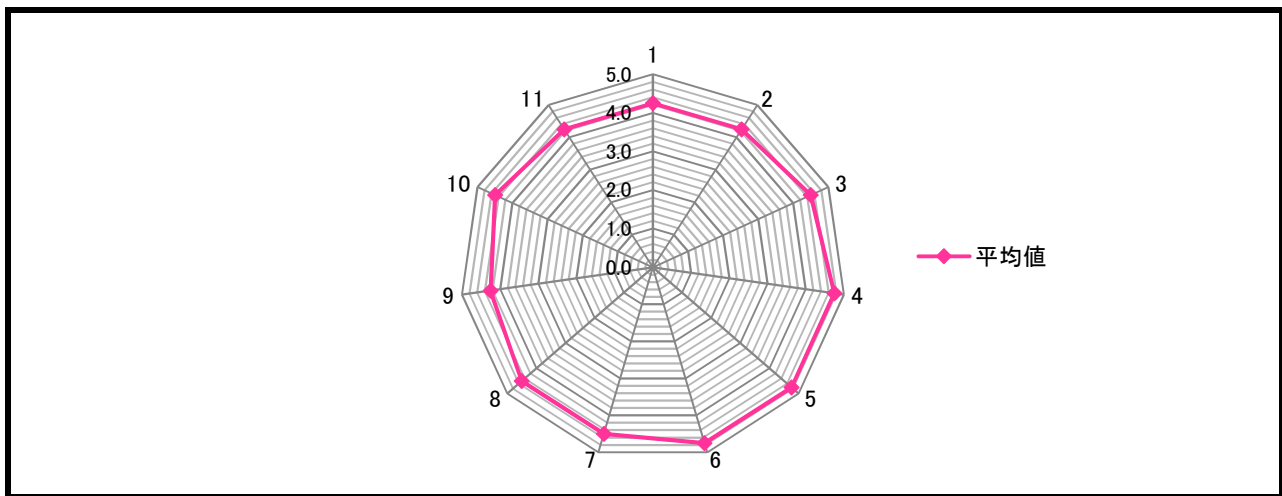
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	言語文化教育(国語)の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	幾田伸司, 平川恵実子		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	1	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1	1				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3		1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3		1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3		1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3			1			4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3		1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3			1			4.3



教員のコメント

受講生が少人数で、演習を多く取り入れたこともあって、全般的には肯定的評価が多かった。現職院生も受講しており、討議では実践的な視点からの意見も交わされ、多様な意見の交流が行えたように捉えている。しかし、1名からは主体的に取り組めなかったという評価であった。授業中の様子からは全員が熱心に討議に参加しているように感じられていたので、この項目の自己評価が低かったことが予想外であった。授業内容全般については肯定的評価も多く、自由記述には「現場で役に立つ」という意見も見られるなど、一概に方法に問題あったとは言えないものの、シラバス、授業の進捗、課題や資料の内容は検討する必要がある。受講生の意見を取り入れて扱う教材を選定するといった方法も、次年度には取り入れたいと考えている。

令和3年度 結果報告書

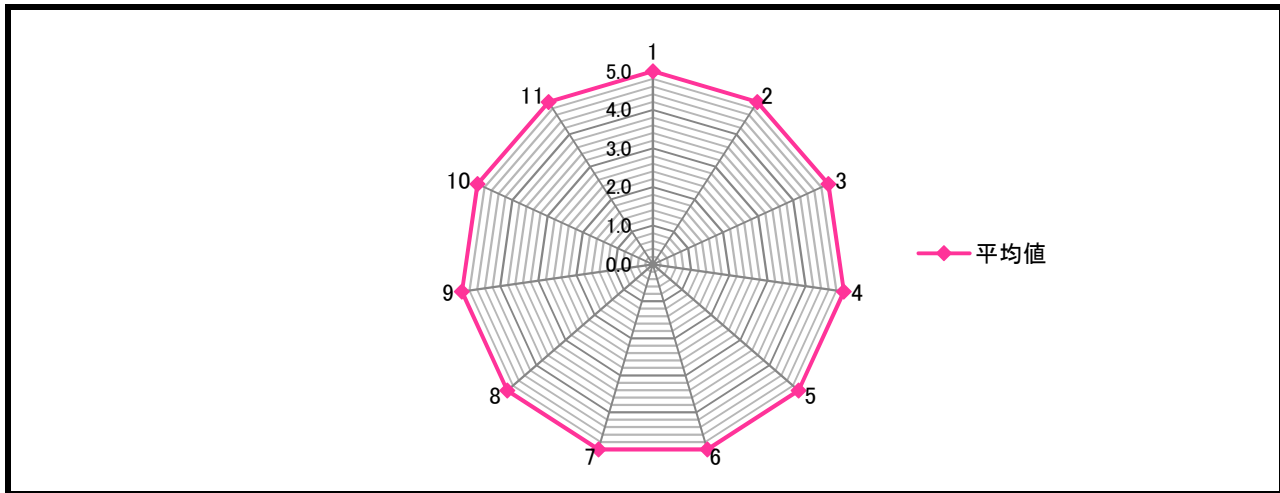
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	言語コミュニケーション教育(英語)の教材開発演習	
授業区分	専門 科目	回答者数 5 名
担当教員名	佐藤美智子, 眞野美穂	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0



教員のコメント

履修していただいた院生の方々から高評価をいただけたこと大変有り難く思います。言語学と教育学の教員が、相互の特性を生かし、連携しながらシラバスや授業内容を考えたこと、アクティブラーニングを意識した授業展開を心がけたことなどが評価していただけた要因の一つかと思います。今後もよりよい授業を旨として精進してまいります。

令和3年度 結果報告書

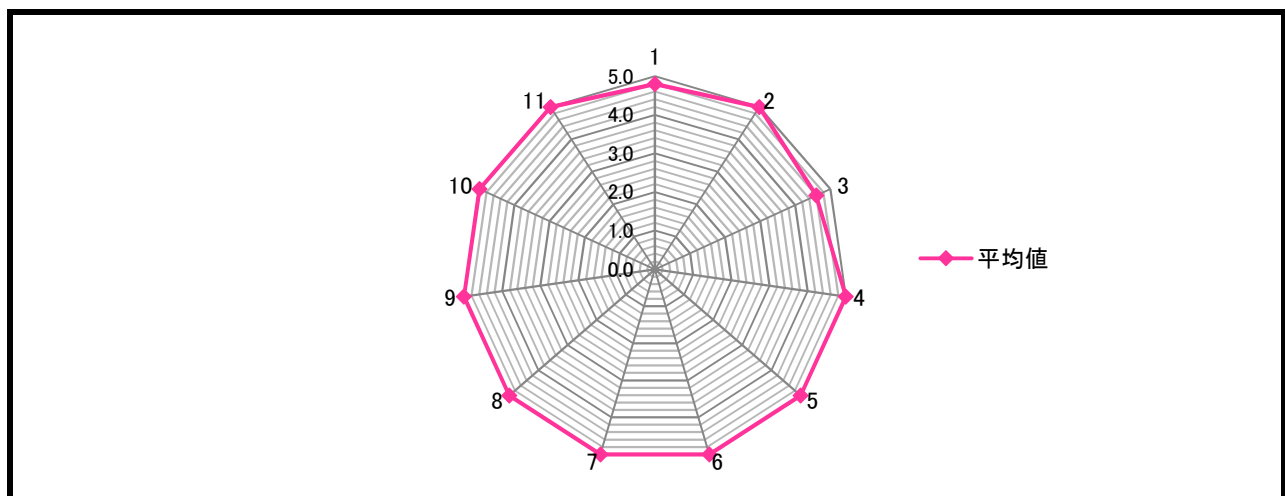
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	言語文化教育(英語)の教材開発演習	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	山森直人	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	2					4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	5						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5						5.0



教員のコメント

(受講者9名のうち回答者が5名であったことをふまえて結果を分析・考察する必要があるが)いずれの質問項目においても評定の平均値が4.5以上で高評であった。昨年度相対的に評定平均値が低い項目6(授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。)と項目8(授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。)はいずれも満点となった。項目6については, グループワークを増やしたことが効果的であったと考える。また, 項目8については, 昨年度課題としてあげた最終の演習課題のための準備時間が短くならないよう十分な時間を設定したことが功を奏したようだ。その一方で, 項目3(授業の内容は, 分かりやすかった。)の得点が相対的に低い結果となった(昨年度も4.6)。特に授業で扱ったCLILに関する説明の時間が十分にとれなかったことが, その原因と考えられる。学生の理解等の状況を考慮しながら「演習」と「講義」のバランスを考える必要がある。

令和3年度 結果報告書

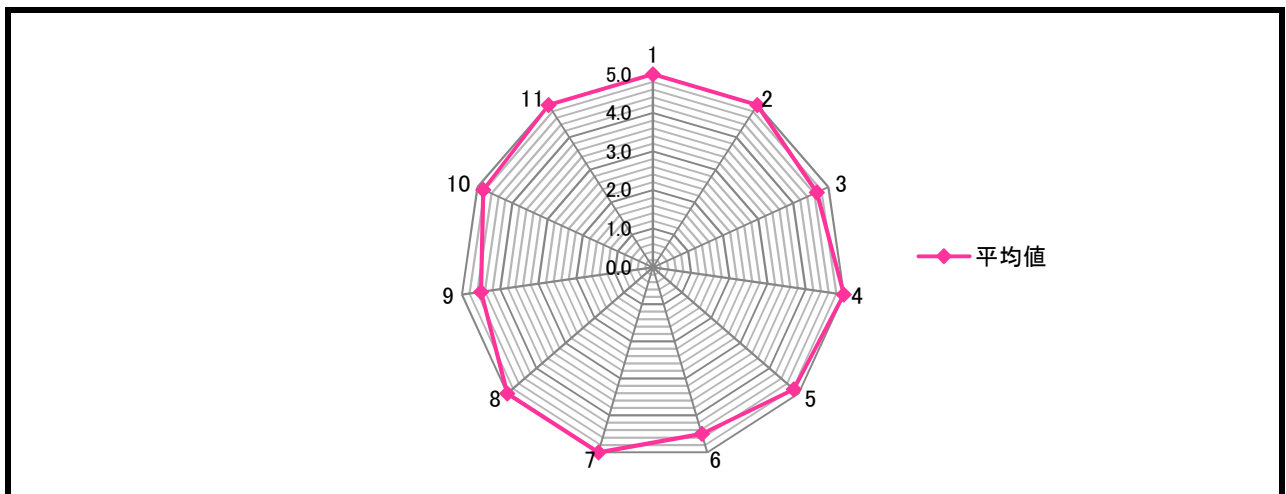
評価実施日	令和4年2月10日
-------	-----------

授業科目名	言語文化教育(英語)の学習指導と授業デザイン	
授業区分	専門 科目	回答者数 6 名
担当教員名	山森直人, ジェラード・マーシェソ	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	2					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	6						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	1				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6						5.0



教員のコメント

(受講者10名のうち回答者が6名であったことをふまえて結果を分析・考察する必要があるが)いずれの質問項目においても評定の平均値が4.5以上で高評であった。昨年度, 相対的に評定平均値が低かった項目2(授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。), 項目3(授業の内容は, 分かりやすかった。), 項目6(授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。)の平均値が向上した(項目2: 4.3→5.0, 項目3: 4.3→4.7, 項目6: 4.1→4.5)。特に, 授業担当者間で授業の主旨と指導内容を確認するとともに, 受講生に対し, 担当部分の主旨について説明を十分に行った結果であると考え。ただし, まだまだ他の授業(言語文化教育(英語)の内容構成演習, および教材開発演習)とのつながりや授業の展開について改善の余地はあり, より良い授業を目指して授業担当者間でさらなる連携を図りたい。

令和3年度 結果報告書

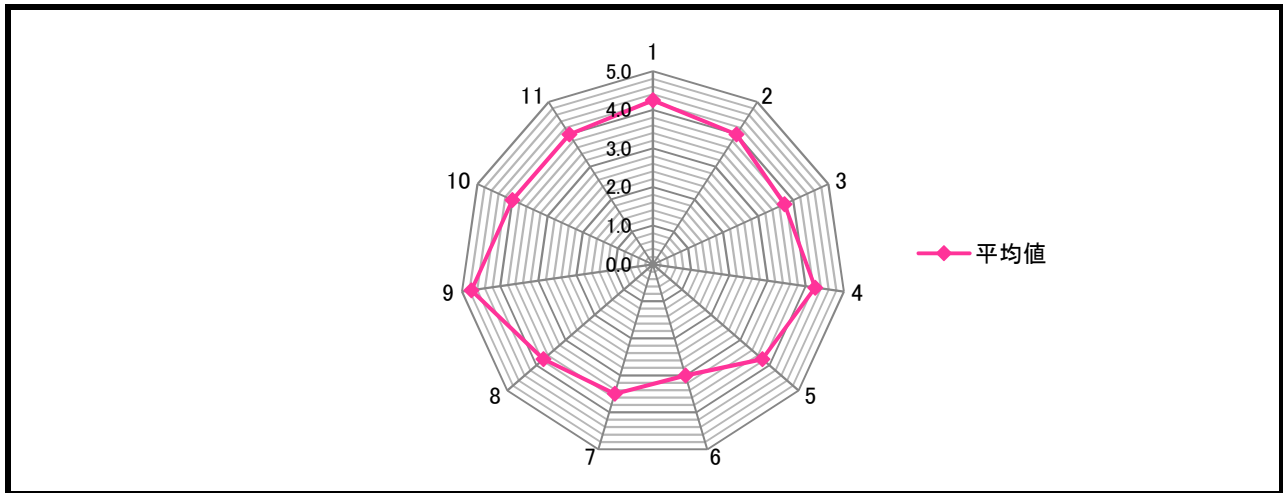
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	社会認識教育(地理歴史)の内容構成演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	立岡裕士, 畠山輝雄, 伊藤直之		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3			1			4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1		1			4.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2		1	1			3.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3			1			4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2		1	1			3.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	1		1	2			3.0
7	授業の進む速さは適切であった。	1	1	1	1			3.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2		1	1			3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	1		1			4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	1		1			4.0



教員のコメント

- ・授業の進度(7)については評価が完全に分かれている。取り上げる内容の選択と説明の詳しさを調整をさらに図りたい。
- ・多くの項目において評価が2極化しており、そうした側面での改善が必要である。

令和3年度 結果報告書

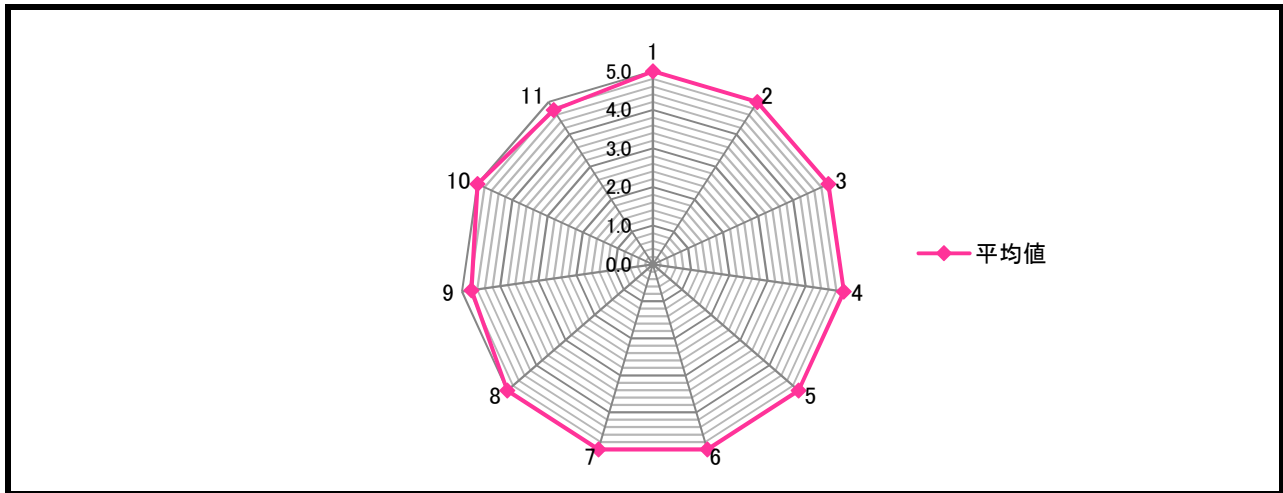
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	社会認識教育(地理歴史)の教材開発演習A		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	畠山輝雄, 立岡裕士, 伊藤直之		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

大学院生からの評価は、おおむね良好であった。授業後半はオンライン授業となってしまったが、オンライン授業の良さも生かして取り組んだ。2022年度も、大学院生からのニーズを踏まえ、2021年度以上と同様に大学院生の地理的な見方・考え方を育成できる演習を心掛けた。

令和3年度 結果報告書

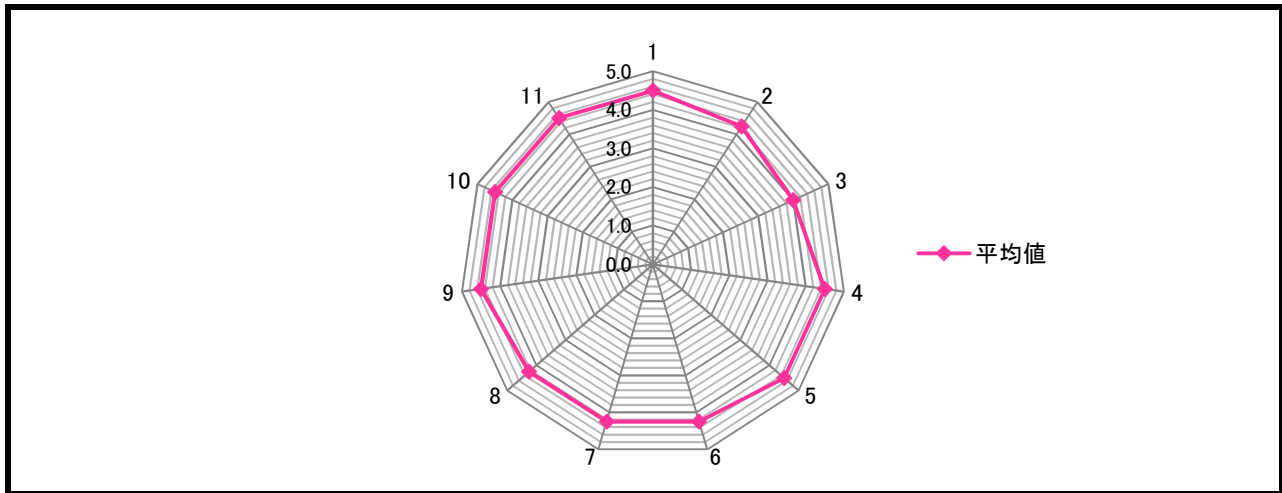
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	社会認識教育(地理歴史)の学習指導と授業デザインA		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	伊藤直之, 立岡裕士, 畠山輝雄		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3		1				4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1	1				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	2	1				4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3		1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3		1				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1	1				4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3		1				4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3		1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3		1				4.5



教員のコメント

授業評価としては「分かりやすさ」の点で課題が残る結果となった。この授業では、地理教育の課程編成の理念型として、地理科地理・社会科地理・市民科地理の類型を提示しているが、受講者にとって理念的すぎて実践との乖離が大きいものとなったことは否めない。学習指導要領との関連を充実させるなど、改善策について今後も検討していきたい。

令和3年度 結果報告書

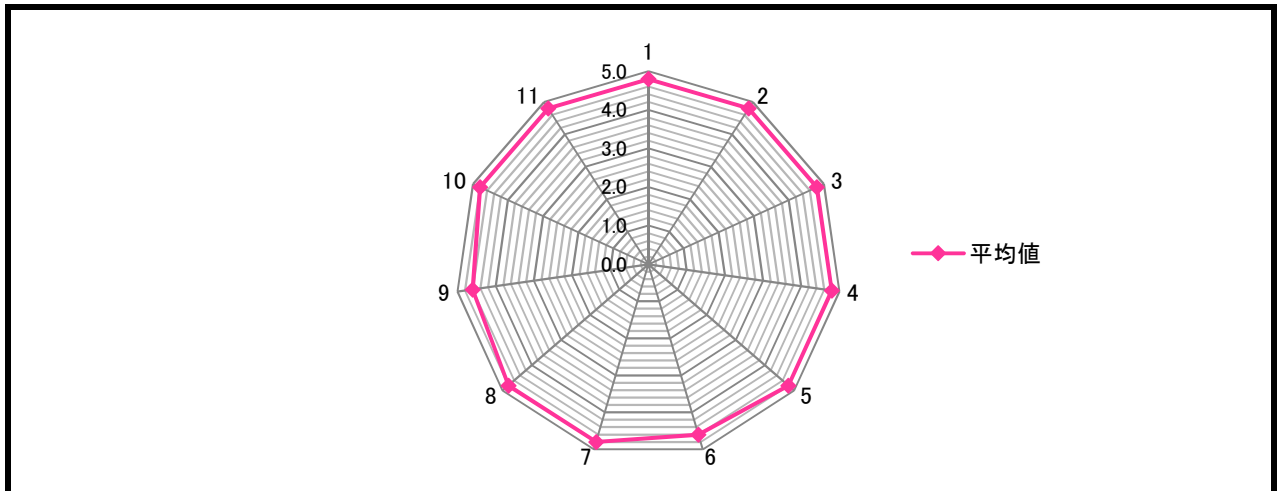
評価実施日 令和3年10月28日

授業科目名	社会認識教育(公民)の学習指導と授業デザインA	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	井上奈穂, 青葉暢子, 麻生多聞, 眞野豊	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4		1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8



教員のコメント

おおむね、満足できる状況と考える。しかしながら、「授業では、シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた」、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」が全体と比較して低い状況にある。今回は、シラバスを前提としつつ、学生の要望等に合わせ、柔軟に授業の形態を変えていたことが原因ではないかと考えられる。次年度は、シラバスについての説明をより丁寧行った授業を進める予定である。

令和3年度 結果報告書

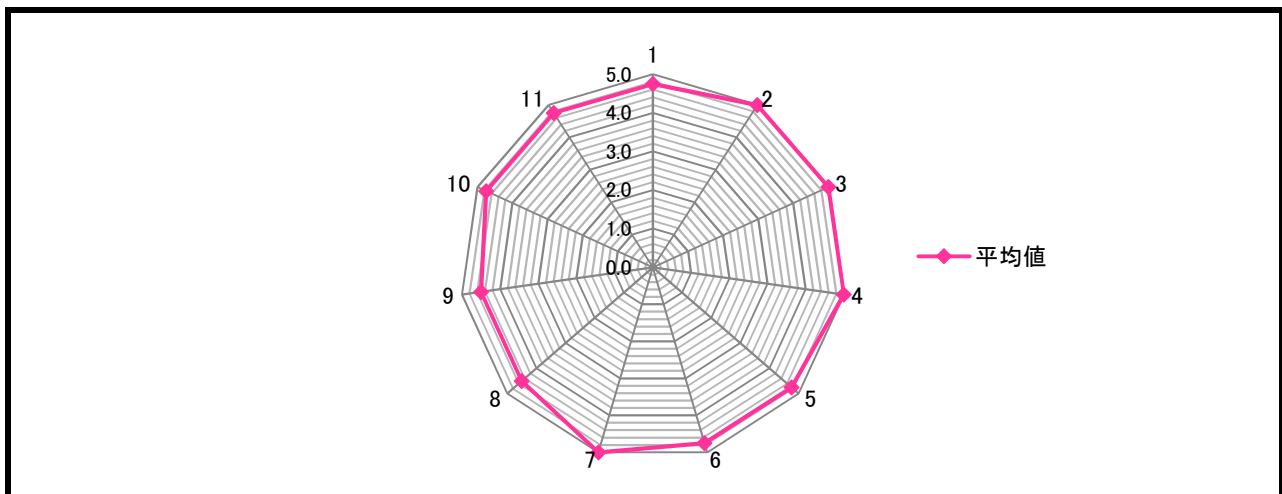
評価実施日	令和4年2月16日
-------	-----------

授業科目名	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の構成とカリキュラム		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	村井万里子, 黒田俊太郎, 平川恵実子, 太田直也, 眞野美穂, 立岡裕士, 原田昌博, 町田哲, 眞野豊		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	4						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	2					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

○受講者数に比して回答者数が大変少なく、授業評価のあり方として課題を残した。これは、最終回が「レポート記述」時間となり、教員が直接授業評価記入の指示を出せなかったことが影響している。次年度よりこの点を工夫する必要がある。

○7人の授業担当者によるリレー方式の授業であるが、それぞれの授業者の内容と学習法選定における創意と工夫により、全体的に高い評価と満足度を得ている。

○昨年度に続き2回目の授業構成であるため、授業担当者による全体の授業づくりに見通しが立てやすくなった傾向が見られる。

○最終レポートの採点のしやすさにもそのことが影響している。

○観点8. 資料・課題・レポートの適切さと、観点9. 受講者本人主体的積極的取り組み、の2項目が若干低いのは、対面とリモートとが入り交じるうえ、「一回完結」であるため、話し合い等の継続性・連続性等が確保しづらいことなどが影響している可能性がある。

令和3年度 結果報告書

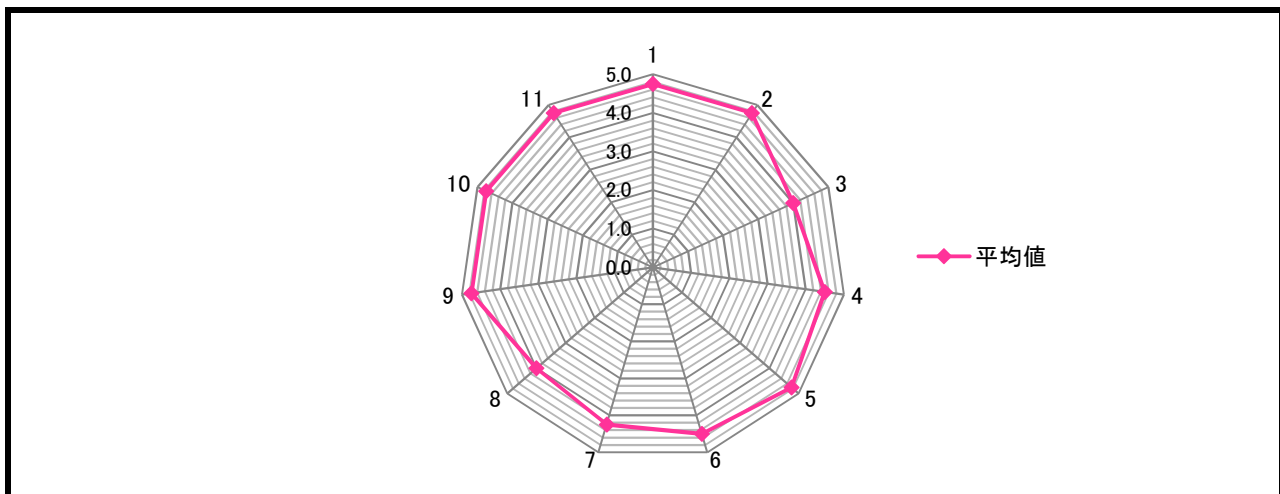
評価実施日	令和3年10月28日
-------	------------

授業科目名	ことば・文化・社会を視点とした教科横断型単元の学習指導と授業デザイン		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	伊藤直之, 原卓志, 余郷裕次, 藪下克彦, 眞野豊		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2		2				4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	2	1				4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

令和3年度は受講者が大きく減少した。授業評価としては「分かりやすさ」の点で課題が残る結果となった。この授業では、教科横断の根拠を汎用的な資質・能力の育成に置き、国語・英語・社会の3教科の横断を見据えて、受講者に単元構想のプレゼンテーションを課している。アクティブラーニングの充実の反作用として、受講者にとっての負担感が大きいものとなったことは否めない。クォーター制におけるアクティブラーニングのあり方について今後も検討していきたい。

令和3年度 結果報告書

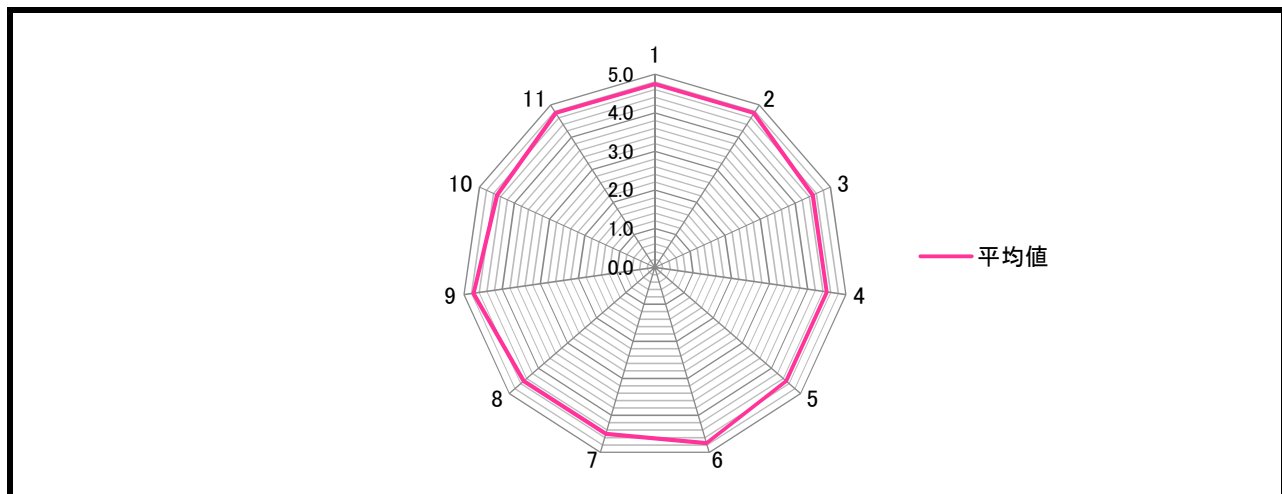
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	数理認識教育(数学)の教材開発演習B		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	宮口智成, 秋田美代, 佐伯昭彦, 関行宏, 早田透, 山中仁		

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	2					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	2					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

少人数(4人)であったとはいえ全体的に高評価を得た。自由記述欄にも「前半4回は大変有意義に勉強させていただきました。講義、課題、発表のバランスも良かったと思います」「前半の講義が面白く、学びにつながった。考える活動もあったので、受け身にならず、主体的に学習できたと考える」とあり、満足度は高かったことが伺える。一方、「高校の内容にはなりますが、確率分布や統計的な推測の内容についても学びたかった」とあるように、より高度な内容を含められるように改善を進めたい。

令和3年度 結果報告書

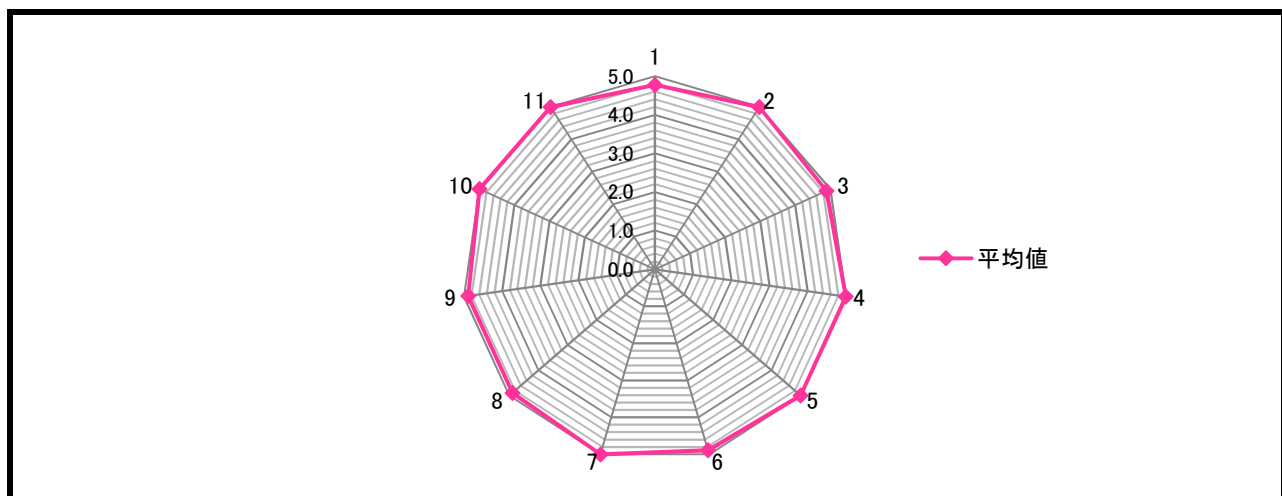
評価実施日	令和3年10月25日
-------	------------

授業科目名	数理認識教育(数学)の学習指導と授業デザインA	
授業区分	専門科目	回答者数 9名
担当教員名	秋田美代, 佐伯昭彦, 宮口智成, 関行宏, 早田透, 山中仁	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	1					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	9						5.0
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	8	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9						5.0



教員のコメント

本授業の目的は、数学の認識特性を踏まえた学習指導理論を基に、算数科・数学科の目標が実現できる授業のデザインと検討を行うことであった。数学の学習における認知特性に焦点を当て、学習者がこれまでに解決をしたことがない問題から数学としての自己の課題を見出し、経験をしたことのない問題を既習の数量・図形についての性質や関係として解釈して、「問題解決のためのアイデア」と「問題解決の過程を数学としての正しい筋道で説明すること」で、解決したことがない問題でも自己の力で解決方法を創り出すことを実現する授業の展開を分析・考察することを通して、履修者の「学習課題の分析力」、「学習目標の把握力」、「教材研究力」、「授業設計力」、「授業評価力」を高めること、および算数科・数学科の、目標が実現できる授業デザインと学習指導ができるようにすることをねらいとしていた。

各質問項目の評価平均値は4.8から5.0であった。受講者からは、授業についてのよかった点に対しては、「具体的に指導案を考えたことで身になったと思う」、「自分の意見だけでなく、周りの意見をいろいろ聞くことができたので良かった」、「一人一人が発表して、意見を深められた」こと等が記述されていた。授業についての改善してほしいこと、さらに望む事柄やアイデアに対しては、記述はなかった。これらのことから、本年度の受講生については、教員としての専門性や実践力を高め、授業の目的を概ね達成できたと考えられた。

各自が教材分析を基に学習者の理解の過程をデザインした学習指導案についての話し合いにおいて、受講者が意見を十分に述べて共通理解を図ることができた。次年度の課題としては、履修者が8回の授業において数学における学習者の認知特性に沿った授業デザイン方法を一層深く理解し、授業実践力を高められるように授業の構成を工夫することがある。

令和3年度 結果報告書

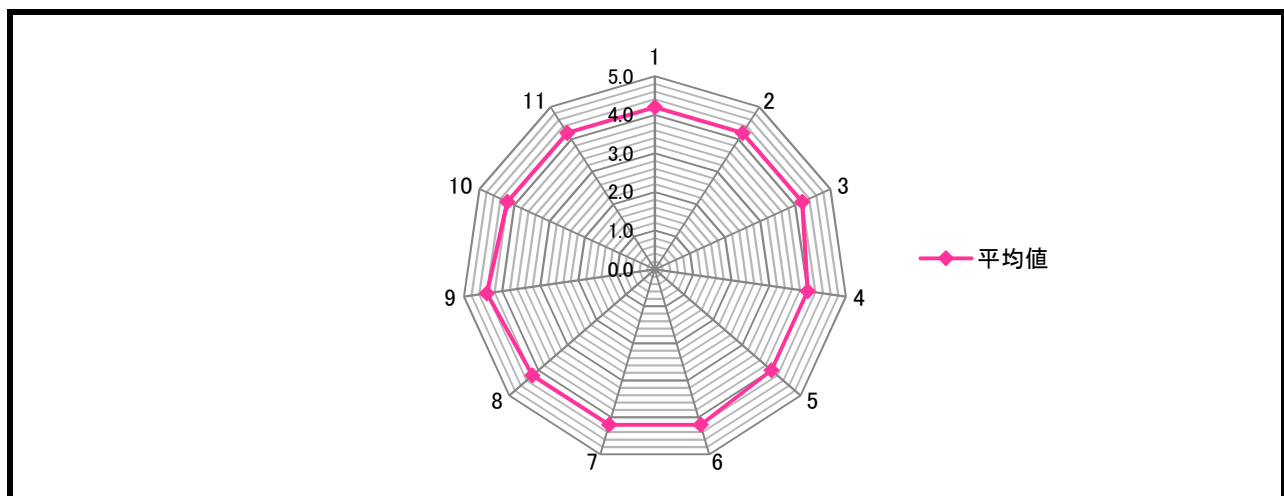
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の構成とカリキュラム	
授業区分	専門科目	回答者数 5名
担当教員名	西川和孝, 秋田美代, 佐伯昭彦, 宮口智成, 関行宏, 早田透, 山中仁, 粟田高明, 宮下晃一, 金貞均, 福井典代	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2	1				4.2
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2	1				4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2	1				4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	1	2				4.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	1	2				4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2	1				4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	2	2	1				4.2
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	2	1				4.2
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1				4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2	1				4.2
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2	1				4.2



教員のコメント

本授業は4つの専門分野(数学、理科、技術・工業・情報、家庭)による教科横断型授業で、各々の教科の専門的な内容を基に、汎用的な資質・能力の育成を目標とする。そのため各専門分野別に教科内容の理解、単元・カリキュラムの構想を行い、各教科の特性を掴み、横断型の学習指導ができる基盤づくりに努めた。ただ理数系と生活系の違いもあり、受講生の意欲と理解に幅があるのも否めない。それがアンケートの結果に表れたと考える。受講生が各教科の授業に主体的に取り組めるように横断型授業の主旨を十分理解させ、各専門の授業をより分かりやすくする必要が有ると考えられる。またアンケートの回答方式がネットを通した自律回答で受講生のアンケート回答率が低く、改善する必要がある。

令和3年度 結果報告書

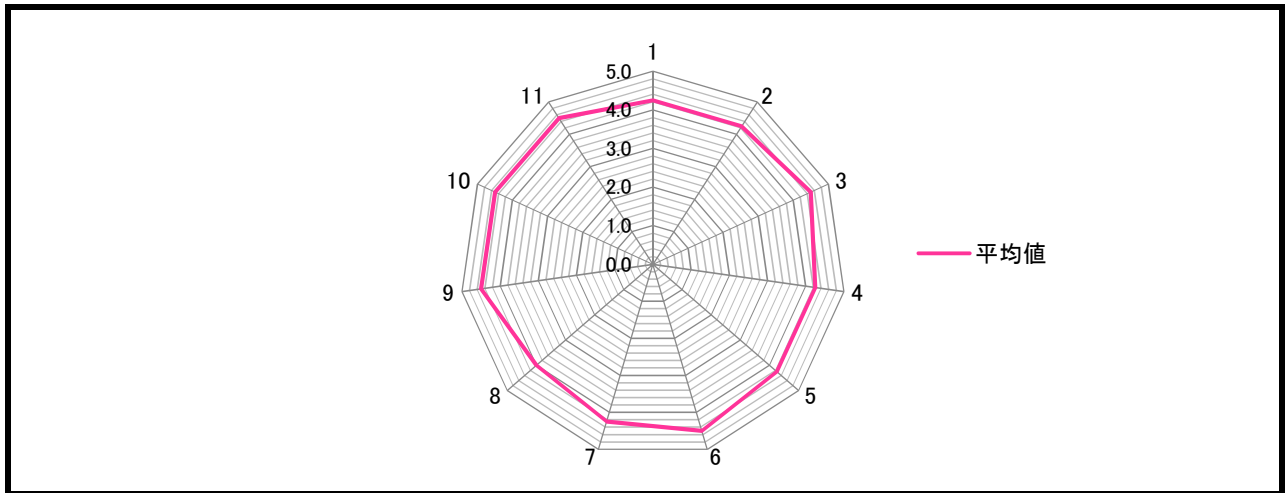
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	数学・理科・技術・工業・情報・家庭を往還した教科横断型単元の学習指導と授業デザイン	
授業区分	専門科目	回答者数 4名
担当教員名	宮口智成, 秋田美代, 佐伯昭彦, 関行宏, 早田透, 山中仁, 栗田高明, 菊地章, 黒川衣代, 速水多佳子, 坂本有芳	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	1	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	1	1				4.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	1	1				4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	1	1				4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	2					4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1		1			4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3		1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3		1				4.5



教員のコメント

アンケートの回答数が4人と少なかつたため、詳細な分析は不可能であるが、全項目の平均が4.0を超えており、昨年度の平均を大幅に上回った。この1年で授業改善が進んだ結果であると考えられる。大きな修正点は見出されないが、「授業で示された資料、課題、レポートは適切であった」に低い評価をした学生がいたことから、配付資料等の見直しを進めたい。それ以外にも来年度の授業に向けて、改善すべき点があれば更なる工夫を重ねていきたい。

令和3年度 結果報告書

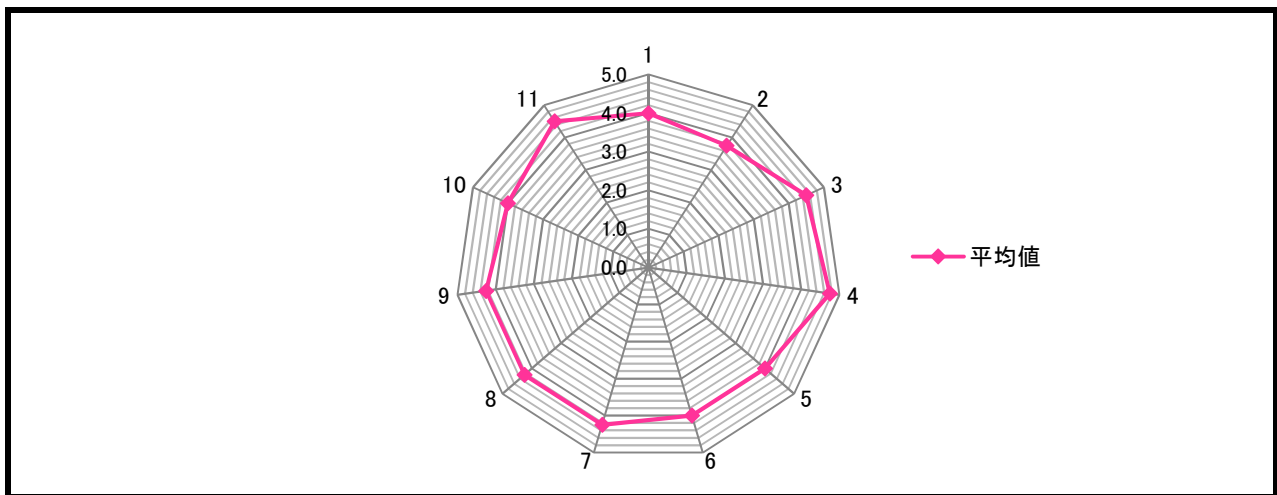
評価実施日 令和3年10月29日

授業科目名	健康・スポーツ教育(体育)の教材開発演習A		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	松井敦典, 藤田雅文, 湯口雅史, 田中弘之, 綿引勝美, 南隆尚, 木原資裕		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	1	2	1				4.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。		3	1				3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	2	2					4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	1	2	1				4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。		4					4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	3					4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	3					4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	1	2	1				4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	2	2					4.5



教員のコメント

本授業は保健体育科の内容学について各担当教員が担当分野の内容についてオムニバスで取り扱っており, しかも, 「内容構成演習」, 「教材開発演習」, 「学習計画と授業デザイン」の3授業を組み替えて実施しているため, このような授業単位での調査は必ずしも馴染まない。
しかし, 受講生は概ねその授業方法と取り扱う内容を理解し, 一定の学習成果を得ていると考えられる。

令和3年度 結果報告書

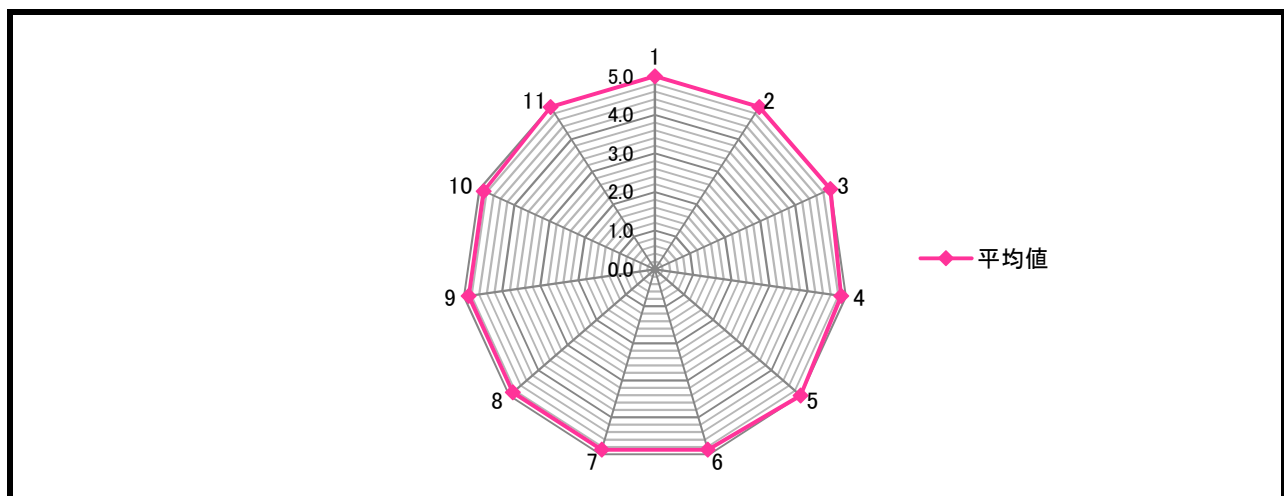
評価実施日	令和4年2月14日
-------	-----------

授業科目名	遊びの原理に立つ幼児教育	
授業区分	専門科目	回答者数 8名
担当教員名	湯地宏樹	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	1					4.9
7	授業の進む速度は適切であった。	7	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8						5.0



教員のコメント

本授業の受講者数は16名中8名の授業評価の結果である。
 授業評価に関しては、個人的にいつも「5」>「4」を目標としている。今年度は、すべての項目において目標を達成することができた。質問項目1, 2, 3, 5, 8, 11については全員「5」の評価であった。
 自由記述Ⅱのよかった点では、「遊びについて深く考えることができた」「様々な理論を学ぶことができ、幼児教育についても理解を深めることができた」など幼児教育に関すること、「動画の視聴やmoodle上の補足資料など、全授業を通して大変豊富な資料を示していただいた」などオンライン授業についての意見があった。自由記述Ⅲの改善点、自由記述Ⅳについては、特に意見はなかった。
 新型コロナウイルスの感染拡大によって遠隔授業を余儀なくされ、通常の対面授業ができずに十分ではなかったように思う。今年度は幼年関連3分野1名以外の異校種の現職教員・学部卒生であった。来年度は遠隔教育プログラムの開設もあり、「コンピテンシー・ベースの幼児教育」に名称変更して再スタートする。自由記述にも「校種などの「枠」に縛られずに視野を広げ、異校種に学ぶことの大切さをあらためて実感した」などとあった。今後も幼児教育の意義を理解できる機会になるような授業を展開していきたい。

令和3年度 結果報告書

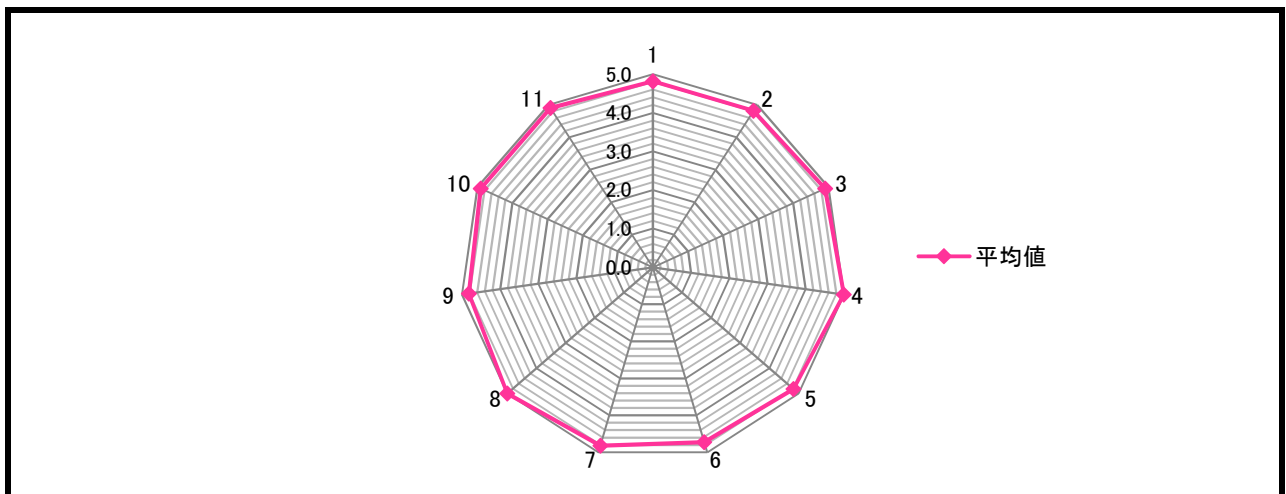
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	子ども家族支援の実際と課題	
授業区分	専門科目	回答者数 11名
担当教員名	木村直子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	11						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	1	1				4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	11						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	1					4.9



教員のコメント

今年度も様々なコースの方が履修してくださいました。感染症拡大の影響もあり、対面授業とオンライン授業を組み合わせたハイブリッド型の授業を実施することとなった。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。またオンラインのmoodle上でのディスカッションも非常に白熱し、とても充実した内容であった。受講くださった院生皆さんの積極的な参加が豊かな授業につながったと確信している。コメントを書いて下さった院生からは、「見えない貧困について知ることができ、子どもや家庭への理解の幅が少し広がった気がする。」「子どもの貧困・発達障害等の様々な家族の課題について学び、支援のレパートリーを考えることができた。」「発達障害の子どもをもつ保護者の気持ち、貧困による子どもの苦悩など、これから教育を行っていくうえで考えておかなければならない大切なことを学ぶことができた。」「社会で生きづらさを抱える子どもたちを多面的に考えることができた。問題の表面を見るだけでなく、その裏側や対処法についてもしっかりと学ぶことができました。ありがとうございました。」「今まであまり考えたことなかった家族支援ということについて、考えを深めることができた。」など授業内容を深く理解された肯定的なコメントが多く、次年度の授業にも活かしていきたい。

令和3年度 結果報告書

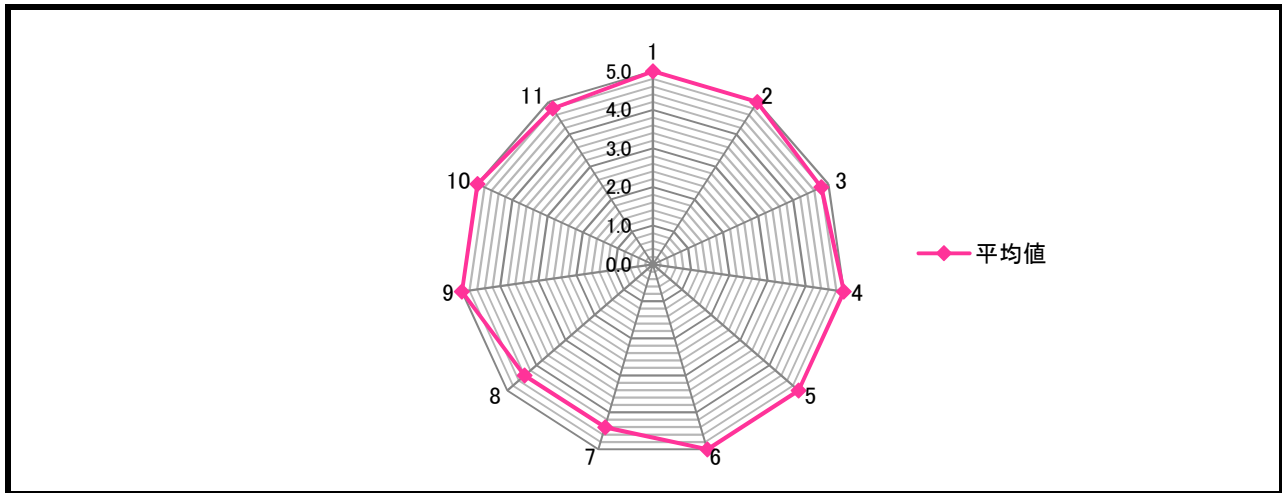
評価実施日	令和3年10月26日
-------	------------

授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインA	
授業区分	専門 科目	回答者数 5 名
担当教員名	大谷博俊	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5						5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5						5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3					4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	1	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5						5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	1					4.8



教員のコメント

質問項目の評価平均値は4.4以上であり、受講生は本授業を非常に肯定的に捉えていると判断できる。特に全受講生が「そう思う」と回答している項目が、全項目中の6割を超えており、本授業の設計は適切であったといえるのではないだろうか。その主な理由について、自由記述の回答から推測すれば、フィールドワークが影響していると考えられる。次年度においても授業計画に組み込んでいきたい。

令和3年度 結果報告書

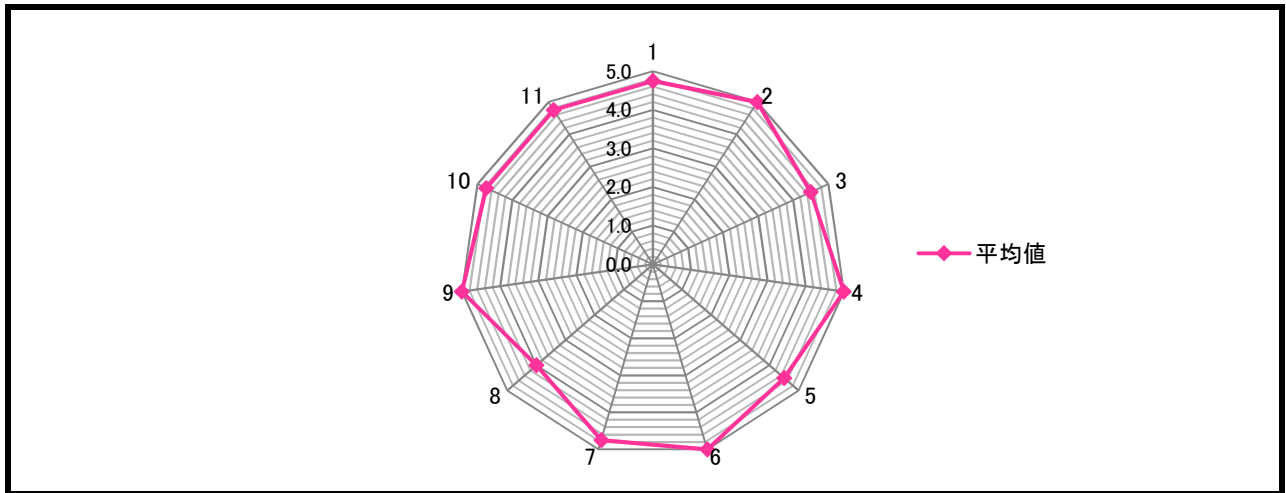
評価実施日	令和4年2月10日
-------	-----------

授業科目名	特別支援教育におけるキャリア教育・進路指導デザインB		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	大谷博俊		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4						5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3		1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3		1				4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	2	1		1			4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

質問項目の評価平均値は4.0以上であり、受講生は本授業を肯定的に捉えていると判断できる。教師としての専門性向上を問う設問では、全ての回答者が「そう思う」と回答しており、資質能力の向上を目指す受講生にとって、有意義な授業であったと推察できる。一方、自由記述への回答と質問項目の評価値を照合すると、レポートやその他の授業課題量の再考が求められていることが分かる。しかしながら、本授業のテーマであるキャリア概念とその実践の理解には、多くの学術的な知見と、実践知が不可欠であり、それ相応の課題をこなすことは必要になる。自由記述の回答にあるように、受講生には、より一層“調べて考えさせ価値づける”ことで、自ら学び取るような授業にしていきたい。

令和3年度 結果報告書

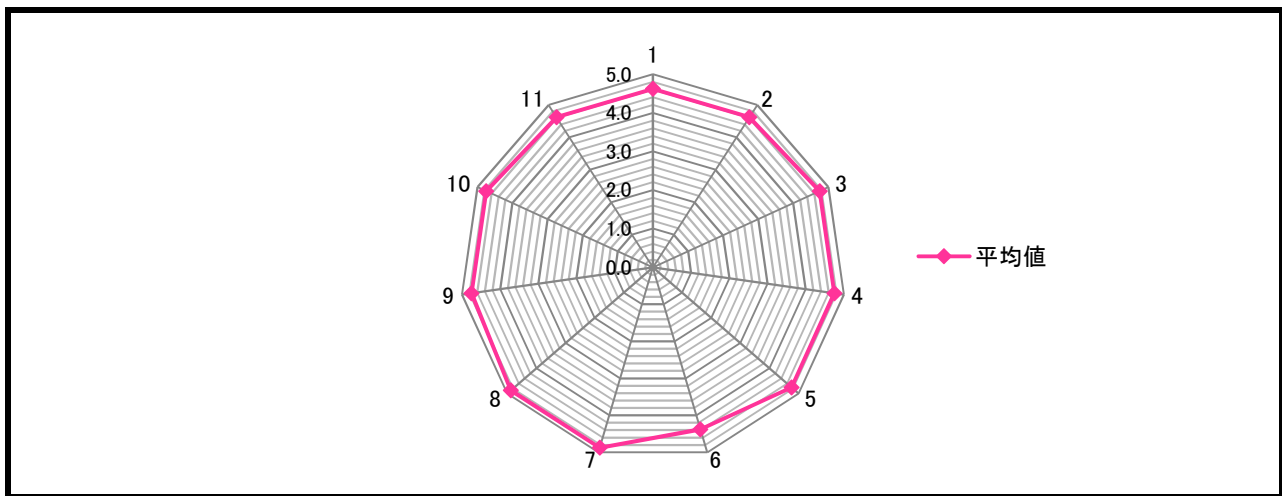
評価実施日	令和3年10月27日
-------	------------

授業科目名	特別支援教育における心理行動支援A	
授業区分	専門 科目	回答者数 8 名
担当教員名	高原光恵	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	3					4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	3					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	2					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	2					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	3	1				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	7	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	3					4.6



教員のコメント

本年度はオンラインで授業を行った。全体的な満足度は概ね高かったが、自由記述では対面での実施を希望する声もあった。今後はそうした実施方法についての改善も考慮しつつ、好評価であった部分もできるだけ維持・向上できるよう努めたい。

令和3年度 結果報告書

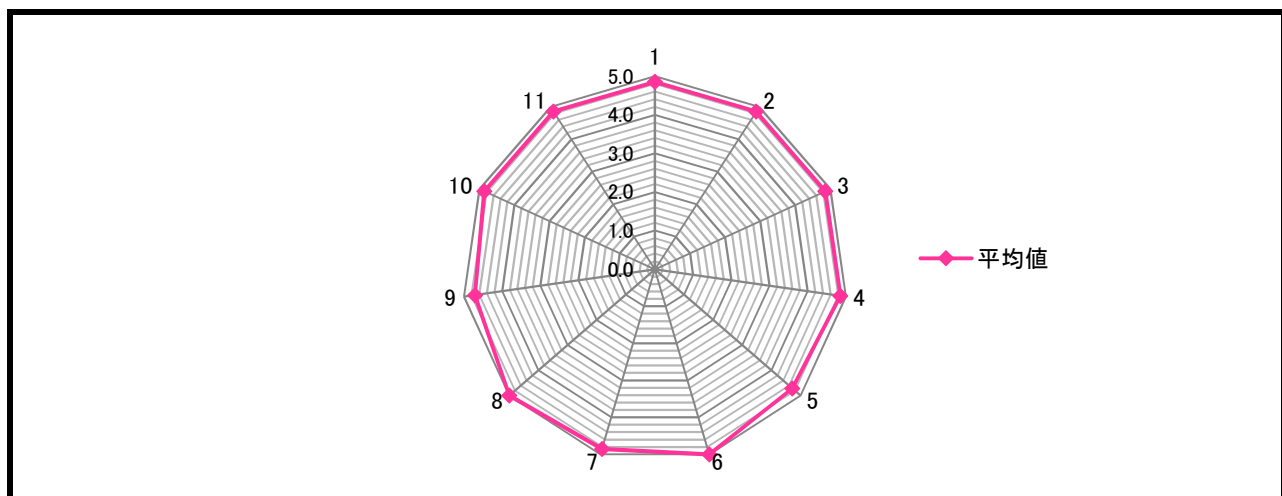
評価実施日	令和4年2月16日
-------	-----------

授業科目名	特別支援教育における心理行動支援B	
授業区分	専門 科目	回答者数 7 名
担当教員名	高原光恵	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	6	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	2					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7						5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	6	1					4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7						5.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	1					4.9



教員のコメント

今年度は、状況により対面形式とオンライン形式(非同期型、同期型)を取り入れつつ授業を実施した。どの形式となっても各受講生の主体的な授業準備や発表、意見・感想のやりとりなどが行われる結果となり、互いに学びを深めることとなったようである。ただし、自由記述には、対面形式での実施希望ほか、さらなる内容についての要望もあったため、今後の改善材料としたい。

令和3年度 結果報告書

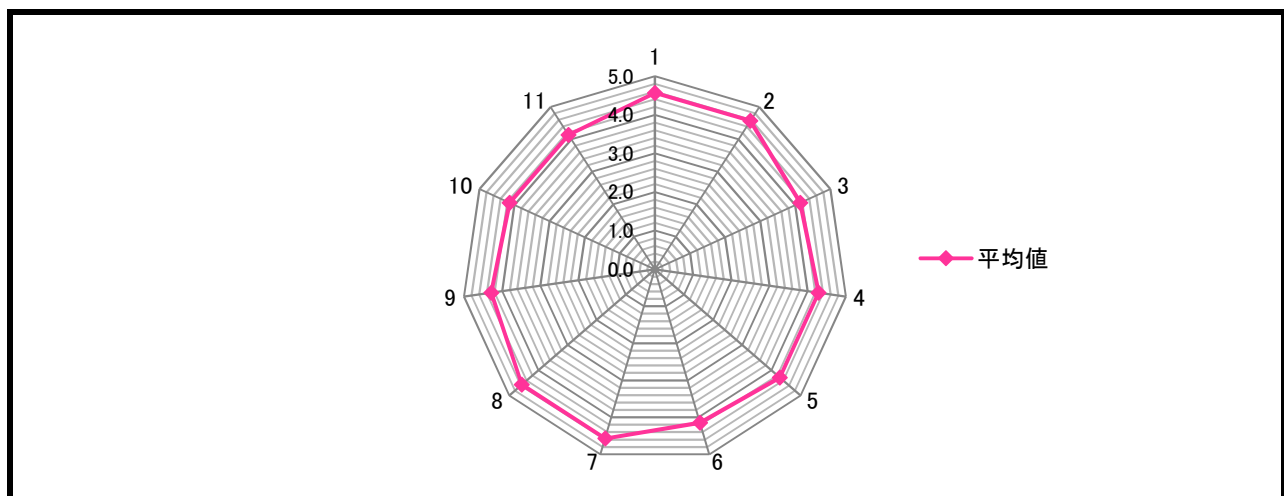
評価実施日	令和3年10月29日
-------	------------

授業科目名	特別支援教育における医療・教育の連携A	
授業区分	専門 科目	回答者数 7 名
担当教員名	伊藤弘道, 井上とも子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	1	1				4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1	1				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	1	1	1			4.1
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	2		1			4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4	2		1			4.3
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	1	1	1			4.1
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	1	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1	2				4.3
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	3		1			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	3		1			4.1



教員のコメント

本授業の目的であるが、発達障害児, 病弱児, 肢体不自由児など特別支援教育の対象となる児について、主として医療の観点から、テーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション, 討論などを実践することにより、特別支援教育の対象児に対する医療的観点からのより深い理解をすすめることである。本年度はコロナ禍の影響があり、授業中の感染予防の観点から、例年とは授業方法を大きく変更し、対話的な活動を制限した。院生からの授業評価結果であるが、回答率は高くないものの各項目とも平均4点台であり、概ね問題ない授業内容であったと考えられた。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今後とも授業の内容、方法について改善を行っていききたい。

令和3年度 結果報告書

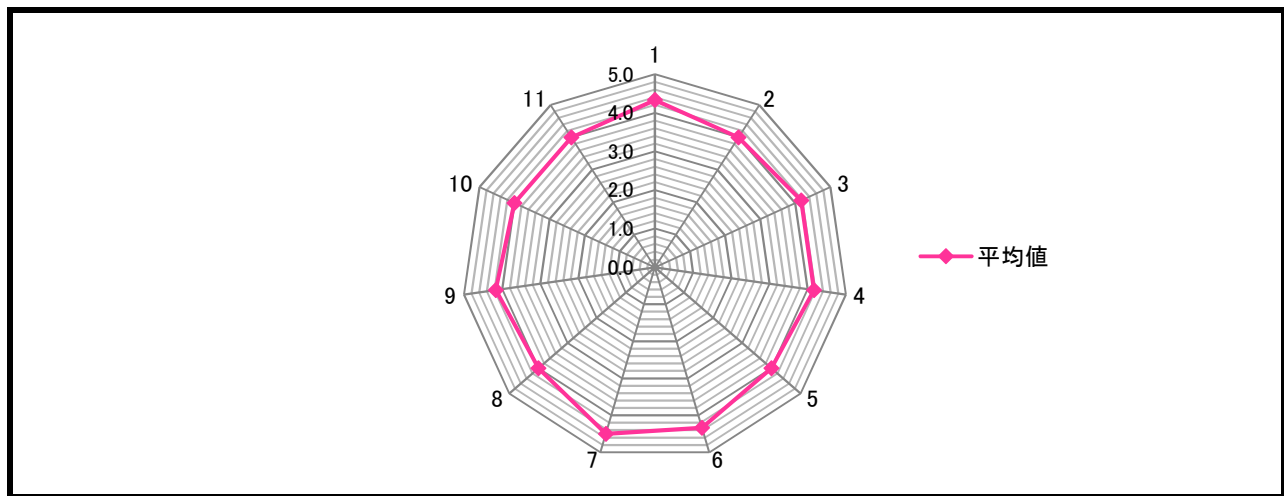
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	特別支援教育における医療・教育の連携B	
授業区分	専門 科目	回答者数 6 名
担当教員名	伊藤弘道, 井上とも子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	3	2	1				4.3
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	3	1	1	1			4.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	1	2				4.2
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	3	1	2				4.2
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	3	1	1	1			4.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	3	2	1				4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	4	1	1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	1	1	1			4.0
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	2				4.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	1	1	1			4.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1	1	1			4.0



教員のコメント

本授業の目的であるが、発達障害児, 病弱児, 肢体不自由児など特別支援教育の対象となる児について、主として医療の観点から、テーマを毎回決め、少人数のグループにて文献研究を行い、この分野の研究について理解を深め、あわせて、プレゼンテーション、討論などを実践することにより、特別支援教育の対象児に対する医療的観点からのより深い理解をすすめることである。本年度はコロナ禍の影響があり、授業中の感染予防の観点から、例年とは授業方法を大きく変更し、対話的な活動を制限した。院生からの授業評価結果であるが、回答率は高くないものの各項目とも平均4点台であり、概ね問題ない授業内容であったと考えられた。コロナ関連の感染予防と対話的な授業の両立・バランスは今後も課題であるが、今後とも授業の内容、方法について改善を行っていきたい。

令和3年度 結果報告書

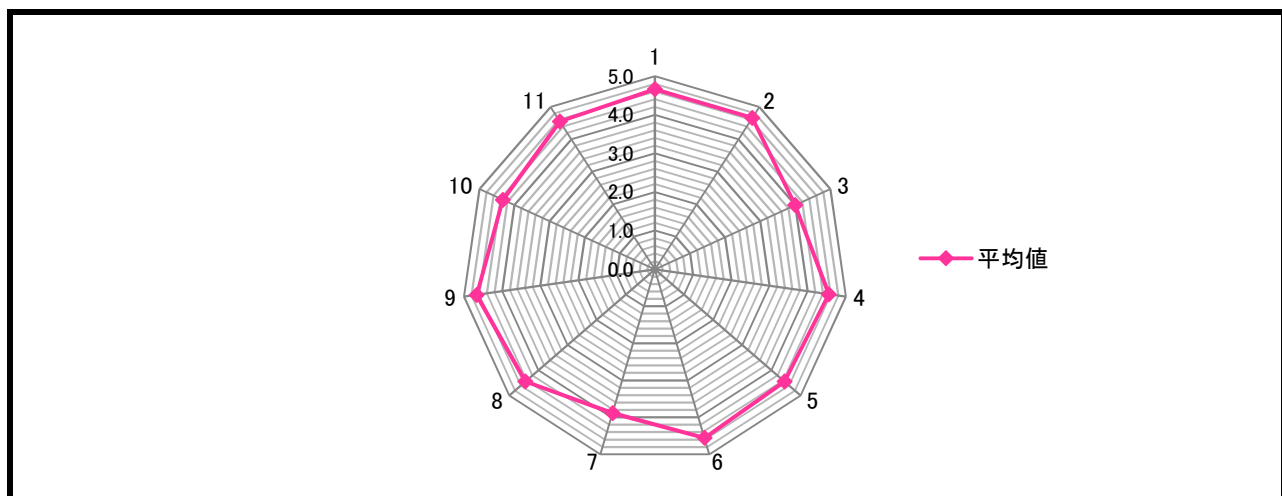
評価実施日	令和3年10月28日
-------	------------

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携A	
授業区分	専門 科目	回答者数 9 名
担当教員名	島田恭仁	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨、到達目標、授業計画、成績評価等は理解しやすかった。	6	3					4.7
2	授業の内容は、シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	3					4.7
3	授業の内容は、分かりやすかった。	3	4	1	1			4.0
4	授業の内容は、教師の専門性を高められるものであった。	5	4					4.6
5	授業の内容は、実践力の育成につながるものであった。	4	5					4.4
6	授業では、シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	4					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	3	4		2			3.9
8	授業で示された資料、課題、レポートは適切であった。	5	3	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3					4.7
10	自分にとって、満足感を得られた授業であった。	4	4	1				4.3
11	この授業をきっかけに、もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	2	1				4.6



教員のコメント

11項目中6項目で4.6以上の高い評定値になり、全体の評定値平均は4.45という結果だった。

項目(1)(2)(9)で4.7の高い評定値であったことから、「シラバスに示した授業の主旨・目標等が理解しやすく、授業の内容がシラバスに沿って適切であったため、主体的・積極的に取り組むことができた」と感じた学生が多かったことが分かった。シラバスにおいては、各種心理検査の結果を読み取ることができるようになること、結果にもとづいて児童の特性を理解し教育実践につなげてゆくこと、という主旨・目標を強調したが、このような主旨・目標に沿った授業が受講生の興味・関心を高め、主体的・積極的に取り組むための動機づけになったと思われる。

また、項目(4)(6)(11)でも、4.6の高い評定値になったことから、「授業の内容は教師の専門性を高められるものであり、アクティブ・ラーニングが適切に実施されていたため、この授業をきっかけに もっと学びを深めたいと思うようになった」と答えた受講生が多いことが分かった。授業中に知的障害児や発達障害児の指導に役立つ検査器具を実際に取り扱う実習を取り入れたことで、特別支援教育におけるアセスメントと指導に関する専門的な知識・技能を涵養するのに役立ち、さらにコロナ禍の最中ではあったが、マスク・シールドの着用、ディスタンスの確保、小声での討議を徹底し、三密を避けたグループワークを行えるように工夫したため、さらに学びを深めたいという受講生の意欲を喚起するのに役立ったと言える。

また、項目(3)(8)(10)でも、4.0以上の評定が得られたことから、「授業の内容は分かりやすく、課題は適切であったため、満足感の得られた授業であった」と感じた学生が多かった。ただし、項目(3)(7)では2の評定をした学生もいたことから、中には「授業の進み方が速く、分かりにくい」と感じた学生も若干名いることも分かった。従って、今後、学生のもつ基礎知識の違いを考慮して、全員の理解度を確かめながら授業を進めていくための工夫が必要だと言える。

令和3年度 結果報告書

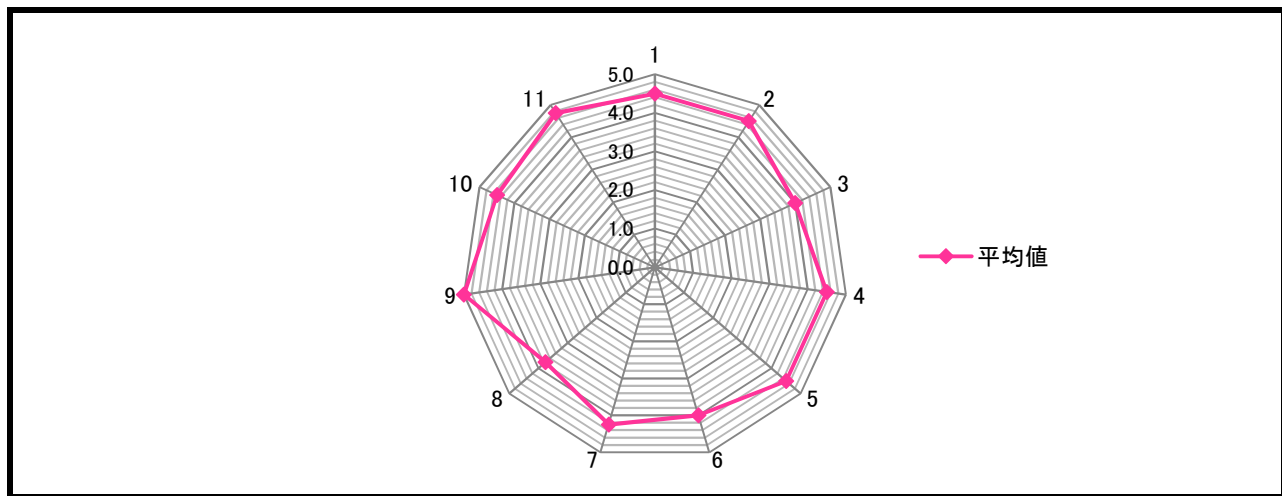
評価実施日	令和4年2月10日
-------	-----------

授業科目名	特別支援教育における心理学・教育学の連携B		
授業区分	専門 科目	回答者数	4 名
担当教員名	島田恭仁, 井上とも子		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	2					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	2					4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	1	2	1				4.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	2	2					4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	2	2					4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1		1			4.0
7	授業の進む速さは適切であった。	2	1	1				4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	2		1			3.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	2	2					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	3	1					4.8



教員のコメント

11項目中7項目で4.5以上の高い評定値になり、全体の評定値平均は4.4という結果だった。

項目(9)(10)では、5.0と4.8という高い評定値であったことから、「授業に主体的・積極的に取り組み、この授業をきっかけに、もっと学びを広げたり深めたりしたい」と感じた学生が多かったことが分かった。本講の受講生は「特別支援教育における心理学・教育学の連携A」を履修済みであり、心理学的なアセスメントと指導についての基礎的な素養を身に付けていたため、本講の前半で、さらに複雑なアセスメントと指導の演習に取り組んだことで、一層、意欲を高めることができ、もっと学びを広げたい、深めたいという気持ちを喚起できたのだと思われる。

項目(1)(2)(4)(5)(10)でも、4.5の高い評定になったことから、「シラバスは理解しやすく、授業はシラバスの主旨に沿って進められ、教師の専門性を高め、実践力の育成につながる、満足できる内容だった」と答えた受講生が多いことが分かった。授業中に、認知機能を測定する検査器具を取り扱う実習とホームワークを取り入れ、認知特性に合わせた個別指導計画を立案することの重要性を分かりやすく説明できたため、受講生はシラバスの主旨通りに自身の専門性と実践力を高めるのに役立つと感じたのだと言える。

また、項目(3)(6)(7)でも、4.0以上の評定結果になったことから、「授業の内容は分かりやすく、アクティブ・ラーニングが適切に実施され、進む速さも適切だった」と思った受講生が多いことが分かった。ただし、項目(6)(8)では2の評定をした学生もいたことから、中には「アクティブ・ラーニングがうまく実施されておらず、課題やレポートは適切でなかった」と感じた学生も若干いることも分かった。従って、今後、グループワークの仕方を一層改善し、コロナ禍の中でも全員参加型の授業を進めていけるようにするための工夫が必要だと言える。

令和3年度 結果報告書

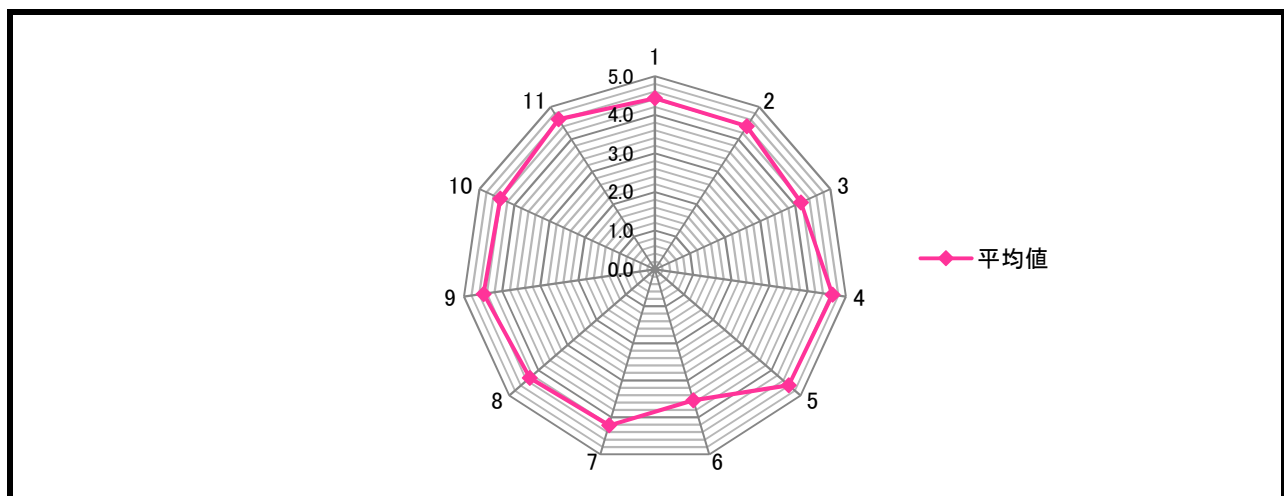
評価実施日	令和3年6月3日
-------	----------

授業科目名	リーダーシップとコミュニケーション	
授業区分	専門科目	回答者数 37名
担当教員名	前田洋一	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨、到達目標、授業計画、成績評価等は理解しやすかった。	19	15	3				4.4
2	授業の内容は、シラバスの主旨に沿って適切であった。	18	16	3				4.4
3	授業の内容は、分かりやすかった。	16	13	6	2			4.2
4	授業の内容は、教師の専門性を高められるものであった。	25	11	1				4.6
5	授業の内容は、実践力の育成につながるものであった。	24	11	2				4.6
6	授業では、シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	12	7	11	3	4		3.5
7	授業の進む速さは適切であった。	16	14	6	1			4.2
8	授業で示された資料、課題、レポートは適切であった。	18	15	2	1	1		4.3
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	23	10	3	1			4.5
10	自分にとって、満足感を得られた授業であった。	20	13	3	1			4.4
11	この授業をきっかけに、もっと学びを広げたり深めたりしたい。	25	11		1			4.6



教員のコメント

本年度は、コロナ禍により 初回のみ対面授業が実施できたがそれ以降はオンライン授業となった。資料(論文、書籍等)提供によるレポート作成による授業となった。当然、学習者相互の対話を中心としたアクティブ・ラーニングの授業は行うことができなかったため、評価番号6については低くなっている。にもかかわらずこの項目に関して好意的に感じている受講者がみられることは、レポートに関するきめ細かな評価や質問に対する応答など、個別の能動的思考を促す支援を実施した結果と考える。

今回の授業評価の結果をしてみると、オンライン授業でも個別に丁寧に対応することで受講生の授業に対する満足度を上げることができ基地ことが明らかとなった。この常葉遠隔教育プログラムにおける授業についても貴重な資料を提供することができると考える。その中の参考になる受講生の自由記述を添付しておく。

○1回目だけ、対面で行われた授業は、非常に楽しく次回がとても楽しみでした。わざわざ毎回の課題に丁寧なコメントを付けてくださっていました。オンデマンドだからこそ、余計に「温かさ」を感じられ、励みになりました。また課題の設定が、自分にとってかなり「自分事」と捉えることのできる内容で、提示された資料もとても参考になり、必死に夢中で課題に取り組むことができました。

○今までの教職経験を振り返ることができる内容の論文をたくさん提供していただきました。また、レポート提出後には必ず短期間で適切な助言を加えた評価をしてくださるので、充実した学習ができました。

○現職教員だからこそ、理解できる内容も多かった。論文を読んだ課題提出だったが、読んだ論文の内容や課題は、自分の経験や職場のことを省察したり分析するよい機会となった。じっくり職場の問題や自分の課題に向き合えた時間だった。また、マネジメントには全く興味をもっていなかったが、学校全体で取り組むことの重要性を実感した。

令和3年度 結果報告書

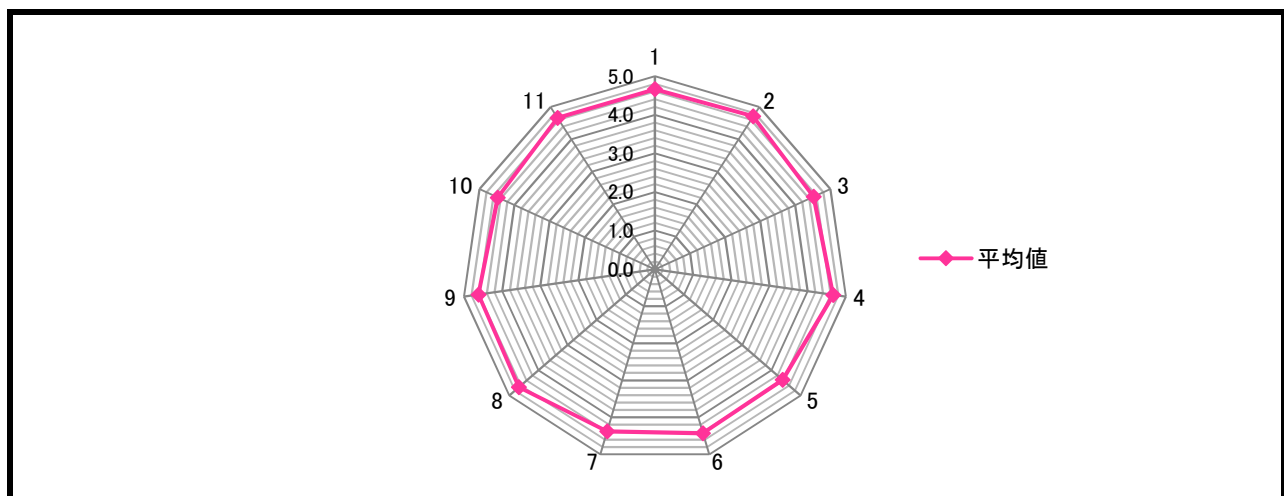
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	地域の教育課題と教育行政の実務	
授業区分	専門 科目	回答者数 21 名
担当教員名	藤井伊佐子, 前田洋一, 竹内敏	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	14	7					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	15	6					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	13	6	2				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	14	7					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	12	6	2	1			4.4
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	12	7	1	1			4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	8	13					4.4
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	14	7					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	8					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	13	6	1	1			4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	14	7					4.7



教員のコメント

各項目の5件法の平均値は4.4～4.7と高い評価が得られ、シラバスに沿って教育行政の在り方や教育施策等に対する新たな視点を紹介し、体験を交えて院生の視野を広げることを意識した指導の工夫が評価されたものと推察される。

具体的には、次の自由記述等からそのことが捉えられる。

・藤井先生の行政のお話を現場に分かりやすい視点で講義していただき、プレゼンや資料、グループワークがとても適切でした。先生の経験談も素晴らしく、多くの資料もよかったです。県教委訪問では日頃できない経験や見学をすることができ貴重な経験となりました。竹内先生のグループワークのまとめの話もとても実践的でよかったです。振り返りの視点も参考となりました。

・各班が作成したポンチ絵に対して、丁寧にみて頂いて助言をしてくださったのがよかった。また、受講者の関心をふまえた上で、防災教育やキャリア教育に関する内容を授業に加えてもらったのがよかった。少人数での話し合いも多く取られていたので、お互いの考えを聞き合うことができ学びになった。難しい専門書以外のお勧めの書籍を紹介してもらえたことが、次の学びにつながるのでもよかった。

・教育施策の立案を行い、ものの見方・考え方が広がりました。学校の思いだけの施策では成り立たないということ。税金を使って進めるのであれば、説明責任が果たせるものでなければいけないことが分かりました。施策の立案の仕方は今後の自分の考え方にも生かしていきたいと思えます。

・教育委員会の定例会傍聴や私たち教員が働きやすく、子どもたちに確かな力をつけるために教育行政の方が様々な取り組みをしてくださっていることが分かり、教育委員会からの文書や施策をしっかり把握して教育実践に努めようと思えました。一方、施策立案に係るディスカッションやポンチ絵作成等にもう少し時間が欲しかったという意見も複数あることから、次年度は基本的にはこのシラバスに沿った内容で進め、アクティブラーニングや授業の進度に改善を加えて実施していきたいと考える。

令和3年度 結果報告書

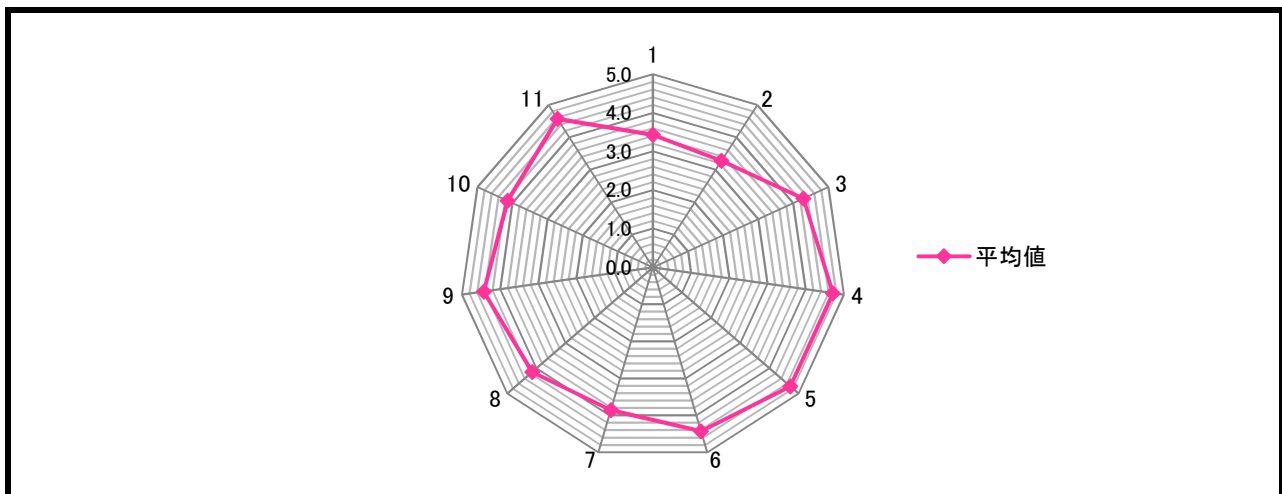
評価実施日	令和3年6月8日
-------	----------

授業科目名	教育法規実践演習	
授業区分	専門科目	回答者数 7名
担当教員名	石村雅雄	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。		4	2	1			3.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	1	3	1	1	1		3.3
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	3	3	1				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	2					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6		1				4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	1		1			4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	2	3	1	1			3.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	1	6					4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4					4.4
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	3		1			4.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6			1			4.6



教員のコメント

概ね、授業はうまく受けとめられたと考えている。シラバス云々は毎年言われているが、この授業は、受講生の文脈によって機動的に運営されるものであり、この項目の設定に無理があると考え。授業の進捗については、いわゆる現役学生と現職学生との間には、教育法規の実際についての理解の差が相当にあり、無理からぬことと思う。

令和3年度 結果報告書

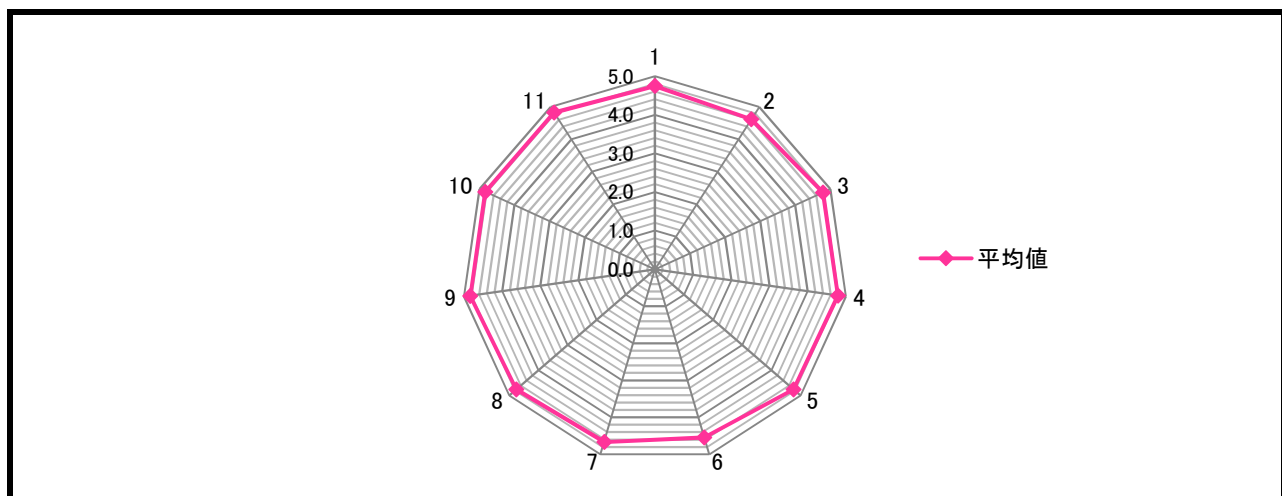
評価実施日	令和3年6月7日
-------	----------

授業科目名	学校危機管理の実践	
授業区分	専門 科目	回答者数 24 名
担当教員名	阪根健二	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	18	6					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	15	9					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	20	3	1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	19	5					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	19	4	1				4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	14	9	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	16	8					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	19	4	1				4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	4					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	20	4					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	20	4					4.8



教員のコメント

本授業では、コロナ禍のため、オンラインと対面との併用授業となった。ただ、オンラインはオンデマンドではなく、同期型(リコーシステム)で行い、演習も対面グループと遠隔グループとを分けて、何とか実施することができた。自由記述では、「いじめ問題への対応やコロナ対応など、様々な事例を通して、学校危機管理についての学びを深めることができた。自分のこれまでの生徒指導や学級経営の在り方を振り返るきっかけになり、教職員の連携の大切さを改めて実感する機会になった。」、あるいは「先生の経験から学ぶことがたくさんあった。非常に興味深い実践を教えてもらった。意見交換も対面でできたので、有意義なものになった。」とおおむね好評であったように思われる。ただ、「最終授業で行ったシェルモデルの分析が、対面授業でグループを変えて、もう少しできればよかったと思う。コロナ禍なので仕方ないですが…。」、「遠隔でリコーを使用するのは、防災対策を兼ねていると思うが、スライドが見にくいときがあった。」という記述もあり、この授業は対面方式の方が有効であることが伺えるが、今後遠隔でも満足度を上げるように工夫を重ねていきたいと考えている。

令和3年度 結果報告書

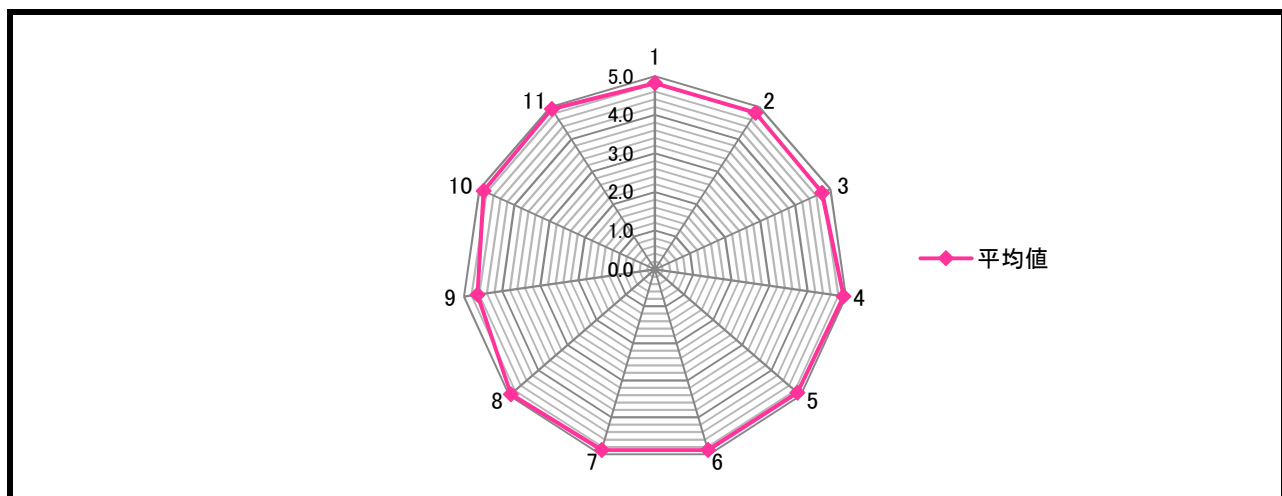
評価実施日	令和3年10月29日
-------	------------

授業科目名	学校防災教育の開発	
授業区分	専門 科目	回答者数 17 名
担当教員名	阪根健二	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	14	3					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	14	3					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	14	2	1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	16	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	15	2					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	15	2					4.9
7	授業の進む速さは適切であった。	16		1				4.9
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	16	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	4	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	16		1				4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	16	1					4.9



教員のコメント

この授業は、愛媛大学及びオンライン希望の本学生対象に遠隔(Zoom)を活用し、対面とのハイブリッド形式での授業で実施した。おおむね高い評価を得ることができた。自由筆記では、「様々な視点からの防災、災害、危機管理について学び考えることができました。事例をもとに、とても分かりやすかったです。補講である防災シンポジウムも非常に参考になりました。」、あるいは「グループに分かれて、実際に防災授業を作成し発表したり、各学校の防災の資料を持ってきて、改善点などを見つける授業があり、今後どういところに重視して授業を作成するのか、どのように考えていかなくてはいけないのか考えるきっかけになりました。」といった前向きの記事が多く、当初の目的は十分達成できたものと思われる。特に「遠隔での愛媛からの意見を聞くことができ、とても分かりやすく実践的であった。」という点で、対面と遠隔の併用授業も十分対応できることが示された。

令和3年度 結果報告書

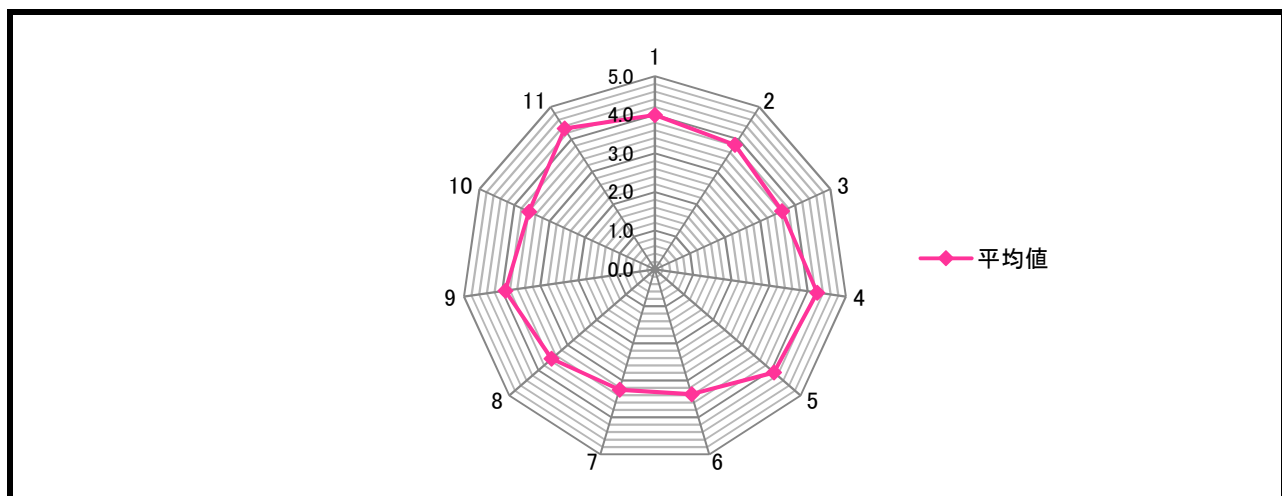
評価実施日	令和3年5月22日
-------	-----------

授業科目名	学校におけるカリキュラムマネジメントの推進	
授業区分	専門 科目	回答者数 24 名
担当教員名	村川雅弘	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	10	7	4	3			4.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	7	6	3			3.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	7	3	4	2		3.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	13	6	4		1		4.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	7	4	1	1		4.1
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	7	5	6	1		3.4
7	授業の進む速さは適切であった。	6	4	6	6	2		3.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	4	11	5	2	2		3.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	13	1	1	2		3.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	7	5	3	2		3.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	12	2				4.3



教員のコメント

全体的に厳しい評価となっている。この授業科目を担当して初めての結果である。受講生に申し訳ないことをしたと反省している。「カリキュラムマネジメントの理論や捉え方について、理解を深めることができた。課題では、実際の置籍校における現状に取り組み、今後大変役立ちます。」「カリキュラムマネジメントについて様々な事例を知ることができた。」(以上、現職)、「現職の方々の学校カリキュラム・マネジメントの取り組み等を聴く機会があった事が自分にとってとても成長を感じられました。」(学卒)といった好意的なコメントがある一方で、「事例発表が5時間以上あり、知ることの価値はあると思いますが、集中講義でずっとになると、集中が持ちません。モデル作成など、演習もしたかったです。」「カリキュラムマネジメントの基本的事項や、改善、検討など、実践的な知識が整理できるように、授業での適切な時間配分をお願いします。」といった指摘もあった。授業のスピード、時間配分、資料の多さなどに課題が残る。また、コロナによる感染拡大を懸念して、協議を減らしや得意なワークショップを封じたことも大きな要因である。受講生全員に平等に事例発表の機会を与えようとしたことも裏目に出てしまった。小中高の現職教員と学卒院生がいる中で、カリキュラム・マネジメントの具体を多く提供しようとしたことの大きな負担となっている。次年度は、事例の精選を図り、院生による事例発表数を減らし、可能な範囲で協議を取り入れたい。

令和3年度 結果報告書

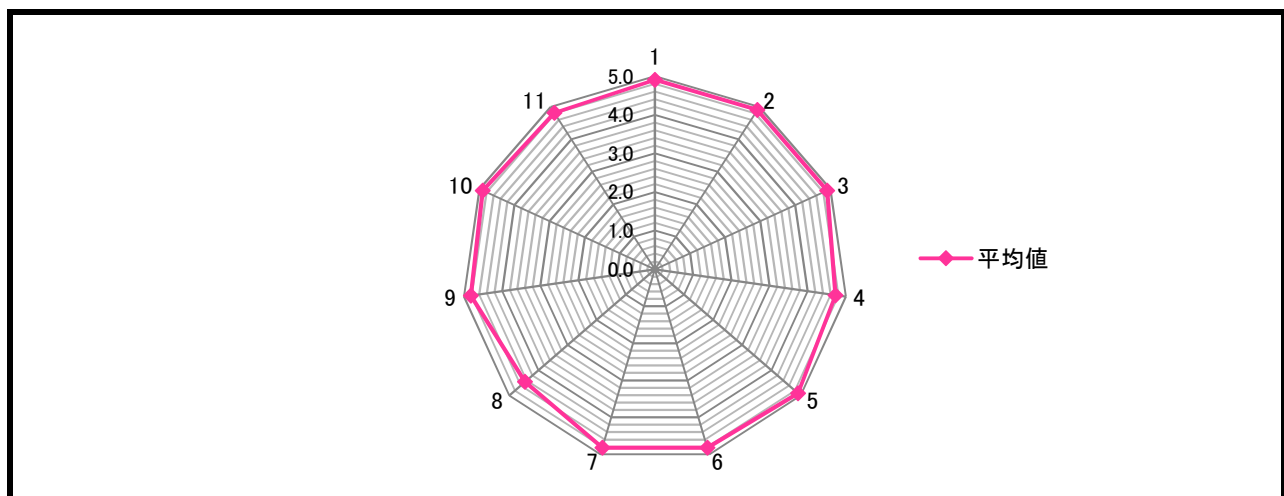
評価実施日	令和3年10月29日
-------	------------

授業科目名	家庭・地域・学校の連携構築	
授業区分	専門 科目	回答者数 11 名
担当教員名	大林正史	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	10	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	3					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	6					4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2					4.8



教員のコメント

各項目の平均値は4.5～4.9であり、授業の目的は達成されたと考える。

本授業では、事前に、私自身が読んで面白かった各授業のテーマに関する文献を読んでもらい、ミニレポートを事前にも書いてもらっている。授業では、院生は、ミニレポートをもとに、小グループで、簡単なディスカッションを行い、発表している。その後、私がテーマについて、発表を踏まえて解説を行い、最後に院生は、コメントカードに、授業についての質問や意見を書いている。そして、翌週の最初に、コメントカードについて、私が言及するという流れで授業を行っている。

上記の学習過程により、現職院生は、自身の経験と、他者の経験、文献の記述内容を自分なりに結びつけて認識するようになったことがうかがえた。その上で、本授業の最後に、院生は、それまでの学習を踏まえ、置籍校における学校と地域との協働のプランを立案し、発表することを通して、学術上の理論と、各院生の今後の実践を結びつけて認識するようになっていたように思われる。

これらのことは、本授業の意図するところである。アンケート結果から、この過程での学習による教育効果は、少なくないことがわかる。そのため、次年度も、この基本的な学習過程を踏襲したいと考えている。

しかし、授業評価アンケートのデータから、院生に読んでいただく文献や、ミニレポートの内容に、やや課題があることがわかる。したがって、次年度は、院生に読んでいただく文献や、ミニレポートの内容の一部を修正することを考えている。

令和3年度 結果報告書

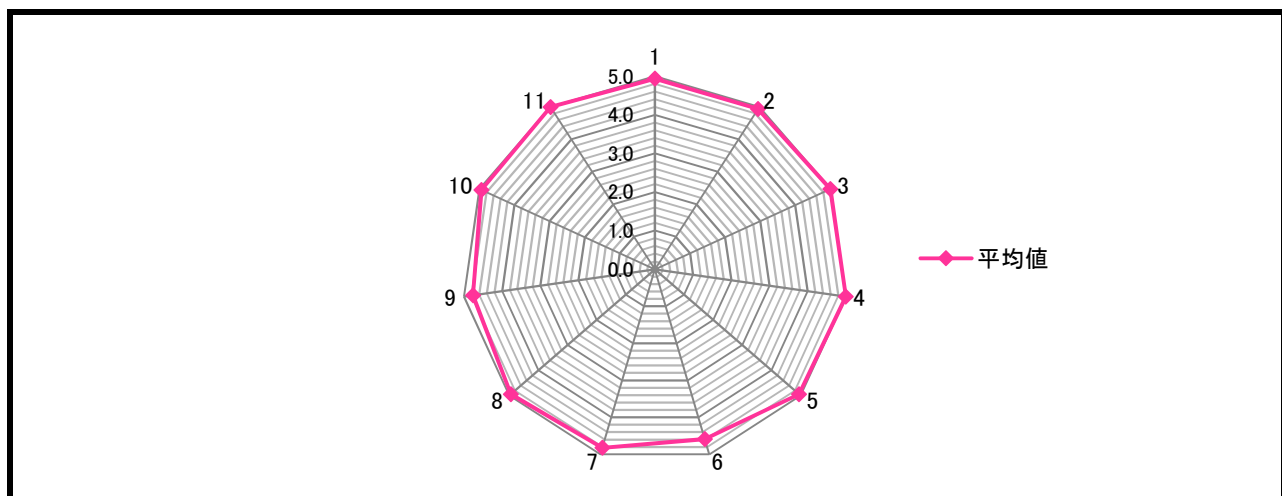
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	学校ビジョンの構築と教職員の組織化	
授業区分	専門 科目	回答者数 17 名
担当教員名	久我直人	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	16	1					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	16	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	17						5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	17						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	16	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	11	5	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	14	3					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	16	1					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	4					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	16	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	17						5.0



教員のコメント

全ての項目で高い評価を得ることができた(11項目のうち8項目で4.9以上であった)。その理由として、学校組織マネジメントにかかる実践事例を多く取り上げると共に、事例に内包される教育理論を可視化し、組織化しにくい学校の組織化のメカニズムを理論的に組み上げる思考を促したことが、受講者の理解と納得につながったと考える。

さらに、学校ビジョンの形成等、具体的なマネジメントの手続きについて、事例を用いて講義することで受講者の学びにつながったと考える。

また、今日的な課題である働き方改革のあり方と学校組織マネジメントの関係を構造的に講義したことも受講者の理解を深めることに繋がったと捉える。

授業方法においても、事例に対する受講者の質問に答えたり、受講生同士のグループワークを取り入れたりし、応答的なやりとりの中で授業を展開した。授業感想にかかる返信にも好意的な感想が寄せられた。そのことも高い授業満足度(5.0)に繋がったと捉えられる。

今後、授業展開にかかる時間配分等について再検討し、さらに次年度の授業設計に生かしたい。

令和3年度 結果報告書

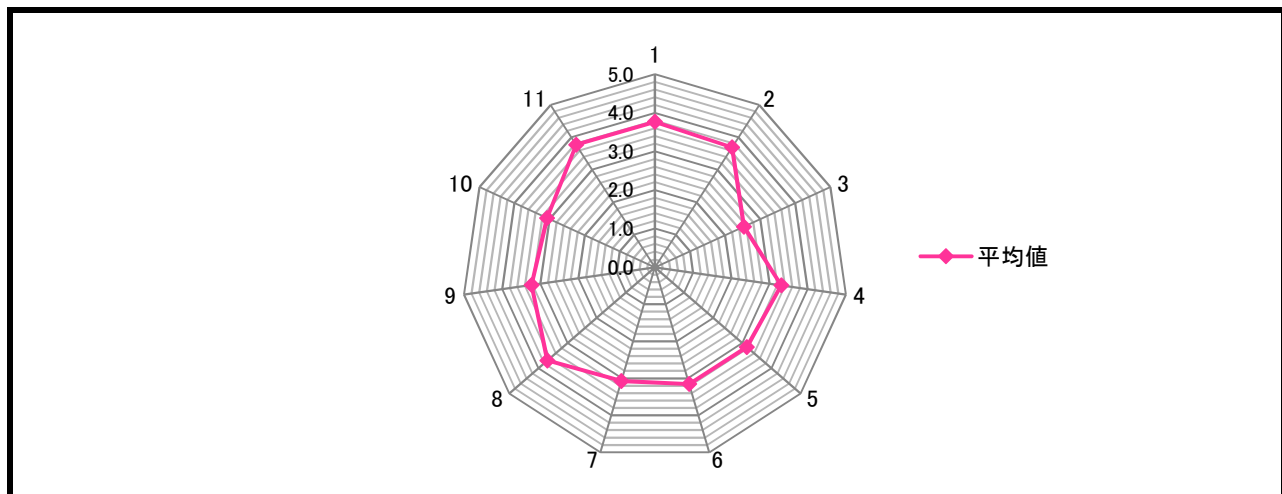
評価実施日	令和3年8月3日
-------	----------

授業科目名	教職員の人材育成と校内研修	
授業区分	専門 科目	回答者数 13 名
担当教員名	芝山明義	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	2	8	1	2			3.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	2	8	1	1	1		3.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。		3	4	3	3		2.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。		7	3	3			3.3
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。		7	2	3	1		3.2
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。		5	6	1	1		3.2
7	授業の進む速さは適切であった。		5	5	2	1		3.1
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	5	4		1		3.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。		8	2	1	2		3.2
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。		6	4	1	2		3.1
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4	3	5	1			3.8



教員のコメント

2021(令和3)年度も本学の授業評価アンケートはオンライン形式により実施され, 本授業へのアンケートの回答者は履修生24名中13名である。回答者に関して, 全体として各項目の平均値は2.5~3.8の範囲にあり, 11項目の全項目で平均値4.0を下回る結果であった。

回答者の自由記述のうち, 今回はとりわけ「改善点・臨む事柄, アイデア」において, 学習環境としての教室環境の不良(換気と温度調節の対応等), 授業者の講義の不手際(マイクの不使用により声が聞こえにくい, 言葉が聞き取りにくい, スライドの文字表示が見にくい等)に関する批判的意見と改善の要望が記述のほとんどを占めており, これらが授業の内容の理解や有効性, 授業の満足度等に関する否定的評価につながっていることを厳格かつ真摯に受け止めた。経緯の概要として, 2021年度・前期後半の本授業を対面で実施するにあたり, 履修生が例年より多数だったことから, COVID-19への対応として「三密」回避等のために講義室を変更した。しかし, この変更や授業時のCOVID-19対策で生じた学習環境としての教室環境の変化への考慮が不十分であり, 授業の進め方における受講生への適切な配慮と必要な対応が行き届かなかった点を猛省したい。次(2022(令和4))年度には引き続き, 今回変更した講義室で授業を実施することから, 学習環境の整備や授業時に必要な配慮等を改めて丁寧に確認し, 適切に対処する必要がある。

回答者の自由記述のうち, 「良かった点」としては, グループワークによる受講生の話し合いや授業内容に関連して配付・紹介した資料の有効性が挙げられている。本授業の内容・構成は, 主として「講義」では教職員の人材育成と教員の専門性及びその教員研修との関連の考察, 校内研修の計画と運営の前提としての校内研修の意義や今日的課題の検討と理解を, さらにそれらをもとに主として「演習」(グループ討議等)では教職員の必要性に対応しかつ有効な校内研修の在り方の提案, 各現職院生の現任校園等を事例とした現状の検討を, 受講生に求めた。授業の手続については, アクティブラーニングを考慮した授業展開を工夫し, 「演習」とともに「講義」でも質疑を導入した授業の構成・進め方をめざした。これらの内容と手続から, 全体をとおして受講生には従来の校内研修の捉え直しを促し, 現職院生には現職経験(現任校園等の種別, 教職経験年数や担当・専門教科, 勤務してきた学校園等の特性や担当した校務分掌等のキャリア等)の振り返り等によって, また学卒院生には現職院生との議論を通して, 人材育成の必要性と課題の理解や校内研修の可能性・展望の考察につながる方向性は示せたと考えられる。ただし, 今回は上記の「講義」の進め方に大きく問題のあったことから, 十分な成果に至らなかったものである。

今後, 実践力のより確かな育成につながるように, 受講生にとって十分に理解しやすく有効性と満足感の得られる授業の内容・構成や展開・進め方を丁寧に検討して対応するとともに, プレゼンテーション等の授業方法や資料の構成・活用等についてもさらに改善・工夫に努めたい。

令和3年度 結果報告書

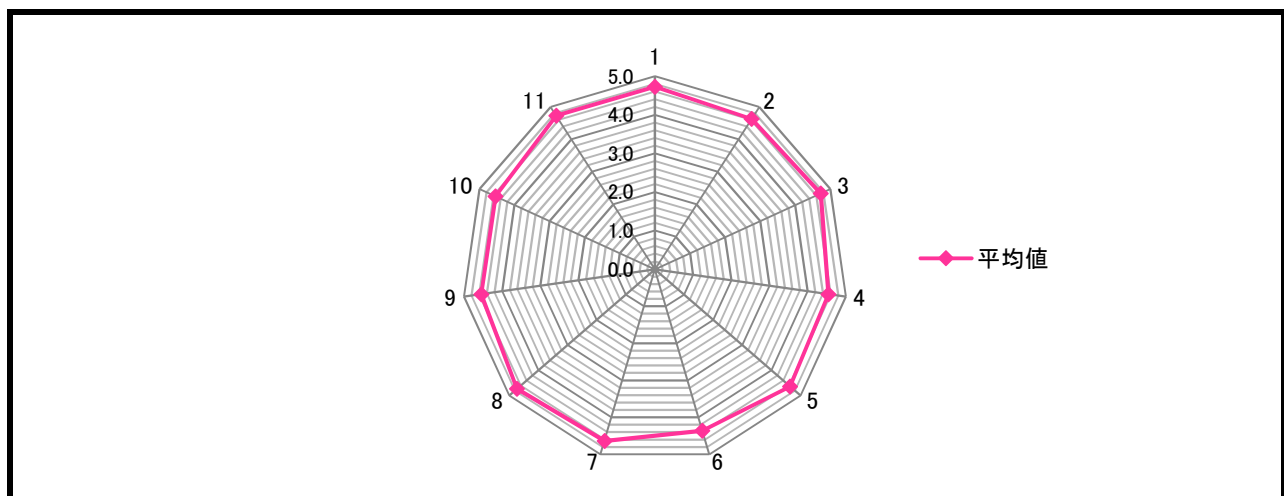
評価実施日	令和4年2月15日
-------	-----------

授業科目名	子ども理解と支援	
授業区分	専門 科目	回答者数 11 名
担当教員名	池田誠喜, 小坂浩嗣	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	8	3					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	4					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	3					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	7	3	1				4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	7	4					4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	3	2				4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	8	2	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	1	1				4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	3	1				4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	3					4.7



教員のコメント

5件法の評価の11項目の平均値は4.6となっており、昨年までと同じように、院生は概ね本授業を肯定的に評価していると考えられる。

自由記述からは、

- ・様々な検査を体験することができたのがよかった。
- ・風景構成法をはじめ、様々なテストが実施され、その概要が学べ、「実用度」が体感できたこと。
- ・不登校生徒へのサポート体制など、様々な仕組み・検査が学べたこと。
- ・自分の傾向が分かりました。
- ・今まで現場で、子どものことを言葉や態度、家庭環境など、見えることだけから、「こんな子」だとイメージし、詳しく知るために、また保護者に納得してもらうためにすぐ「検査」をしようとしていました。保護者には、「得意なこと、苦手なことを知って指導にいかしたい」と伝えていましたが、それはできていませんでした。子どもが安心して過ごせるように何をしたらいいだろうと考える機会をいただきました。
- ・いろいろな体験ができる授業で大変勉強になった。
- ・実際に、いくつかの心理テストや性格検査を実施したり、自分たちの結果をグループ検討・分析したりして、体験的な授業内容でいい経験になった。
- ・さまざまな分析方法を実践できて、勉強になった。

などの回答から、子どもの理解と支援についてについての知見を得られた感想を持った授業となったと考えている。

一方で、新型コロナウイルス感染症対応により、多くの授業がオンラインになり、考えていた授業が進められず、今後も同様の状況が続くことが予想されることから、更なる工夫が必要である。

令和3年度 結果報告書

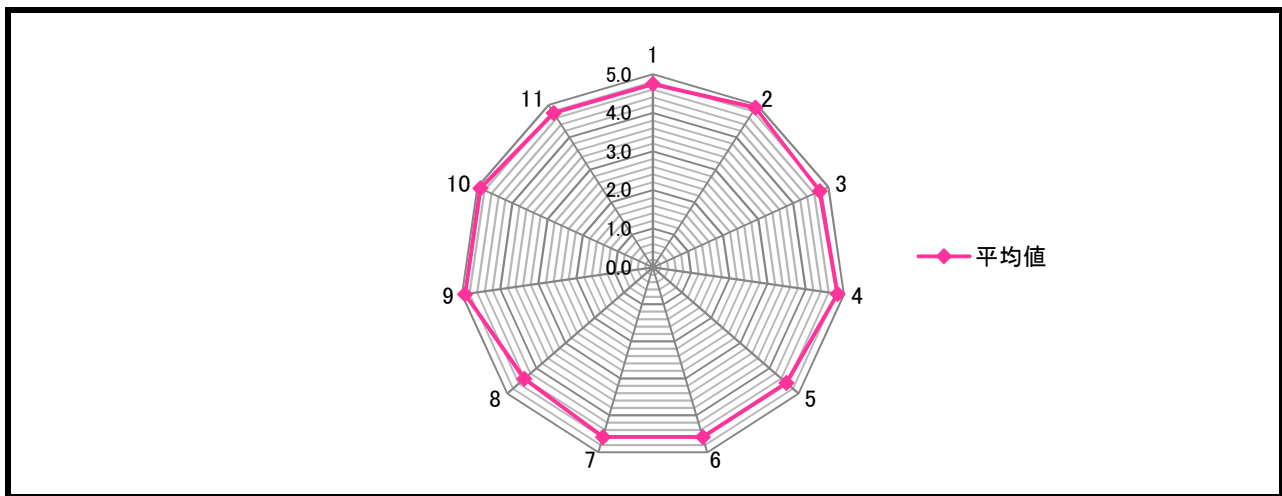
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	いじめ・不登校等事例検討	
授業区分	専門科目	回答者数 12名
担当教員名	小坂浩嗣, 阿形恒秀, 池田誠喜	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	3					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	1					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	3					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10	2					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	7	5					4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	5					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2		1			4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	3	2				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	1					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	11	1					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	3					4.8



教員のコメント

回答率は, 38%であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.7であった。カテゴリー別では, <シラバスの内容について>1項目は4.8, <授業内容について>4項目は4.8, <教員の授業の進め方について>3項目は4.5, <授業に対する満足度・意義について>3項目は4.9であった。すべての分析項目において4.4以上の結果を得たことから, 総合的に非常に高い評価を得たと考えられる。

項目別では全11項目中7項目に4.8以上の高い評価を得た。その理由としては, 授業や事例検討の意義を解説したこと, 事例検討のデモンストレーションがモデルになったことが挙げられる。また, 受講生同士のラポール形成のもとで, 院生自身が真摯に事例に臨んだこと, 受講生のグループ編成について校種を混合させたことにより, 多様な事例に触れ検討できたことが挙げられる。課題としては, 検討事項に焦点化できず拡散したこと, 情報開示の範囲に目安がなかったことが指摘された。これらの点について工夫して改善したい。

令和3年度 結果報告書

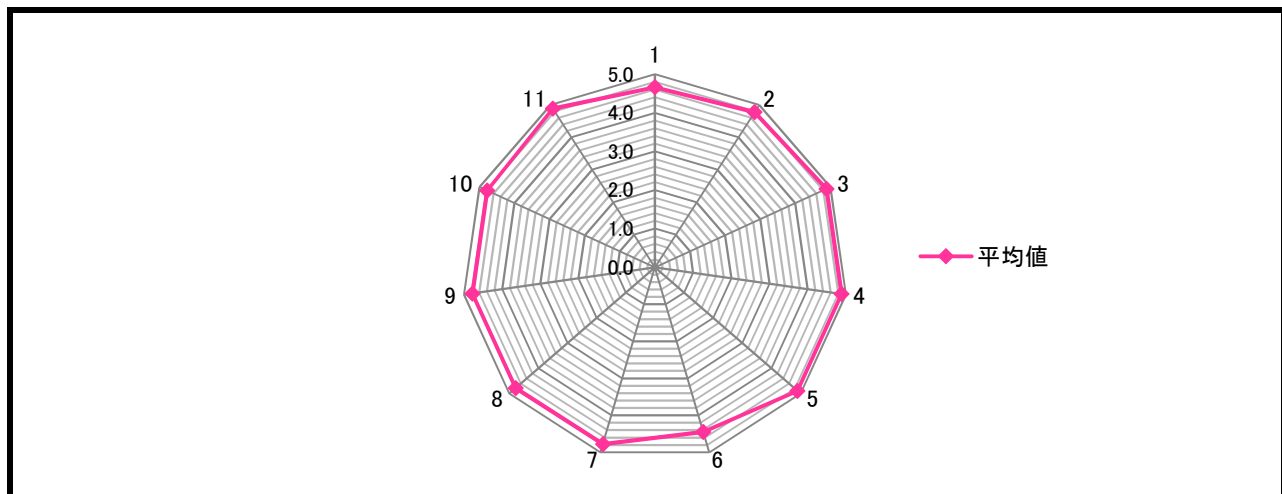
評価実施日	令和3年10月25日
-------	------------

授業科目名	いじめ・不登校等チーム支援とコーディネート	
授業区分	専門 科目	回答者数 9 名
担当教員名	池田誠喜, 阿形恒秀	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	3					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	7	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	8	1					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	5					4.4
7	授業の進む速さは適切であった。	7	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	2					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	7	2					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	8	1					4.9



教員のコメント

5件法の評価の11項目の平均値は4.8となっており、昨年までと同じように、院生は概ね本授業を肯定的に評価していると考えられる。

- 自由記述からは、
- ・現場での実践例をご教授いただいたことや、少年院の現場でご活躍の方からお話を聞けたこともたいへん勉強になりました。
 - ・実際に現場にいる方の生の声、お話を聞く機会が大変興味深く、理解が深まった。
 - ・専門機関の職員の方のお話を聞くことができよかった。
 - ・それぞれの専門の方のお話になり、普段見ること、聞くことのできない内容を知ることができました。
- 一方で、施設等の見学ができるとうよう、希望しているという意見があり、新型コロナウイルス感染症対応下で、さらに工夫した授業展開が必要である。

令和3年度 結果報告書

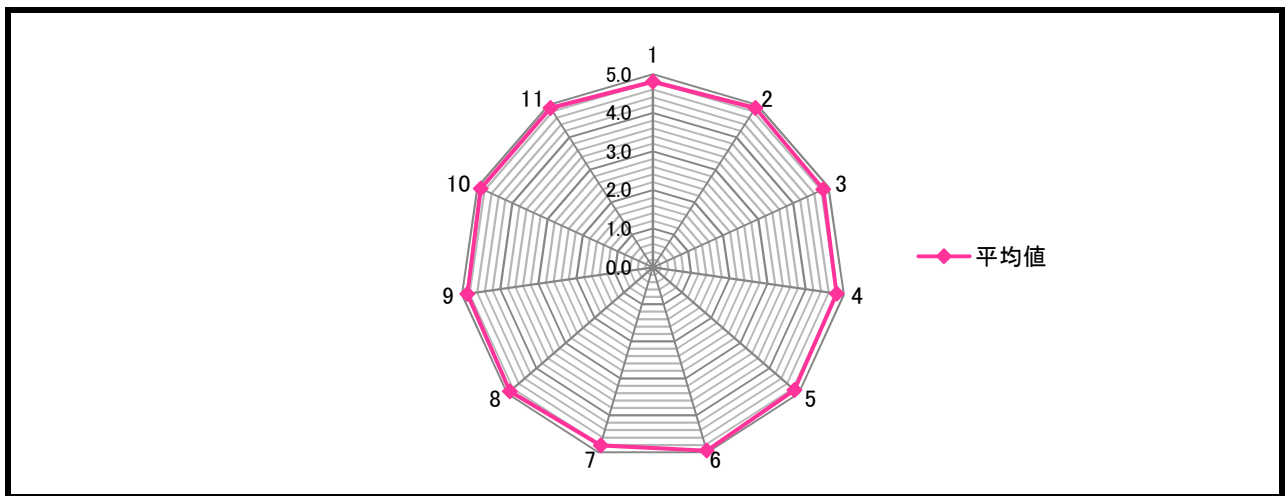
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	集団づくりとグループアプローチ	
授業区分	専門 科目	回答者数 21 名
担当教員名	小坂浩嗣, 阿形恒秀	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	17	4					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	19	2					4.9
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	18	3					4.9
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	17	4					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	18	3					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	20	1					5.0
7	授業の進む速さは適切であった。	18	2	1				4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	19	2					4.9
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	3					4.9
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	19	2					4.9
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	19	2					4.9



教員のコメント

回答率は, 52%であった。回答を求めた11項目全体の平均は4.9であった。カテゴリー別では, <シラバスの内容>1項目は4.8, <授業の内容>4項目は4.9, <教員の授業の進め方>3項目は4.9, <授業に対する満足・意義について>3項目は4.9であった。以上の結果から, 授業全体について総合的に非常に高い評価を得たと考えられる。

項目別では<4. 授業の内容>に対して, 教師の専門性を高められるものであったとの評価が多くあった。<授業に対する満足・意義について>の3項目に4.9の評価があったことから, 受講生が授業に対して関心高く積極的に臨み, 実践力の修得に役立ったことが確認できた。この要因は, 本授業が受講生を主体にした演習形態であったこと, 学級指導や集団づくりなどに役立つ具体的内容であったことが自由記述から読み取れた。また, 授業に対する意義に高い評価を得たことから, 受講生および学校現場のニーズに合致していたものと考えられる。その一方で課題として, グループワークの授業づくりに授業時間外で調整することで負担が大きかったとの指摘があった。時間確保の工夫を考えたい。

令和3年度 結果報告書

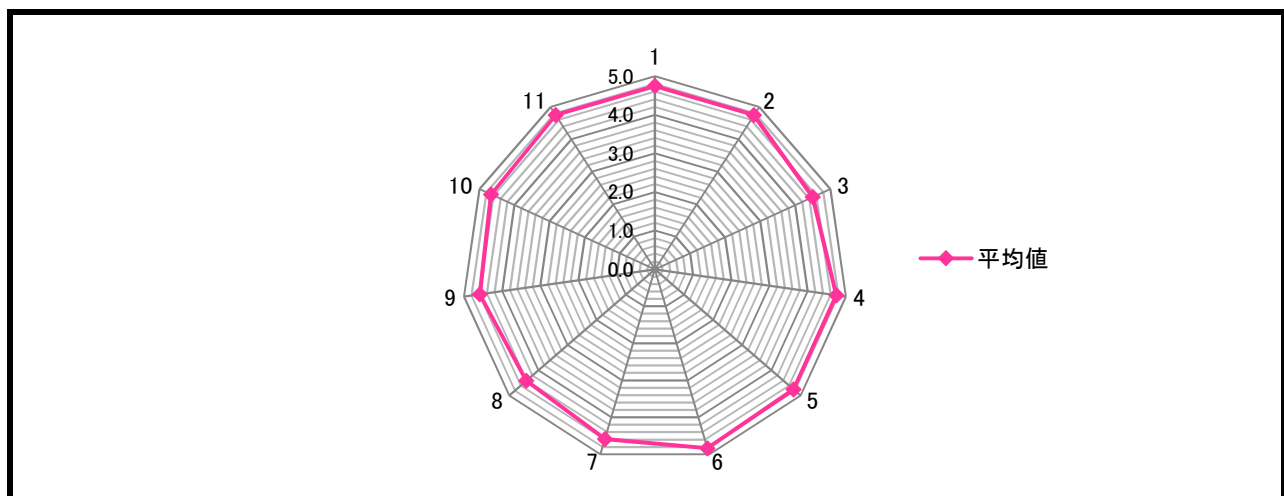
評価実施日	令和3年10月29日
-------	------------

授業科目名	道徳教育の理論と実践	
授業区分	専門 科目	回答者数 12 名
担当教員名	金野誠志, 谷村千絵	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	10	1	1				4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	3					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7	4	1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	3					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	3					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	10	2					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	9	2		1			4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	7					4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	10	1		1			4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	1	1				4.8



教員のコメント

道徳教育に関しては、概して、現職教員であっても、基本的な授業論、教材分析等に関する知識が高いとはいえない。従って、授業内容も概して、院生の実態に合わせて行うことになる。特に後半の授業は、全て、演習形式で即実践に使える明日からのスキル的なものが好評であった。一方で、道徳教育を専門に研究している院生にとっては多少物足りないものとなるものもいたしかたない。その辺が、アンケートに現れていると考える。概ね好意的な評価ではあったが、道徳教育を専門に研究している院生に対応した内容についても一層留意していきたい。

令和3年度 結果報告書

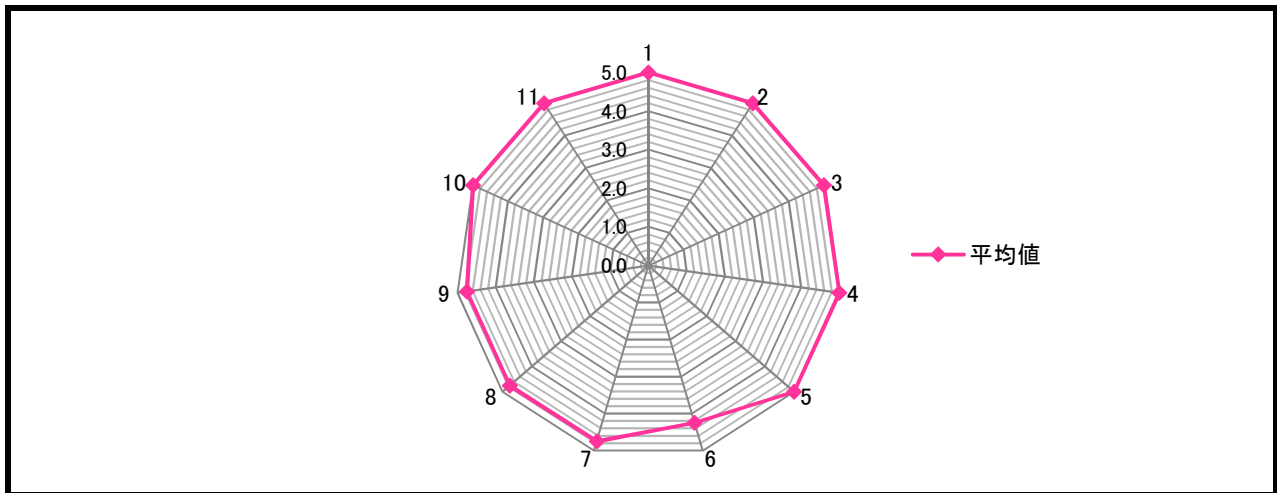
評価実施日	令和3年8月4日
-------	----------

授業科目名	学校教育におけるICT活用と情報デザイン		
授業区分	専門科目	回答者数	4名
担当教員名	藤原伸彦, 泰山裕		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数					平均値
		5	4	3	2	1	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4					5.0
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4					5.0
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4					5.0
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4					5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	4					5.0
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	2	1	1			4.3
7	授業の進む速さは適切であった。	3	1				4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	3	1				4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4					5.0
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	4					5.0



教員のコメント

回答者数が4名と少ないが, 非常に高い評価を得られた。自由記述から, この講義の内容を日常の生活の中でであった事象とつなげて考えるということがわかる。このようなコメントが得られたことは, 非常にありがたいことである。オンラインの授業になってしまったため, アクティブラーニングという部分では少し不十分なところがあったかもしれない。次年度は, 状況によるが, オンラインであっても, 学生がよりアクティブに学ぶことができるように工夫していきたい。

令和3年度 結果報告書

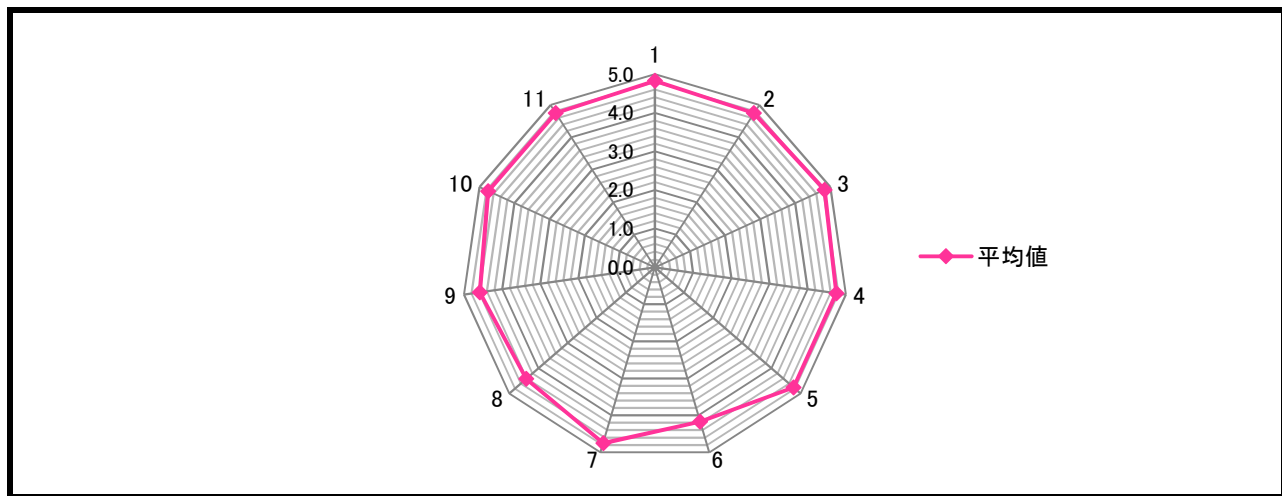
評価実施日	令和3年10月23日
-------	------------

授業科目名	総合的な学習の時間のカリキュラム開発	
授業区分	専門 科目	回答者数 12 名
担当教員名	村川雅弘	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	10	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	9	3					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	2					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	3					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	9	3					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	5	1	1			4.2
7	授業の進む速さは適切であった。	9	3					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	5	1				4.4
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	5					4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	3					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	3					4.8



教員のコメント

全体的に高い評価を得ている。総合的な学習の時間の意義や位置づけにとどまらず、小中高の具体的な事例を扱ったのはよかった。「総合的な学習の時間は、手間がかかると思っていて、校内で毎年同じようなことをくり返していました。授業で、たくさん事例を知ることができ、貴重な経験だと思いました。先生も子どもも一生懸命取り組んでいる学校では、子ども達に大きな変化があることが分かりました。言語活動は国語、地域貢献はごみゼロで、と考えてきましたが、総合の圧倒的なすごさが分かりました。実践例を見て、自分もワクワクしたり、感動したりしたので、まず校内で授業のことを伝えたいと思います。実践例の分析は、自分の興味のある例を選択でき、テキストを見ながらの口頭説明だったので、緊張はしたけれど、自分が分析したことを提出したりコピーしたりする負担もなくて、良かったです。」と言ったコメントをいただいた。次年度も同様に進めていきたい。

令和3年度 結果報告書

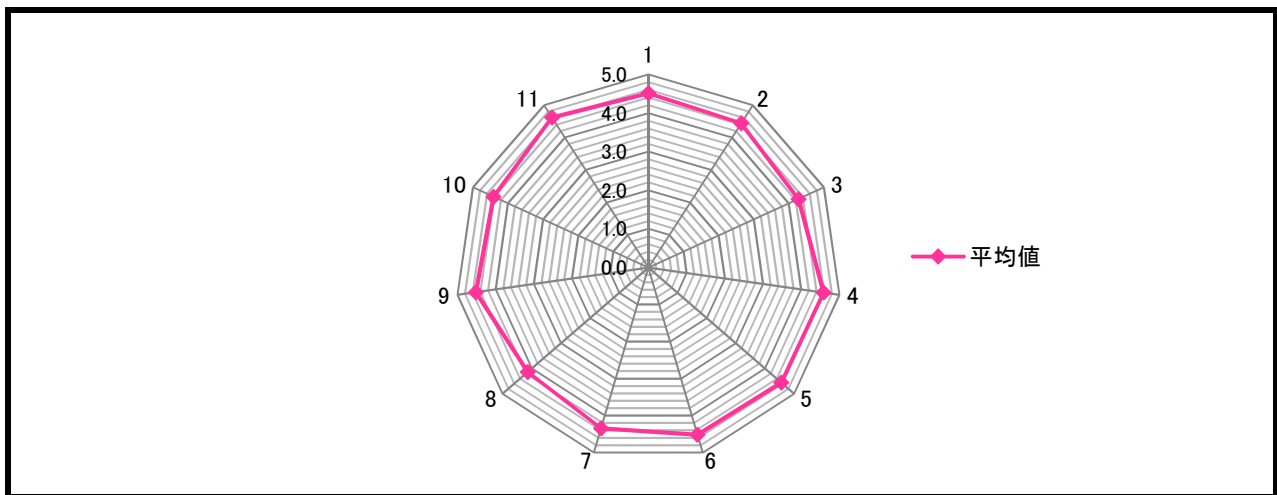
評価実施日 令和3年6月8日

授業科目名	学習者の心理とアクティブラーニング	
授業区分	専門 科目	回答者数 29 名
担当教員名	泰山裕, 金児正史, 皆川直凡	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	15	14					4.5
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	13	16					4.4
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	10	17	2				4.3
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	17	12					4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	17	11	1				4.6
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	17	11		1			4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	14	12	2	1			4.3
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	14	4	1			4.1
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	15	14					4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	14	13	2				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	18	11					4.6



教員のコメント

どの項目においても平均4点以上を超えており, 実施した授業は概ね受講者の満足を得られたのではないかとと思われる。これは担当教員の専門を活かした講義とそれを活かした授業設計という2つのフェーズで授業を構成した成果であると考えられる。

一方で, 少数ながら2点や3点の評価をつけた受講生がいるということについては, 改善が必要だと思われる。特に項目8「授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった」については, 3点が4名, 2点が1名おり, 多に改善が必要だと思われる。自由記述等も確認したところ, コロナに対する対応のためにグループワークをオンラインに変更したことについてのコメントが散見される。この授業では, 理論を活かした授業設計を目的の中心としており, そのためにグループごとの指導案作成を課題として設定した。しかし, コロナの状況によって, 対面でのディスカッションが難しいことが想定されたため, 急遽, Teamsを用いた指導案作成と指導案についてのディスカッションを行った。その試みは概ねスムーズに進んだものの, そのような経験が少なかったり, グループメンバーの協力体制等によって, 負担感を感じた学生がいたと考えられる。

今後は, 対面でのディスカッションの機会を確保しつつ, やグループ内の特定の学生のみに負担がかからないような工夫を取り入れることによって, 受講者の満足度を高めるように工夫したい。

令和3年度 結果報告書

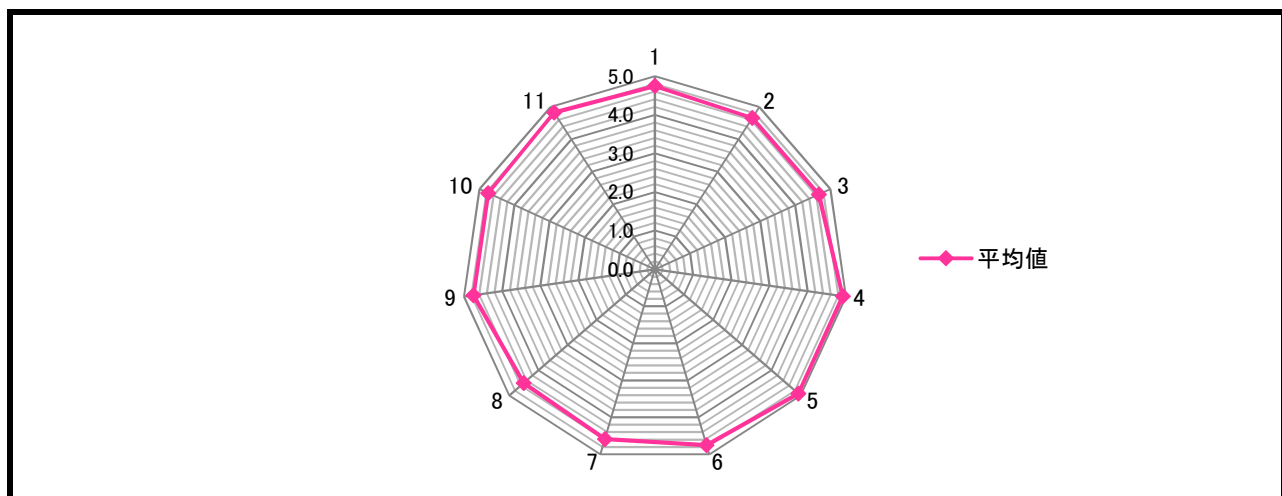
評価実施日	令和3年7月10日
-------	-----------

授業科目名	ワークショップ型研修の技法	
授業区分	専門 科目	回答者数 12 名
担当教員名	村川雅弘	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	9	3					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	4					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	2	1				4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	11	1					4.9
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	11	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	9	3					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	8	3	1				4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	7	4	1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	9	3					4.8
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	10	2					4.8



教員のコメント

コロナ禍とGIGAスクール構想の関係から、教員研修のオンライン化が進んでいる。ワークショップは対面が基本ではあるが、敢えてZoomと協働学習支援ツールの併用により、オンラインワークショップを受講生に体験させることとした。全体的に評価は高い。Zoomの画面共有で講義と発表が可能なこと、Zoomのブレイクアウトルームにより対面以上に安全に協議が可能なこと、オンラインのために容易にゲストスピーカーを登用できること、Zoomのブレイクアウトルームと協働学習支援ツールの併用により、チームによる研究開発ワークショップが実現できたことによる。オンラインでワークショップも十分に可能なことが証明できた。自由記述にも「ワークショップ型研修について、技法だけではなく、意義について理解できました。グループの方と研修プランを作成する活動は、新たな視点を得ることができ、学びを深めることができました。実際に取り組まれた実践を紹介していただき、今後の取り組みの参考になりました。」や「Zoomでのオンライン授業において、コラボノートを使用できたことがよかったです。様々なソフトがありますが、実際に職員研修や授業で活用する上で、準備物等の手間が省け、時間短縮や研修内容の深化につながると思いました。」「ICTを活用した活動に苦手意識があったのですが、取り組むことで私自身とても勉強になりました。ゲストティーチャーの方のお話も現在の課題に則した内容で、自らの実践に活かしたいと思います。」など好意的なコメントが殆どであった。コロナ感染拡大状況にもよるが、次年度の形態は未定である。

令和3年度 結果報告書

評価実施日

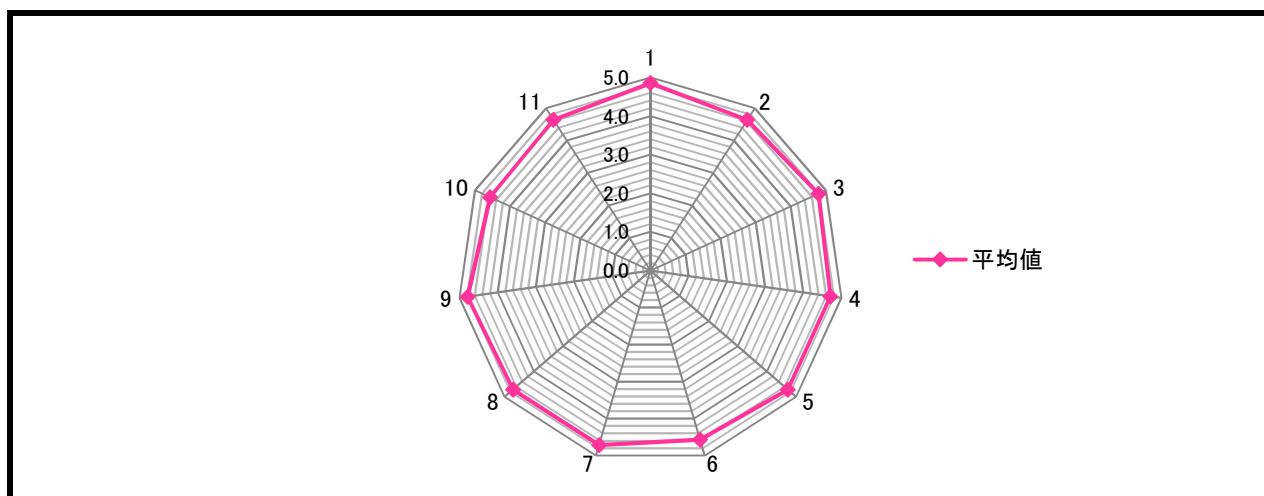
令和3年10月26日

授業科目名	学習指導要領と教育課程B	
授業区分	専門科目	回答者数 14名
担当教員名	藤原伸彦, 北濱亮	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	12	2					4.9
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	10	3	1				4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	11	3					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	10	4					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	10	4					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	8	6					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	10	4					4.7
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	10	4					4.7
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	6					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	5					4.6



教員のコメント

評定平均値がどの項目でも4.6以上と非常に高い評価が得られた。内容はもとより、模擬授業等実践的な内容が評価されている。また、一人1台タブレットを準備し、児童生徒の書いた情報を共有するためのアプリ「MetaMoji」を体験する内容も、良かったとする自由記述が見られた。MetaMojiは、附属小学校でもしばしば使われているアプリである。主たる受講者である教員養成特別コースの院生は、この授業の後に附属小学校での基礎インターンシップを控えているため、実践的な内容が評価されたと考えられる。院生の状況とニーズに合わせた授業デザインができているといえよう。次年度も同様に授業を行なっていきたい。MetaMojiを使用する授業は本年度初めて導入したが、次年度以降も、より院生の実践力の向上につながるよう工夫したい。

令和3年度 結果報告書

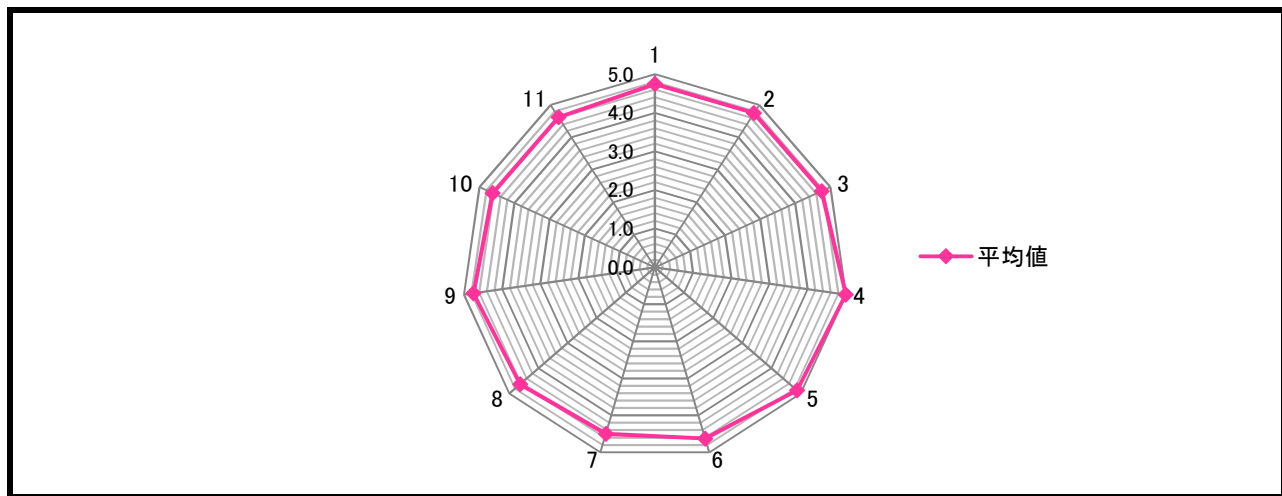
評価実施日	令和3年6月7日
-------	----------

授業科目名	教育実践の事例研究A	
授業区分	専門 科目	回答者数 8 名
担当教員名	木下光二, 川上綾子	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	2					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	6	2					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	7		1				4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	8						5.0
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	7	1					4.9
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	6	1	1				4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	5	2	1				4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	6	1	1				4.6
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		1				4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	6	1	1				4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	6	1	1				4.6



教員のコメント

本授業は、実際に附属学校を訪問し、子どもの姿から学ぶことをコンセプトにしている。コロナ禍にも関わらず、全ての質問項目において平均値が4.5以上という評価になっていることから、概ねその目的は達成されたと考える。中でも質問項目4「授業の内容は、教師の専門性を高められるものであった。」においては全員が5の評価をし、質問項目3、5、9においても、8名中7名が、5の評価をしていることから学生にとっても満足できる内容であったことが窺える。幼小間の接続が重要視されている今日、小学校教員志望の学生にとって、附属幼稚園を訪問し、保育実践や幼児期の子どもの姿から学ぶことは今後の貴重な経験となろう。

また、自由記述においても、「幼稚園・小学校・中学校の授業観察をして、実践的な学びを得ることができた。」「他の人の考察を見て再考察をすることで自分の考えが広がった。」「実際の教育現場を見られるのは、とてもためになった。」という評価が得られたことから、学生にとって満足できる授業であったことが窺える。次年度も継続して学校現場との連携を図り、有意義な授業となるよう努めたい。

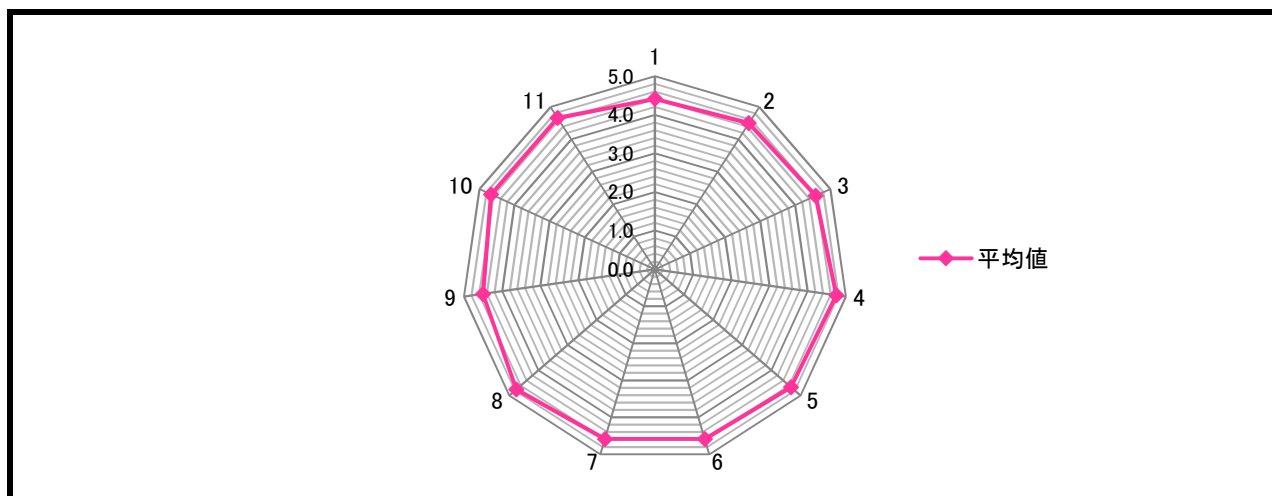
令和3年度 結果報告書

		評価実施日	令和3年10月25日
授業科目名	教育実践の事例研究B		
授業区分	専門 科目	回答者数	12 名
担当教員名	木下光二, 川上綾子		

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	7	4		1			4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	8	3		1			4.5
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	9	2		1			4.6
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	9	3					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	8	4					4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	7	5					4.6
7	授業の進む速さは適切であった。	7	5					4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	9	3					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3		1			4.5
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	8	4					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	9	2	1				4.7



教員のコメント

本授業は、教育実践の事例研究Aと同様に、実際に附属学校を訪問し、子どもの姿から学ぶことをコンセプトにしている。コロナ禍にも関わらず、全ての質問項目において平均値が4.4以上という評価になっていることから、概ねその目的は達成されたと考える。中でも質問項目3, 4, 8, 11において12名中9名が5の評価をし、質問項目2, 5, 9, 10においても、8名が5という評価をしていることから学生にとっても満足できる内容であったことが窺える。

また、自由記述においても、「授業実践や現場を生で体験できたので良い学びとなりました。」「観察や実習を通して、教師としての自覚が深まり自己課題が明確になった。」「全体で実習で学んだことや課題などを共有できたこと。また、実習やオンラインの公開授業などに参加できたこと。」「実習終了後に集まり、実習で見つけた自分の成果や課題についてのディスカッションを行ったことにより、さらなる学びにつながりました。」「対面で各々の実習の学びについて知ることが出来てよかった。」という評価が見られたことから、学生にとって満足できる授業であったことが窺える。少数意見として、シラバスに関する項目において「あまりそう思わない」の評価があるが、学校現場と連絡をとりながら日程や内容の決定をしなければならないのが本授業の課題である。ただ、この点は、オリエンテーション時に前もって学生には伝えている内容なので、よりわかりやすく情報を伝えることが必要なのかも知れない。次年度も継続して学校現場との連携を図り、有意義な授業となるよう努めたい。

令和3年度 結果報告書

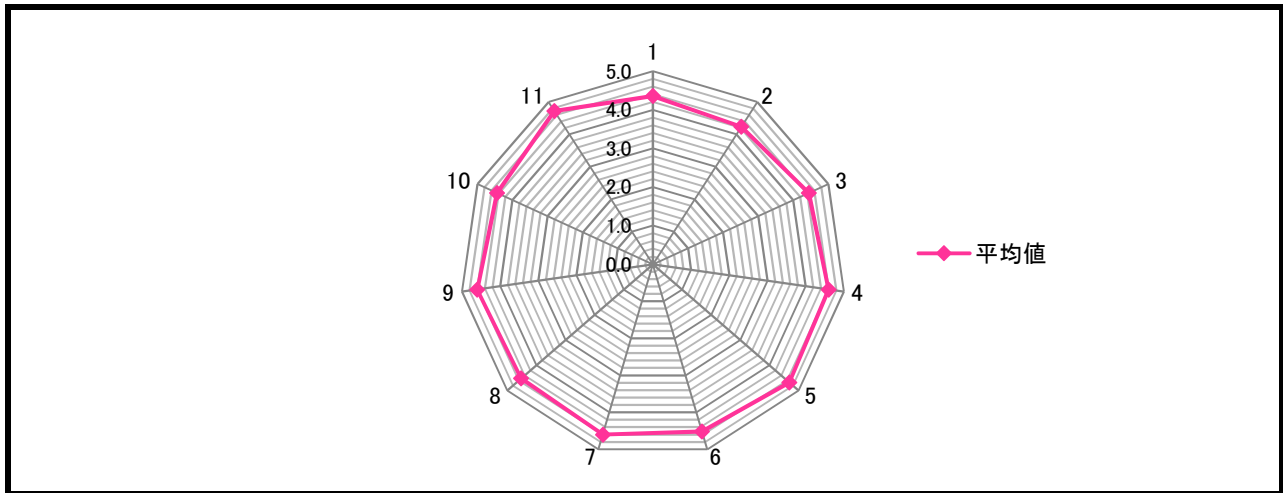
評価実施日	令和3年6月4日
-------	----------

授業科目名	生徒指導実践演習A	
授業区分	専門 科目	回答者数 25 名
担当教員名	葛上秀文, 池田誠喜, 小坂浩嗣	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	11	12	2				4.4
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	11	10	3	1			4.2
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	13	10	2				4.4
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	16	8	1				4.6
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	18	6	1				4.7
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	16	7	1	1			4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	15	10					4.6
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	15	8	2				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	16	8	1				4.6
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	12	12	1				4.4
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	18	7					4.7



教員のコメント

本授業は、教員養成特別コースの学生向けに設計されたものであるが、他コースからの受講者が半分近くを占め、当初の予定を変更して実施した。また、新型コロナウイルスの影響もあり、グループ別の協議も制約を受けたが、一定の評価を得られた。グループ間の情報の共有のあり方について、次年度改善を図りたい。

令和3年度 結果報告書

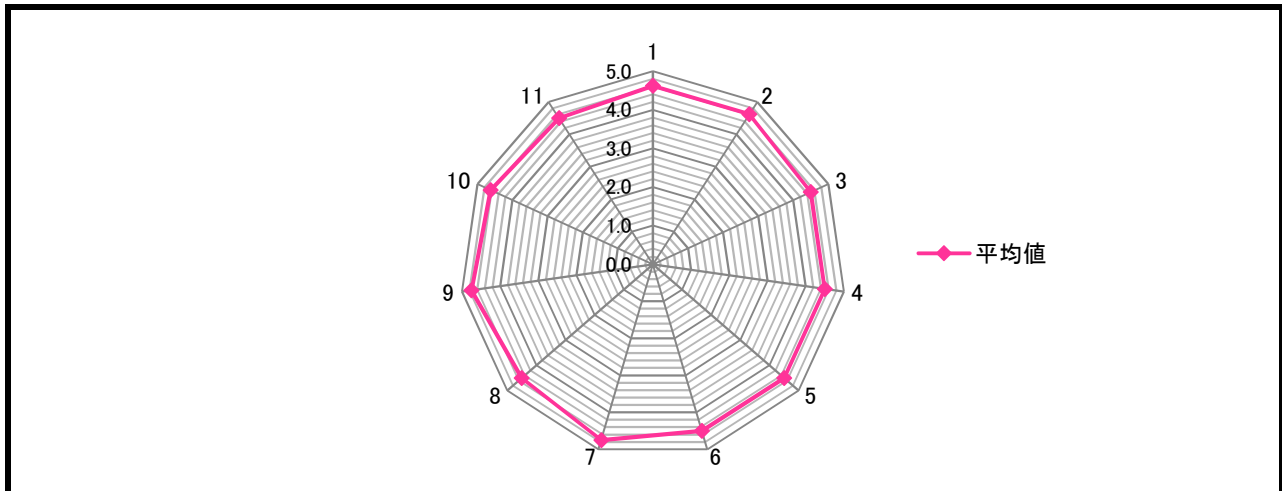
評価実施日	令和4年2月16日
-------	-----------

授業科目名	生徒指導実践演習B	
授業区分	専門科目	回答者数 8名
担当教員名	葛上秀文, 池田誠喜, 小坂浩嗣	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	6	1	1				4.6
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	3					4.6
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	2	1				4.5
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	6	1		1			4.5
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	6	1		1			4.5
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	2	1				4.5
7	授業の進む速さは適切であった。	6	2					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	2	1				4.5
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	5	3					4.6
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	2	1				4.5



教員のコメント

新型コロナウイルスの影響で、後半がTEAMSを使用した形となり、グループの協議が円滑にできない部分もあった。その中で、一定の評価を得られたと考える。元々は、教員養成特別コース向けの授業であるが、この授業でも教科系の院生が5名受講した。教科系の学卒院生にとって、生徒指導の実践に学ぶ内容の充実について、考える必要があるのではないかと。

令和3年度 結果報告書

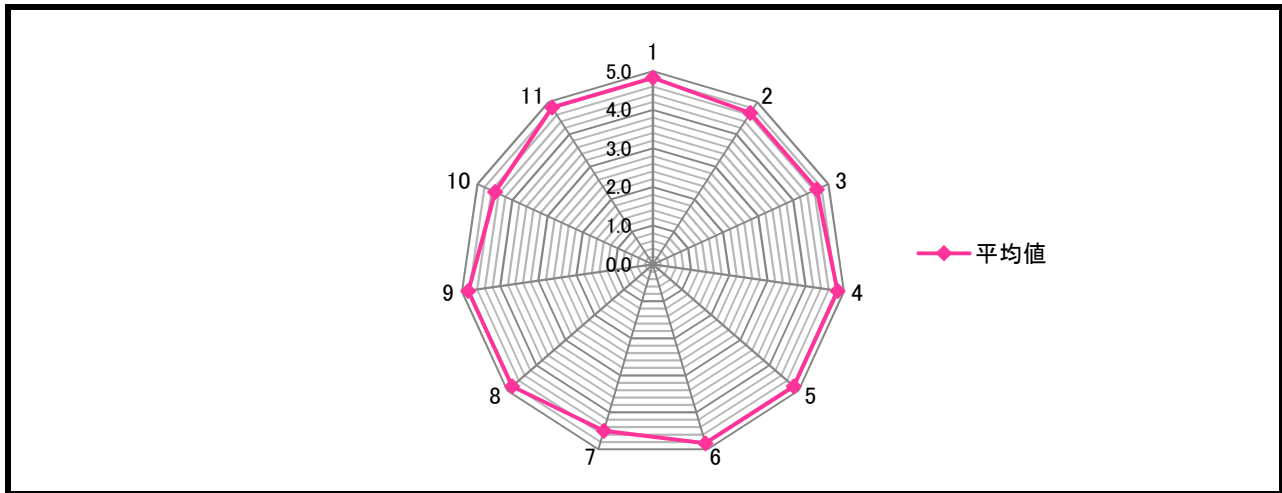
評価実施日	令和3年6月4日
-------	----------

授業科目名	学級経営実践演習A	
授業区分	専門 科目	回答者数 6 名
担当教員名	江川克弘, 金森三枝	

アンケート集計結果

(5: そう思う, 4: ややそう思う, 3: どちらともいえない, 2: あまりそう思わない, 1: そう思わない)

番号	質 問 項 目	評 価 選 択 人 数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	5	1					4.8
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	4	2					4.7
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	4	2					4.7
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	5	1					4.8
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	5	1					4.8
7	授業の進む速さは適切であった。	3	3					4.5
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	3	3					4.5
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	1					4.8



教員のコメント

質問項目すべてにおいて、平均値が4.5以上であり、本授業は受講した院生にとって、学びがあり、満足のいくものであったと考えられる。これは、授業において、徹底して教育現場に即した内容についての講義・講義を生かして院生同士で考えたりディスカッションしたりするアクティブラーニングを実施したためであると考えられる。自由記述においても「学級づくりにおいて、教師の思いや子どもの思いが詰まった学級目標を立てることの意味を理解し、グループで学級目標およびその具体的方策をたてることで実践的な学びが得られました」とある。ただ、回答者数が6人であるので、次年度は全員が回答するよう促す必要があると考える。

令和3年度 結果報告書

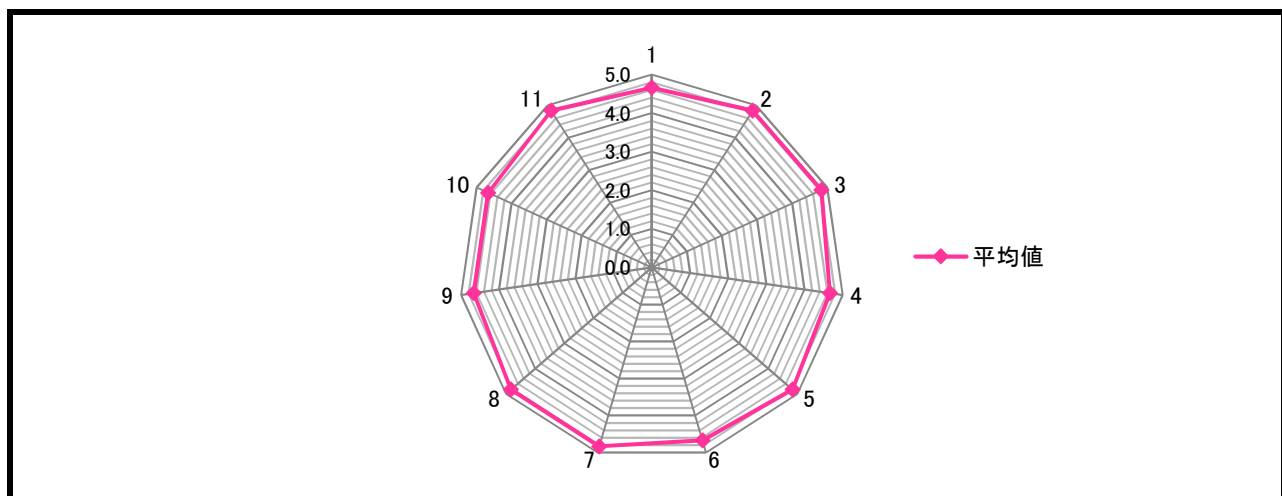
評価実施日	令和4年2月18日
-------	-----------

授業科目名	学級経営実践演習B	
授業区分	専門科目	回答者数 6名
担当教員名	江川克弘, 金森三枝	

アンケート集計結果

(5:そう思う, 4:ややそう思う, 3:どちらともいえない, 2:あまりそう思わない, 1:そう思わない)

番号	質問項目	評価選択人数						平均値
		5	4	3	2	1	N/A	
1	シラバスで示された授業の主旨, 到達目標, 授業計画, 成績評価等は理解しやすかった。	4	2					4.7
2	授業の内容は, シラバスの主旨に沿って適切であった。	5	1					4.8
3	授業の内容は, 分かりやすかった。	5	1					4.8
4	授業の内容は, 教師の専門性を高められるものであった。	4	2					4.7
5	授業の内容は, 実践力の育成につながるものであった。	5	1					4.8
6	授業では, シラバスで示されたアクティブ・ラーニングが実施されていた。	4	2					4.7
7	授業の進む速さは適切であった。	5	1					4.8
8	授業で示された資料, 課題, レポートは適切であった。	5	1					4.8
9	授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2					4.7
10	自分にとって, 満足感を得られた授業であった。	4	2					4.7
11	この授業をきっかけに, もっと学びを広げたり深めたりしたい。	5	1					4.8



教員のコメント

「学級経営実践演習B」では、すべての項目において、「5」または「4」の評価であった。今回の成果としては、対面とオンラインの授業形態が効果的に機能していたことがあげられる。

期間の前半は対面授業でのグループ討議を行った。附属小学校での基礎インターンシップで院生が体験したことを共有し、それをもとに小グループで話し合うことができた。インターンシップを終えての感想や気づき、課題等を出し合う場としては、オンラインよりも対面の方が望ましい。話し手の表情や口調から感じ取ったり、つぶやきをひろったり、すぐに質問したりすることができるためである。また、教員も、8グループを巡回し、話合いに加わることができた。さらに深く質問したり、「たとえば」という提案やよく似た事例を紹介したりしたことにより、各自が目指す学級像について再考する機会となったといえる。

期間後半は、オンライン授業での実施となった。院生を2つのグループに分けて、tesmsで一人ずつ発表を行った。初めは、操作に不慣れであった院生も回を重ねるごとに、資料共有などがスムーズに行えるようになった。また、音量や話し方などの技能も向上していった。8名だと全員一斉に画面に映ることができるため、反応もよく分かり、質疑応答も進めやすかった。むしろ、提案者に注目しやすくなり、提案者もまたファシリテーターとしての役目を果たすことができていた。教室の対面授業だと発言しなくてもいいという状況も生じるが、画面上に全員が映っていると、順番に一言という流れができるため、自分から発言しやすかったり、まだ発言していない人に話題を振ったりしやすい状況となる。さらに、資料共有により、伝えたいことが画面いっぱいに映し出されることで、視覚的にもわかりやすく、聞く側も目の前の情報により集中しやすくなった。このように一人ずつ発表していく際には、オンラインの利点が際立つ。

目指す学級像にむかって、体験を通して学ぶということは、非常に重要な意味をもつといえる。今後の課題としては、さらに院生がより多くの気づきや学びを得られるようにしていくことである。個々の体験は違っても、共通する課題や効果のある実践、その理由や背景などにまで話合いができるように、より深い学びにつながるような助言を行う。グループ討議の目標や視点を明らかにして話し合い、解決策を考える経験により、今後も自らが主体となって、課題を見つけ、解決策を見出す力を養っていきたい。